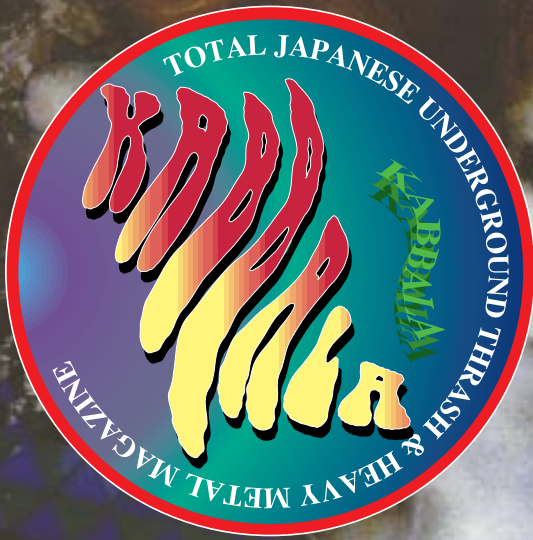


Interview:

ETERNAL ELYSIUM DEFILED DESPERATE CORRUPTION



特集 THRASH METAL IS STILL ALIVE !!

連載 なにわめたる道

地方音熱今鋼鉄~中国地方篇

何だかんだで三周年…

12 *Autumun*



#12の表紙：煌 ~きらめき~
(堺 幹夫)



KABBALA #12

CONTENTS ~目次~

- 3-8 **ETERNAL ELYSIUM** インタビュー
- 9 96.9.20目黒ライブステーション/ライブリポート
- 10 蜘蛛の巣へようこそ~HMアンダーグラウンドシーンのインターネット事情
- 11-15 Check This Bands Special **Thrash Metal Is Still Alive !!**
- 16 連載企画“第3回” 地方音熱今鋼鉄~中国地方編
- 17 新連載“第1回” 私的非難解日本進化音楽論~美狂乱編
- 18 ちょっとだけにゆーす
- 19-22 Sound Review **きいてみた感想** (26 reviews)
- 23 SIGHディスコグラフィ&最新ニュース
- 24-28 Live Reports **ライブリポート**
7/21新宿アンティノック (大砲, CASBAH etc..)
7/27&28西九条ブランニュー (PRE ROSA, EBONY EYES etc..)
8/3高円寺20000V (CEMENT, BEDLAM etc..)
8/29下北沢シェルター (GOATS, SUBCONSCIOUS TERROR etc..)
9/4難波ロケット (GURDIAN'S NAIL, HYDRA etc..)
10/4高円寺20000V (SIGH, ABIGAIL etc..)
- 29-37 New Generation Of Japanese Death Metal ~デスメタル新世代の序章
- 30-33 **DEFILED** インタビュー
- 34-36 **DESPERATE CORRUPTION** インタビュー
- 37 プロレス話 とりとめもない話
- 38 連載コラム **なにわめたる道**
第5回“ハードロック氷河期に埋もれていったバンド達とその夜明け前”の巻
- 39 バックナンバーについて、次号予告 他

ETERNAL ELYSIUM

INTERVIEW

久し振りに東京へ来たETERNAL ELYSIUM。つい先日、“FAITHFUL”がリリースされ大絶賛となったが、中身は数年前のものでありながらも、時代を越えても評価されるべき「名盤」としての資格を十分に持つものである。少し前に復活したばかりだが、既にETERNAL ELYSIUMは新たな局面を迎えつつ、それが更なる進化へと発展するものなのか、それとも音や精神面での変化を見せようとしているのかは分からない。ただ、ETERNAL ELYSIUMはETERNAL ELYSIUMでしかないといえる事は確かである。そんな事を考えながらアルバムの話やバンドの近況など、色々な事をリーダーの岡崎氏に語ってもらった。

(文責：多田 S.S.M. 進)

日時：9月20日(金) 午後5時頃

場所：目黒駅東口前のマクドナルド

話し手：岡崎(ETERNAL ELYSIUM / Vo&G)

受けて：多田S.S.M.進

まずはバンドの結成からETERNAL ELYSIUMの歴史を教えてください

岡崎 (以下略): ETERNALの一番最初は、91年の夏かな、うん。5月に前のバンドが潰れて、そのバンドのベーシストと一緒に始めた。(「RAN-JAですか」との声に)そうそう、よくご存じて(笑)、でRAN-JAが消滅したから(新しいバンドを始めたんだけど)、当時そのベーシストっていうのが俺の師匠だったんで一緒にやろうかって言って、俺がちょっと持ち上げる形でリーダー、ちょっと一緒にやりましょうって感じで。ドラマーは当時、最初はRAN-JAのSHIMADOに手伝ってもらって、で比較的すぐに村上っていうGESTALTIにかなり昔に在籍してた奴が入って、岡崎、館本、村上っていう3人でラインナップが決まったんだけど、当時俺はギター弾くつもりなくて歌だけ歌ってたんで、ギタリスト探して。でまあ「オーディションしましょうか」と、色々オーディションしたけども全然今イチピンとくる人がいなくて、「しょうがないからお前が弾いてみたら」ってしてくれる人がいて、それが俺のギターの師匠なんだけど、地元でちょっと有名な人で今は特別活動してるわけじゃないんだけど、俺の師匠であってサバスおたくの師匠で。で92年の4月にその師匠から「弾いてみたら」って言われて「じゃあ弾いてみるか」って、その時は曲が2、3曲出来て、やりはじめて、もう92年の6月にはライブをやってた。確か最初はVOIDDとSILVER BACKとABSOLUTE OBEDIENCEと、あともう一つ地元のバンドがいたと思うんだけど、そこに飛び入りさせてもらったのよ。7月には正式にブックしたのを確かBRAKERとかと一緒にやって、それから9月にはSABBATと今は亡きBRAVE BOMMERとやって。で10月には1stデモをレコーディングしたかな。1stデモ録って、月に1度はライブをやってたかな、ファームで。それで年を越えて2月にはもうアルバムのレコーディングをしたんですよ、レーベルも何も決定してなくて。ただ、デモテープ録った時点からすぐに海外にアプローチしてたから多少は「良い」ってしてくれる所があったんで、だから「そこ目当てにアルバム作ってみるか」って、その時は結束してたんだけど、2月の終わりに録り終えて3月に名古屋と大阪と横浜のツアーをして、(その時の)横浜が最悪でねえ、全部で15人位でうちのお客さんが10人位来ててNECROPHILLIAのお客さんが5人位で凄いいシケシケのライブだったんだけど...あの時は1時間くらいやって「もうサバスやったるか」って半分位サバスのカバーやって。だけどその時はドラマーが辞める事が決定してたのね、就職したから。それでベーシストとは以前からちょっと意思疎通がおかしくなってきたから、ちょっと一呼吸置こうかなって思って。アルバムは録ったはいんだけどミックスはなくて、アルバムのミックスが5月位まで延びたのね。その時はまだ彼は在籍してたんだけど、ミックスが終わって2日後位に電話で「辞めるから」っていう事で独りぼっちになって。そんな状況でやる事無いから、曲作るか海外にアプローチするしかないから、でアルバムに音源を海外にプワッと流して、そんな中で一番よかったのがBLACK MARKで。あとはROADRUNNERとかもちょっと興味を持ってくれて話をしてたんだけど、結局正式に契約しようって言ってくれたのがBLACK MARK。それが12月の頭に決まって、東京の人を通じてうちに電話がかかってきたのね、「BLACK MARKのボーエっていう社長が興味があるからやりたい」って言ってきて。そりゃもう嬉しかったよ俺は。「じゃあ話を進めましょう」っていう事になったんだけど、最初に来た契約書を見た時に「5枚契約」で、話がでかいな、と。その時点ではサインする気だったんだけど、何か考えてるんだよね、何か裏があるんじゃないかって思ってたら、実はやっぱり裏があって、俺達には殆ど金が入らないような契約で。まあインディーズレーベルだからしょうがないんだけども、だけどそれはない(酷い)んじゃないかっていう風にBLACK MARKを俺に仲介してくれた人が俺にアドバイスしてくれたのね。「じゃあ弁護士をつけたらどうだ」って言うから、俺はわからないからその人に「じゃあお願いできますか」っていう話をして紹介してもらったら、LOUDNESSとかVOW WOWをやってたっていう凄い弁護士だったのね。で94年の3月に会いに行って、そしたら赤坂のオーク森ビル何十階かって所に通されて、凄いい弁護士だったみたいで安心してたんだけど、逆に言えば俺等みたいなちっちゃい仕事だったからあんまりやってくれなかったのね。そしたら向こうの弁護士とはつきり揉めて、6月にSALEM、NARCOTIC GREED、ABYSSとやって、あの時にはちょっと暗礁に乗りかけて、うちに帰ったらFAXが届いて「白紙に戻そう」って言われて「おいおい嘘だろ！」って感じで。その前の年の12月にそういう話が来る時点でメン

バーは大体目星付いて、ベーシストっていうのは俺より年上で、元々俺はファームで働いてたから、ファームで知り合った人なんだけど、「手伝ってくれない？」っていう話になって、その時に彼が在籍してたバンドが潰れたから「じゃあこっちでやろうよ」と。ドラマーは高校時代に一番最初にやったバンドで叩いてた奴で、SABBATのTEMISと俺とそのドラマーでバンド組んでやってた奴で。それですんなり入ったんだよ。他のバンドも掛け持ちしてたんだけど、こういう話もあるし頑張ってるやろっていう事で、その年(94年)の4月に名古屋でやって6月に東京でやって、帰ってきたらFAXでそういう事になってた。当時丁度SABBATがLETHAL RECORDでだまされたかなんかで言われて、あの人達はやっぱり苦労してきたし前向きな人だから、あそこじゃなくて他に一杯あるしあって感じて、そうだなあじゃあ他のレーベル探そうかって言ってたんだけど実はあんまりしなかったのね。(ETERNALは)その頃はちょっと音楽性も変わって、たし、ひょっとしたらそのまま出なくても自分等が何らかの形で出した時に「幻の1st」って出たらどうかなあって考えてたのね。でそのままライブを続けて、結局95年の3月なんだけど...3月にバンドは潰れるのよ、変なジククスなんだけど。その3月のツアーっていうのが東京・名古屋・大阪だったんだけど、その東京がうちとGOATSとABYSSとかの「CAPITAL COMBAT」で、第2期ETERNALは終わった。アルバムの方も暗礁に乗り上げて、そこで流石にちょっとヤバイなど。だから逆にアルバムは出そうって気持ちは固まって、でもやる事は別に変わっていいやって...「修羅場」ね。ETERNALっていうのが結局もう自分のライフワークになってから「俺がリーダーでやってればETERNAL」って風になってたし、その時ブルーズバンドもやってたし、パンクバンドも遊びでジャムしたし。ギター弾ける所ならどこでもジャムリに行ってる、丁度自分の「引き出し」を開けてたのね。このブランクが長くて、1年以上だね。今のベーシストが入ったのが95年の12月で、その人を紹介してくれたのがDISGUSTのベースの遠藤で。うちのベースっていうのは普段HMを聞かない人なのね。昔は聞いてたんだけど、今はイタリオン・ロックス、プログレとか好きだし、ジェスロ・タルとかが凄いい好きだし。あとジミー・ヘンドリックスとかね、あの辺をコピーしてきたのよ。クイーンとかね。ルーツがそこら辺にあるから。俺もずっと「ブラックサバス、ブラックサバス」って言ってたんだけど、勿論トニー・アイオミが好きで言ってたことなんだけど、DEEP PURPLE、LED ZEPPELINっていうのは大きな柱だったから。それよりずっとルーツに戻って聞いてたのね、ロックンロールとか。トニーアイオミっていうのは元々ブルーズバンドやってたし、ジャスのニュアンスも持ってるから、「一体ジャスの何を聞いてたんだ？」っていうね、トニーアイオミ好きだからね、結構オタクキーだから。トニーアイオミが好きなアーティストを調べて「じゃあ俺も聞いてみよう」って...ちょっと話が脱線したけど、12月に新しいベーシストが入って、2人で曲を書いて。その時出来た曲なんて聴かせられないんだけど...超シブシブのロックで。結局幾ら新しいのを聴いても好きなもの、根底にあるもの、ルーツは変わらないよね。だから「ヘヴィロックやりたいな」って戻ってきて。で、今のドラマーに出会ったのは、ミュージックファームのレコーディングスタジオで彼らのバンドが今年の2月にレコーディングしてたのね。それでちょっと用事があって見に行った時に聴かせてもらったのね。そしたら「こいつ叩けるし、いいビート出してるな」と思って、アプローチしたら、バンド抜けたがってるって言ってね。ただスケジュール決まってるし、アルバムの録音だったから。だからちょっとタイミングを計ってたんだけど、上手くいったのが6月かな。6月の始めにはもうスタジオに入ってた。だからここまで3カ月かな。

短いですね。

短いね。本当はもっと凄いい長いことやってるような気がするんだけど...。だけどハッキリ言って今は自分のバンド人生で一番良い時期だと思うし。前のメンバーが悪いとか決してそういう事ではないんだけど、どうしても凄いい俺は遠慮があったし、自分の力量の足りない部分もあったから強くない部分もあったんだけど、今はもう何でも言いたい事いっちゃう。もうこれ以上手くはなっても下手になることはもうないよね? だからリッチーブラックモアとかジミー・ペイジみたいに指が動かなくなったとかっていう風にはなっていくかも知れないけど、今まで培われたノウハウっていうのが全部頭にあるし、それこそレゲエからデスメタルまで聴いてきたから、色々聴いてきたことに関しては負けられない自信があるし、それが素直に音に出せてきてるからね。それを上手くサポートしてくれる



し、一緒になって音作っていけるメンバーに巡り会った、そういう認識です。

今日(9/20)のライブでは新曲も演るそうなんです、最近の音っていうのは以前と比べても、もっとフィードバックしてるんですか。

今回のツアーっていうのは、3年前の音源なんだけど5月に出して、(アルバム発売記念という意味も含めて)その中から2曲はフォローしようと思って。あとは新曲1曲と、第2期ETERNALが書いた曲を今のメンバーでアレンジしたヴァージョン、それをやろうと思って。いずれは初期の、1stCDからの曲っていうのはライブでの演奏が減っていくだろうし、やりたい事がちょっと違って来たから。ただ、今は納得いってないけど、あの当時は全力尽くしたし、自信があるサウンドだから捨てるはしないし、何だかんだ付き合っていく曲だとは思って...。だからあのアルバムが好きな人もライブ来る度に毎回違う曲が聴けるかもしれないし。で、新曲っていうのはもっと幅が広がったっていう感じ。

今回アルバム出しましたよね。もう3年前の音源じゃないですか。それを出す時にリミックスしようとか、そのままお蔵入りさせようとかって考えた事はなかったんですか。

勿論それは思った。ただリミックスっていうのは元々出してそれを改めて出す、BLACK SABBATHもリミックス盤出したんだけどそれこそ意味があると思うんだけど、どうに作った音っていうのはその時のものではないわけだから、今改めて...3年でテクノロジーが変わっただろうからかなり音は変わると思うんだよね。だけどそれは「嘘」だからさ、当時のままで出した方がいいっていう結論だね、俺の中、俺一人で出した結論なんだけど。誰も相談する奴はいないし。

岡崎さんが作ったものですかね(笑)

まあね(笑)。まあ逆に初期のメンバーに悪いと思ったからね。やっぱあの時はあの3人でしか出来ないものを作ったわけだから、それを出すのは彼らに対して義務だと思ったし、ケジメだと思ったし。

何故ECLIPSE RECORDSから出そうと思ったんですか。

あの...デスおや知ってる? ECLIPSEの社長。ハッキリ言ってあの人が

よく喧嘩したんだけど、あの評判悪いよねハッキリ言って。評判悪いんだやっぱ。でも俺があの人を買ってる所っていうのは、結局俺が出そうと思ってアプローチしたんじゃないって、実はちょっと遊るんだけど、BLACK MARKの話が来る前っていうのはGEZOL氏が出してくれるっていうEVIL RECORDSから出す話があって、それでジャケットとかも作って出そうと思ってたんだけど、そこでGEZOL氏の良い所っていうのは「もっと良い話があったら遠慮なく行ってくれていいし」ってその通りにしたのね。で去年の段階で、去年の秋に丁度SABBATが動いている時期で、久々に会った時に「あの音源はどうしたんだ」っていうから「まだ出してないし、いずれ機会をみては思うけど絶対だしますよ」っていう話をして。そこでGEZOL氏が「もしあれだったらウチで出すよ」っていう温かい目で見してくれたのもあって、その時期に中橋さんから話 came たんだけど、条件的には変わらないのね。実際どれ位海外に出回るのがかっていうのではEVILの方が強いのは解ってたし、そういう意味ではEVIL RECORDSの方が圧倒的に上なんだけども...まあ熱意かな、その時の。俺は一回拒否してそれでもまたGEZOL氏に甘えちゃうっていうのはどうしても自分の中では辛かったから。...ECLIPSEから出してるんだけど、実はCORNUCOPIA RECORDSっていうのを俺が作って、それで今回のCHURCH OF MISARYとの名古屋でのライブ 9/14 日 CORNUCOPIA PRESENTS っていう風になってるんだけど、CORNUCOPIA RECORDSで作った音源をECLIPSEに提供したっていう形にしてるのね。ちゃんとそういう風に伝わってるはずだけど。まあ俺はどっちに見られてもいいんだけど、何かあるじゃない? ECLIPSEに所属している奴はECLIPSEを嫌ってる奴から嫌われちゃってるっていうさ、俺はそんなん非常に馬鹿馬鹿しいし、結局「音で勝負できない奴の戯言」でしかないからね。だからここで俺がECLIPSEから出したっていう事にしたとしても認める奴はいるし、頭悪い奴は多分わかんないんだろうなっていう、これはちょっと言い過ぎだけど。ちゃんと俺達の音を心で聴いてくれる奴っていうのはどこから出そうか関係ないと思うから。...中橋さんが抱えている問題っていうのも知ってたけど、まあ敢えて。勿論考えたんだけど、だけどやっぱり音で勝負したかった部分も強かったから、それは中橋さんの好意に甘えたのね。

出せるのなら出そうと。認めてくれるのならどこでもいいと。

だから正直嬉しかった部分があるのね。ただ俺はミュージックファームでPAやる傍ら...ってもうPAやってないよ実際は。今はデザイナーとしてMacintoshでジャケット作ってるのよ、色んなバンドの。でECLIPSEのジャケットでねえ、VOIDDとSUBCONSCIOUS TERRORは俺が作ったのね。

ETERNAL ELYSIUMのジャケットも自分で。

うん、ETERNALは勿論自分で作ったし。あれが...本業はバンドなんだけど、サイドビジネスとしてさ、Macで仕事しようと思ったきっかけなんだけども。だからそういった意味ではミュージックファームの社長にもホント大感謝してるんだけど。これは書いて欲しいんだけど、ミュージックファームの社長は山田氏っていうんだけどさ、すごい俺と喧嘩もするし、俺は単なるバイトでしかないんだよね、社員でも何でもないんだけど、じゃないとバンドで結構辛いもんだから、凄くフリーな形でやらせてもらって。そういう仕事をしている時に、俺もECLIPSEから出したっていう事もあって、「ECLIPSEのものをやらないか? ジャケを作らないか?」っていう話があって作り出したんだけど、そういう部分では今でも中橋さんと付き合いがあるのね。ただ特別俺からサポートしてくれて言った覚えは無いし、向こうもどっちかって言ったらCEMENT推した方が良いと思うしね。やっぱCEMENT良いバンドだし、ECLIPSEの中では一番CEMENTが勢いあるし。所謂フシヨットみたいな契約の形になると思う。...わかんないよ。気が変わってまた2枚目を出すかもしれないし。CORNUCOPIA RECORDSでオムニバスを作るんだけど、うちとCHURCH OF MISARYと、ひょっとしたら大阪のMILLARCAとあと海外のバンド2つ3つ誘ってやるんだけど、それはもう全部自力で金も調達して。ちょっと自分で全部やってみたくなったからやろうと思ってるし。...ところで何の質問だったか? (「何故ECLIPSEから出したのかっていう事だったか」との答えに) ああそうか。要は音を かってくれたくれた「人」っていうのはやっぱり嬉しいしね、そういう事だよ。

海外へのこだわりもあったと思っていたので、結構疑問に思ってたんですよ。

それは今の音楽性の話とも前後するんだけど、あれで全世界で完璧に認

められる次元ではないって思ってるんだけど、でも一定の評価が来た時に、必ず俺達の事は伝わってるから、あれが俺達の全てだと思われても非常に困る部分がある。だから2ndアルバムは絶対に作るつもりなんだけど、それが俺達の本当の勝負のはずだと思ってる、うん。

今のところ新しいメンバーでの新曲って出来てるんですか。

新曲はねえ、今日は1曲しかやらないんだけど、もう1曲この間の名古屋でやった曲があって。実際には3曲位出来てて、今即戦力として使ってるのは2曲。

先程の話からするとルーツが一緒だとはいえ若干変わったんですよね。

そう、俺達は変わってると思ったんだけど、この間名古屋でやった時は「変わってないじゃん」って言われて(笑) まぁそんなもんのかなあと思うんだけど、ただヘヴィメタル的なアプローチっていうのは減ったと思う。

70年代のロック的な。

そうね、フィードバックした形で。出してるギターサウンドも俺も音に関してはプロフェッショナルにやってきたから、変わってるっていうのは自分では把握してるんだけど、やっぱり聴いてる分にはそんなに変わらないし、その辺が面白い所だと思うんだけど。

最近のTROUBLEとかに近い感じですか。

ああ、近いかもしれない。最近のTROUBLEは最高だね。嫌いな人多いだろうけど、あれはロックしてる。4枚目を最初聴いた時はとっつきにくかったんだけど、あれで化けたね、あのバンドは。

音楽的な影響はどこからきてるんですか。

影響？ やっぱりBLACK SABBATHは避けて通れないし、元々音楽に入ったきっかけっていうのは、小学校1年から中学1年か2年位までかな、俺はピアノ習ってて。当時は「習わされてる 環境だったんだけど、高校位になった時に初めて音楽が好きになってきたのかな。その時はピアノじゃなくてギターが弾きたかった。でギターを弾いてたんだけど、上手くなくて全然。でもそこそこ歌が歌えたもんだからちょこちょこバンドやってたんだけど、最初に「こいつのギターに勝てねえなあ」って思ったのはTEMIS OSMONDだね。あいつとやった時に「ああ...」って。オジーオズボーンが何かのコピーやってたんだけど、「上手いわあ」って。「俺ギター弾かないから歌だけ歌うわ」って...その時ドラム叩いてたのが第2期ETERNALのドラムなんだよね。で暫くギターは弾けなかった。結局マジメにやり出したのはETERNALになってからなんだけど。...だからピアノから入って。やっぱりヘヴィなもん好きだったからねえ、だからBLACK SABBATHとか聴いたし、WITCHFINDER GENERAL、TROUBLEも好きで聴

いたし、ST. VITUSでガツンとやられたし、とにかくヘヴィなものヘヴィなものを追い求めた。

NWOBHMの影響っていうのもあるんですか。

ああ、それもある。それは否定できないし。今でこそあの時代のNWOBHMのB級バンドって言われるものっていうのはやっぱり聴けなくなっちゃったけど。ちょっと偉そうに言うけど、自分の方が上手くなったから。だけどSAXONはいまだに好きだし、IRON MAIDENも初期の2枚、ポール・ディアノがいた時代っていうのは凄いい好きだし、SAMSONもよく聴くし。WITCHFINDER GENERALは上手いバンドじゃなかったけど、やっぱりわざとらしいんだけど「またここからサバスをバクって...」みたいなバンドだけどそれが逆に面白かったりするし。ANGEL WITCHに出会ったのも大きかったし。ANGEL WITCHの影響は大きかったね。昔カヴァーしてたもん「White Witch」とか「Extermination Day」とかね。

聴いてみたいもんですな(笑)

ああ...でも当時誰も知らなかったもんね。

ETERNAL ELYSIUMが出てきた時は丁度CATHEDRALが出てきた時期で、ドゥームっていう事でいっしょくたにされてたじゃないですか。

あれはねえ...CATHEDRALが1st出した時っていうのは凄いいドキッとしたわけじゃなかったのね。ただ「やられたなあ」と思ったのは、速い曲ってたんだけど、当時から遅い曲やるのは一緒だったのね。スローな物の方がヘヴィだと思ってたから、ヘヴィな物やりたくて。で、そういうバンドやりたいなって画策してた時期もあったんだけど、偉そうに言えば「先越されたなあ、リー・ドリアンにやられた」みたいな感じだったのね。特に2ndが出たときにはもうドキッとしたし。あれは化けたねえ、あれはもうやられたし。ただ「ギターは俺に弾かせる」と思うけどね、ライブ見て思った感想は、ギャズ・ジェニングスは上手くないけど素直にトニー・アイオミ好きだなんていうのが出てくるから好感持てるし。でもあのバンドはリー・ドリアンだね。リー・ドリアンのあのパフォーマンスはもう凄いい。うん。ヘタウマの魅力だね。

ETERNALがドゥーム・メタルといっしょくたにされた事に關してはどう思いましたか。

でも本当はいっしょくたにされたかった部分もあったの。ドゥーム・メタルって聴いて凄いい好きだったんだけど、今俺が呼ばれたいのは「ロック」って言葉で呼ばれたいんだけど、メタルっていう響きが別に嫌とかじゃなくて、逆にヘヴィメタルという言葉に当てはまらないような音楽になってきたと思ってるから、「ヘヴィ・ロック」とか言われる方が凄いいタリくるかなあって。

ヘヴィ・ロックと言われたいですか。

結局今のバンドっていうのは、ジャンルが確立されてきた上でやってるから、絶対「こういうジャンルだ」って言われちゃうけど、でもあくまでも「オリジナル」をやってるわけだから、おこがましいけど立場的にはLED ZEPPELINであったりBLACK SABBATHであったりDEEP PURPLEであったりURIAH HEPPであったり、そういうヘヴィな物を作ってきた人達と同じ物をやりたいのね。だから俺達も新しいジャンルを作りたいと思ってるんですけど、ただ一番馴染むのが「ヘヴィ・ロック」かなあ。

プログレッシブな展開をみせようとか考えた事はありますか。

特に第2期ETERNALはドラムの奴がKING CRIMSON好きだったのもあるし、俺もCRIMSON好きだし、ベースはQUEENS RYCHEとかあいう形の「進化した物」が好きだったんだけど...上手いかなかったんだけどね。(プログレッシブな展開をみせよう) と思った事はあるんだけど、ただ本当にやりたいのかって言ったら違ったのもあるから...。自然にジャムってて曲が出来た時に、気が付いたら「えらい難しいことやってるなあ」って、言われてみたらプログレッシブだって言われたら「ああそうなのかな」と思うか



も知れないけど、意識的に作るうってのは間違ってるし、「音出してみようか」って生まれた物が曲でしかないし、それが自然だしね。そうありたいなと思う。

1stっていうのはデモにしてもアルバムにしても凄く練られてるなと思ったんですが、今後はもっとラフになっていくんですか。

どうだろうなあ...方向性決めちゃうのはあんまり好きじゃないけど、多分予想するにそこまでラフにはならないと思う。今でもジャムって曲はやるんだけど、結局最後に組み立てる作業をする時っていうのは、みんな面と向かって楽器を入れて、こういう感じていったらどうだってBメロ削ってみようかって感じて曲を組み立てるから、今はその方が合ってる。

アルバムでは日本音階が取り入れられてますよね。あれというのは意識して取り入れたんですが、それとも自然に自分の中にあっただものですか。

それは両方だと思う。さっきもRAN-JAっていうバンドの話が出たけど、RAN-JAっていうのは臭い言葉なんだけど「ジャパネスク・ヘヴィメタル」っていう事を謳ってて、当時は歌だけだったんだけど(岡崎氏はVoとして参加)ギタリストっていうのは今でも好きなギタリストなんだけど、ジャパネスク、日本音階をロックに取り入れたっていう意味ではFLOWER(FLOWER TRAVELLIN' BAND)がやってるんだけど、そんなにヘヴィじゃなかった。今思えば凄くヘヴィなんだけど、判り易い部分でヘヴィメタっていうバンドないと思う。それで自分がギター弾いた時にその響きが凄く新鮮で、「ああ日本音階ってこんなに面白いんだ」って気付かされた部分があるから、要は与えられたテーマだよ。それが手癖で自然と弾いてるうちに自分の物になっていった。だからETERNAL組んだ時っていうのは、自然とそれが出ちゃった。もともと与えられたテーマなんだけど、自然とそれが出たし、今でも出るし。

洋楽指向の日本人っていうのはそういうのをひた隠しにしようとする傾向が強いのにそれを自然と出してしまう所が面白いんですよね。そこまで日本に拘るとすれば歌詞も日本語にしようとか思いませんでしたか。

それは思わなかった。日本のロックをやるつもりは無かったから。よくある意見だけど「英語の方が曲に乗りやすい」と。それもあるし、俺英語好きなんだよね。カラオケ行ったらあんまり英語の歌とか歌わないんだよ。歌うとしたら演歌なのよ。日本語でやろうとしたら俺は演歌しかやりたくないのね、歌を歌うとしたら。だから自然に...日本語っていうのは馴染まなかったしね。英語で歌った方が自然だったし、「日本人向け」にやるつもりっていうのも全然無かったから。そういうオリエンタルな部分っていうのは絶対に拭い去れないじゃない、どうやったとしても。だからそれを隠す必要は無いわけだから、それは実際武器になってると思うし。今後増えるかもしれない...結局日本語を使ってる人種っていうのは圧倒的に少ないわけだよ。大和民族しかいないわけだから。自分は和民族だし、それは否定しないんだけど、でもベクトルはずっと外に向いてたんじゃないかな。だから自然と日本語を選ばなかったし、英語で歌ってると。俺が日本で全然プロモーションしなかったのもあるけど、向こうの人っていうのは凄く素直なんだよね、反応がさ。だから例えば当時のファンジンとか読んで、向こうでSALEMが凄く評価高かった時に「凄いなあ」って思ったのね。まず自分がプロモーションしようと思った時に返事が返ってくると思わなかった。だけど返事は一杯返ってきたのね。その中には分かってる奴も分かってねえ奴もいたんだけど、とにかく反応があるって事が凄いなあ。日本ではそれこそ東京もあんまり行かなかったし、名古屋でやったんだけど、自分だけ海外に向けてベクトル発信してる名だけど、突っ張ってるだけだったのね。分かってもらえてなかったから、ちょっと閉き直った部分もあって、「じゃあもっと海外向けに」って。今でこそ良いって言ってくれる人がいるし、こうやってインタビューして貰えるから、やって良かったなあと思うけど、当時は悩んだのね。「(日本でリアクションが得られないのは)何でかなあ」と思ったし。

デモテープ聴いた時も「タダモノではない」って思ったんですけどね。

タダモノではない(笑)

こういうサウンドって数少なかったから新鮮ですよ。ところで話は変わりますが、歌詞はどんな事を言っているんですか。サウンド的には物語とか、そういったイメージが強いんですが...

CD? 歌詞はねえ、トータルコンセプトは全然無くて。例えばアルバムの中では凄く矛盾してる事も歌ってるのね。というのは、人間的にポジティブであれば多分CDの頭からケツ迄100%ポジティブな事を歌ってるべきだと思うんだけど、その当時は1曲1曲に意味を持たせて、例えば1曲目の「Sunrise Again」っていうのは悲しい物事を歌っていくんだけど最後には救いがあるよっていう部分で前向きなものを歌ってるんだけど、次の「Doomsday Recitation」ではスコーンと落としちゃう。だからそういった意味ではアルバムを通しての意味っていうのは、あの時には何も無いし、そこまで考える余裕は無かったしね。1曲1曲っていうのは詞を読んでもらった方が速いと思うから敢えて説明はしないんだけど、50%はあの当時の俺の思ってる気持ち。残りの50%は創作なんだけど。あの時考えてた事っていうのは今も変わらないけど、地球について凄く興味があって、例えば「愛」って言葉があったとしても人類愛だったり恋人の愛だったりとかあるんだけど、地球の「MOTHER EARTH」みたいな部分が凄く強くて、大体「愛」って言葉はどっから生まれたんだ? っていうたら、人間が生まれてきて「ああこの世に生まれて良かったなあ、地球さん有難う、神様有難う」っていうね。なのにどンドン破滅に向かってるっていう所から、その歪みを歌いたかった。それは「Ancestral Message」っていう曲に100%集約されてるんだけど、あの当時言いたかった事っていうのは「Ancestral Message」。祖先からのメッセージっていう事なんだけど、今はちょっと変わってて、俺は今凄く良い環境なのね...内臓悪いし、痩せてるでしょ? 俺、体悪いんだけど、精神的に凄く良い状況にあって凄くポジティブなのね。今日は「Even Rights」っていう新曲を演るんだけど、平等の権利っていう事ね。詳しい説明は危ない事だからちょっと避けるんだけど(笑) 要は色々な社会のルールがあって色々な制限があって、その中でしがらみで生きてるんだけど、そんなしがらみが無かったらもっと幸せじゃない? という事が歌いたい。もう1曲、この間やった新曲もそのものズバリそういう事なんだけど、そういうのが無ければ普段一緒にやってるバンドとかももっと仲良くなれるし、町とすれ違う人もニコッと出来るなあっていう。

ジョン・レノンに近いですね。

まあ言ってる事はね、うん。多分そうなたとしたらもっとメジャーから声がかかるはずだよ。でもそうならない所が俺のやってる音楽の面白い所だと思うんだけど。俺はメッセージとメロディっていうのは必ずしもシンクロするもんじゃないって思ってる。俺の中で合えばいいと思ってるから、例えば半音進行でドロドロにきてるんだけど「I Love You」って言ったって別にいいんだよ。

ところでETERNAL ELYSIUMっていうバンド名にはどんな意味があるんですか。

ETERNAL ELYSIUMって、例えば知り合いのアメリカ人に読ませて読めない奴が多いんだよ。それもあってデモテープに発音記号載せたんだけど、「イターナル・イリジウム」なのね俺達って。簡単に言えば極楽浄土の事なんだけど。永遠なる天国っていう直訳もあるんだけど、実は最初凄く俺はELYSIUMっていう言葉に抵抗があったのね。まず覚えられないし、元々がギリシャ神話からきてる言葉で、でも俺等のコンセプトっていうのは音的には日本音階だし、言葉のメッセージ的には国境を越えたものであるから別にギリシャ神話から引っ張ってくる必然性は無かったんだけど、当時のベーシストは凄く人で、そういったレベルの物ではなくて、例えばギリシャ語であったとしてもELYSIUMっていうのが凄く神聖な言葉なのね。天国って言っても、例えばその人にとっての天国が地獄だったりするわけだし限定できないんだけど、そうじゃなくてELYSIUMっていう言葉の中天国っていうのは、本来の意味では人々が描く天国の理想の形っていうのがあって...うん「理想郷」。誰だかって死んだら天国行きたいのは確かだと思うんで、それは例えばデスメタルやってる人達だってブラックメタルやってる人達であっても自ら地獄に落ちたい人なんてまずいないと思うし。ちょっとこれは限定しちゃうかもしれないけど、そう思ってるし、俺もそうなりたかったから。「極楽浄土、ああいいじゃん」って。ETERNAL ELYSIUMっていう言葉は実際にはないんだけど、もし使うとしたら確かMEGAETHかなんかの曲にあったんだけど、ELYSIUM FIELDっていうのがあって、あれだと比較的通じるらしいんだけどね。そういう言葉になる可能性もあったんだけど実は。バンド名色々書いて「ELYSIUM FIELD」があ...これでもいいけどちょっと違うなあって思って。俺は凄くETERNALっていう言葉に拘った。凄くその言葉の響きが気に入ってた

し、「永遠に」っていうね 意味も気に入ってたし。当時ダンスグループで今もいるけど、いるでしょ？ やられたなあ。こりゃあかんわあ、じゃあどうしよう...ETERNAL ETERNAにしようかとかね(笑) 色々考えたんだけどね、それはちょっといかんだらうと。じゃあベースに「何がいい？」って聞いたら「ELYSIUMって言葉を使いたい」と。つなげてみたら、まあ読みにくいけどいいよね、って。意味を考えれば素晴らしい。

話は変わりますが、最近の日本のシーンっていうのはどう考えますか。ミュージックファームで働いて色々考える所もあると思うんですが。

ヘヴィメタルバンドの中で凄いなと思ったのはSALEM以外ないかな。カッコいいと思うバンドは一杯いるんだけど、でも「こりゃ凄いわ」って諸手を挙げて万歳っていうのでSALEMは凄いいバンドだった。むしろ他のハードロックのバンドであるとかスカのバンドであるとか、そういうバンドの方がバンドの音として完成されている部分とか良い音を出してるなって純粹に思えるのはそういうバンドの方が多いし。特に名古屋はスラッシュメタルが盛り上がってたんだけど...あの時は凄いいパワーあったよね。いつもその音を俺がPAとして出してたし...でもジレンマもあった。俺は別にスラッシュメタルシーンに存在する人間ではないんだけど、でもあれはお客さんとバンドが一体となって凄いなっていうのはあった。けど結局名古屋で一番凄いいバンドっていうのはPSYCHODEMENZ。PSYCHODEMENZは凄いいバンドだし、カッコイイし、あのバンドは一步でっかくなると思うんだけど、他のバンドは俺はみんなドングリの背比べかなあって思った。

これからまたヘヴィメタルが浮上してくる時期がくると思いますが。

もう今は例えばハードロックと言われた時にみんな挙げるバンドが違うでしょ？ ポップスって言われた時にもそうだし、音楽性が多分こんなだろうなって思ってもみんな挙げるバンドが違うし、ヘヴィメタルも同じだと思うのね。ヘヴィメタルだと言われて俺等の世代なら「BLACK SABBATHだあ！」って言ってたし、METALLICAでヘヴィメタルを聴いた奴もいるし、SEPULTURAで聴いた奴もいるし、ヘヴィメタルだと言われてるのが知らないけど、それこそFEAR FACTORYに触れて初めてそういうエッジの効いたものに触れたりする事もあるわけだから、もう関係ないと思うけど。だからもうそんな域じゃないと思うんだけど。どんなバンドと一緒にやっても俺はいいと思う。

今後の予定について教えていただきたいんですが。

今後は10月の中頃からオムニバス用のレコーディングがあって、それを年末か来年の頭にリリースする予定。さっき言ったメンツでやるんだけど。冬の間はそんなに精力的にライブはやらなくて。新曲を書きたいしね、マテリアルを増やしたい。とにかくスタジオでジャムっていたいっていうのが強くて。それで確定じゃないけど春頃からまたライブをガンとやりたいな。

海外っていうのは考えてますか。

ああ、それはすぐに考えてますね。CHURCH OF MISARYがイギリスとアメリカから出るし、それはもうササガだと思うしね、あの行動力は。だから「イギリスツアーやろうよ」ってたつあんと話してるから。「じゃあ俺等も行きたいなあやろうやろう」って。ヨーロッパツアーは俺等もやりたいし。

オムニバス以外の音源についてはどうですか。

アルバムはもう、ある程度マテリアルが出来て...タイミングだね。今なら良いのが出来るぞって思った瞬間がぱっちりサウンドに合えば、その時にスタジオ押さえてじゃあ録りましょう」って。で録って、その時はリリースの事なんか多分決まらなと思うのね。それから探せばいいかなって、うん...デモテープはないね。俺テープって凄いい好きなメディアだけど、何て言うのかなあ、気息過ぎちゃうのね。CDも好きじゃないんだけど。自分がLPを初めて買った時っていうものと逆転した発想でさ、やっぱ凄いい物を作りたい。それがやっぱテープっていう事になったとしたら、音的にはダイナミックレンジは狭いし、そんな物で表現出来ないっていうのがあるし、今っていうのはCDの時代だから仕方ないんだけど...CDだね。

最後になりませんが読者にメッセージがあればお願いします。

メッセージか...何でもまず聴いてみる事が、やっぱり音楽だから、色々な物を聴いて音に楽しんだ方が良くと思うから、予め聴く物を限定し

ちゃう聴き方っていうのは凄く損をすると思うし。別に俺達の音を聴いてくれてっていう強制はしないんだけど、特にこれから出る俺達の音源っていうのは要注意だと思うし、必ず良い物になるに決まってるって断言したいから、注目して欲しいなと思う。あとは..変な噂はよそうねっていう事です(笑) ポジティブにね。とにかく変な所で足を引っ張りあってるって言うのはねえ、仕事上第三者的な立場で見れる事が多かったから、それは止めた方がいいんじゃない？ そんな事してる間に良い音出してるバンドも全部俺達が追い抜いちゃうよ！ っってね...良い事言うなあ~俺も(笑)

*** **

インタビュアーの力量不足が目立つかも知れないが、現在のETERNAL ELYSIUMをこのインタビューで感じとってもらえれば嬉しい限りである。岡崎氏はバンドやサウンドについて一つ一つ熱く語ってくれた。とにかく岡崎氏は音楽というものを心から愛していると思うのだ。その精神がだけでもわかっただらうと思う。聴き手側からも色々考えさせられることはかなりある。読者の中でもETERNAL ELYSIUMを体験したことがない人がいたら、是非触れてみて欲しい。絶対に何か得るものはある、と思う。

c/o CORNUCOPIA RECORDS

〒465 名古屋市東区よもぎ台3丁目220-2メゾン社301

ETERNAL ELYSIUM DISCOGRAPHY

(文責：多田 S.S.M 進)

"FAITHFUL '96

本来ならBLACK MARKレーベルからリリースされる予定だったもので、93年に録音されていたものが紆余曲折の末に、96年ようやく陽の目を見ることとなったCD。経過はどうかあれ、海外に認めさせただけのものを持つバンドであるというのがよく分かる内容だ。BLACK SABBATHの和洋折衷といった感じで、雰囲気などに日本的な趣きを感じさせる辺りは流石である。8trx収録。



"ETERNAL ELYSIUM" DEMO '92

92年にリリースとなった1stデモ。ドゥームメタルが世間に認知されつつあった時期に出てきたわけだが、単にスピードが遅いだけのものとは異なり、HMとしてのドラマ性をしっかりと持っているのがわかる内容である。徹底した追及と吸収によって生み出された音は非常に重厚であり、確固たる存在感がそこに感じられる作品である。当時のマニアはこれに唖ったのである。3trx収録。



元SALEMの三上氏の新しいバンドCHURCH OF MISARYが衝撃のデビューを果たしたのは半年以上も前の事である。この日まで目立った動きが無かったので心配していた人も多かったと思うが、水面下では様々な行動を起こしていたようで、この日も自身の企画「ART OF FILTH」で健在振りをアピールしていた。スラッシュ、デス勢の中でも強力な2つのバンドに、名古屋の重音楽界屈指の追従者を迎えてこの日のライブは、否応なしに見る者を圧倒させてくれるであろう、という大きな期待を抱かせるに十分なセレクションだ。今年の混戦を続けるセリーグの直接対決にも近い緊張感と高揚感が漂う雰囲気の中で、今か今かと開演を待っていた。この日は6時20分頃から始まったのだが、6時半だと思っていた人も多かったようで、開演時は客がまだまばらだったものの、6時半を過ぎたあたりからソロソロと増え始めてきた…。

TERROR SQUAD

まずはTERROR SQUADの登場である。ここ数ヶ月の彼らのライブは気合い充分だというのは痛い程わかるのだが、それが上手く聴き手に伝わらずに歯痒い印象を残すこともあった。だが、この日はそんなモヤモヤを吹き飛ばすような快調なライブを見せてくれた。このバンドのライブは勢いを重視しがちな分、粗さが時折露出気味になるので、長所と短所の両面が全体通じて感じられることも少なくないが、この日は不思議な事に(?) 勢いや気合いが良い方向に昇華されており、このバンドならではのパワー全開のライブが存分に味わえた。元々安定した演奏をするバンドだけに全ての面がプラスに働けば本領を発揮するのである。この日のライブはそれを見事に証明してくれた。TERROR SQUADを見て鳥肌が立ったのは久しぶりだ。この日は「Broken」以外の5曲とCASBAHの「Low Intensity Warfare」のカヴァーを披露。ラス前の「Souls Of Obscurity」から間髪入れずにあの掛け声が入った時には、あまりの格好良さにゾクッときた。この日の猛打賞はTERROR SQUADに決定!!

DEFILED

かなり強行な全国ツアーを無事終えたDEFILEDだが、この日はそれらが無駄ではない事を見事に証明してくれるものであった。8月のシェルターは音がクリアだった分、少し物足りなかったが、この日はかなりの殺傷力を持つ鼻音爆弾といった感じで非常に激しいテンションを保ちながら最後までぶちかましてくれた。迫力のある音の塊は、不快感と快感が紙一重で、これの「快感」を知ってしまったら最後である。後はエロ小説の主人公のように理性をかなぐり捨てて本能だけで求め続ける発狂地獄へと足を踏み入れるだけである。この日は30分以上と長いライブだった事もあって少しばかり疲れたが、それも心地良いものである。激しい音の割にはステージン

グが淡々としており、メンバーの形相などの威圧感は濃かったが、この日は長丁場だっただけに全体通しての流れにメリハリが欠けてしまったのは残念である。好き者以外も納得させるだけのものを持つバンドだと思うからこそ期待したい。

ETERNAL ELYSIUM

さてETERNAL ELYSIUMの登場である。CD「FAITHFUL」が好評だが、激路線で攻め抜いた前の2バンドと比べると全く異なった雰囲気を持つだけに、人によっては戸惑ったかもしれない。ステージ上に焚かれた御香が何とも言い難い雰囲気を発散しており、自然と観客をETERNALの世界へ引き入れていくのである。演奏が始まってからは、半ば呆然自失の状態で立ちつくすのみであったが、次第に我を忘れて夢中になっていった。かつての厳肅な部分や叙情的な趣きを残しながらも、以前と比べて体中から湧き出るような自然体のノリが前面に出ており、多少サウンドの幅が広がった印象を受ける。躍動感溢れるリズム隊が生み出すノリは非常に心地良く、下手すればのっぺりしかねない曲調にしっかりとメリハリを与えている点は見逃せない所で、現在のETERNAL ELYSIUMにとっては必要不可欠なものとなっている。音に多少の変化はあったものの、根本は変わっていないので、今まで聴いてきた人を失望させることは無いだろう。クセはかなり強いが、独自の雰囲気をしっかりと持つバンドの強さをひしひしと感じさせてくれるライブであった。この日のステージ上での岡崎氏はどこも神秘的にすら映った。これもまたETERNAL ELYSIUMらしいといえば、らしい所かもしれない。

CHURCH OF MISARY

前回(2/18)を見逃したので、今回初めて見る事になった訳だが、このバンドはドゥームメタルというよりもサバスの影響が強いヘヴィロックといったところだろうか。イメージ的に言えば、最近のC.O.Cや、4枚目以降のTROUBLE辺りにも近い印象を受ける。ドヨーンとした重苦しさではなく、70年代のHRあたりにも近い、単純にロックとしてのノリの良さが音全体にうねりを与えており、これらの流れに身を委ねるのは非常に心地良いものであった。そういった意味では、この音の方向性はライブ向けと言えるが、単なる雰囲気もので終わってしまいかねない危険性もはらんでいる痛ところだ。過去にデス/スラッシュのバンドでVoをとっていたとは思えない朝枝氏のVoは味があるのだが、もう少し深みが

あれば尚良い。素材は良いので、あとはそれに磨きをかければ更に身を委ねられるのだが…。もっとライブを行なって欲しい。ライブ向きの音だからこそ、根底にあるプリミティブなノリを上手く活かして欲しい。今後の動向に注目したい。

DEFILED SET LIST

1. Nihilism
2. Fall Into Dilemma
3. Rush Of Hostility
4. Crush Enemy Rising
5. Bottom The Mind
6. Defiled
7. Defeat Of Sanity
8. Boiled In Limbo
9. Addicted To Occult Oath

ETERNAL ELYSIUM SET LIST

1. Opening SE ~ Faithful
2. Zen
3. Behind
4. Even Rights
5. Ancestral Message

「RAN-JA DEMO '90

あの岡崎氏が参加していたバンドとの事だが、このデモには参加しておらず、SPECIAL THANKSに名を連ねているだけである。音の方もNWOBHM(特にIRON MAIDEN)の影響が強いHMで、これはこれで好きなのだが、ETERNAL ELYSIUMに通じる部分は少ない。ただ、日本的なものととの融合を意識していた辺りは今に近いのかもしれない。ちなみにBalは、デモやCDで演奏していた館本氏である。

ちなみに1stデモでのレーベル名は「RAN-JA」という名前で、ここからとったものと思われる。



蜘蛛の巣へようこそ

アンダーグラウンド
メタル・シーンの
インターネット事情

猫も杓子もインターネットのご時世、ご多分に漏れず日本のアンダーグラウンドシーンで活躍しているメタル及びその周辺で語ることの出来る幾つかのバンドもホームページを持っているのでここに紹介したい。とは言っても確認できたのは僅かに3バンドである(96.9.18現在)。寂しいぞ!というわけで誰それ構わず持たなきゃいかん、とは言わないまでも全世界へ広く自分達の音をアピールする機会の一つとして、検討の余地は大いにあると思うのですが如何でしょうか。それはバンドだけではなく、レーベル、雑誌に関しても言えます。んな事言うならてめえがやれ! と言われそうですが、もし読者の皆様からそういった要望が多いようでしたら、その時はかなり前向きに検討したいと思います(どうせ大したもの作れないだろうけどさ...)。そんなこんなで、GUARDIAN'S NAIL、ROSERICH、MINORITYという3バンドについてサーフィンしてみた感想を述べさせていただきます。

GUARDIAN'S NAIL

言わずと知れた? 東京のパワーメタルバンドだ。なかなか凝った作りで、情報的にも基本を十分踏まえているし充実している方だと思う。ニュースは毎月に更新しているようである。SOUNDとしても新作より"Passion Red"のサビ前後をサワリだけ聞くことが出来る。さすがにいかにもガーディアンらしい聞かせ所を持ってきたものだ。これは余談の部類に入るが、せっかくだからもっとマニアックに、例えばツアー日記とか私的なバカ写真を公開しちゃうとか、資料的な意味合いで過去のライブのセットリスト一覧とか、はたまたガーディアンの記事が載ったスクラップを一挙公開してしまうとか、もっと悪ノリして欲しいなあ、個人的には。どうっすか? KYOさん。ファンなら一度はアクセスすべき。

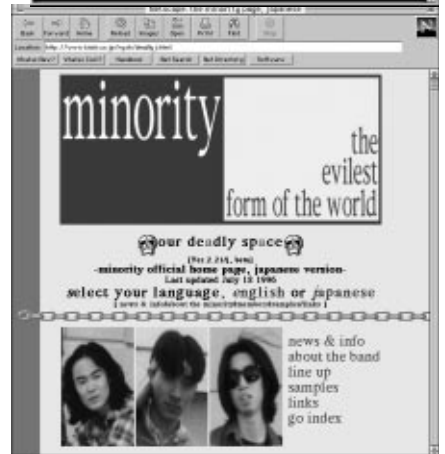
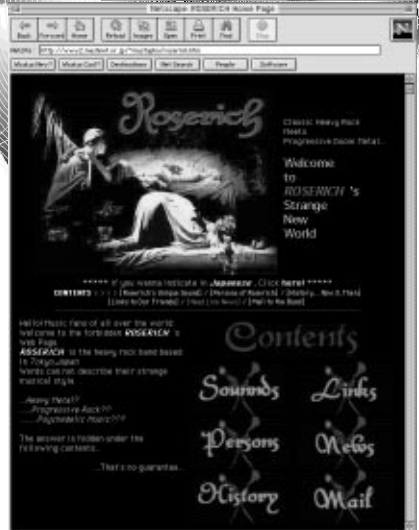
ROSERICH

東京を中心に活動している「Classic Heavy Rock Meets Progressive Doom Metal」という、70年代風の暗い湿り気のあるサウンドを持ったHRバンドである。結成は89年と意外に古く、現在までにデモを2本リリースしている。ホームページの内容はHistory、Members、Sounds等基本的なところは押さえており、見た目にもなかなか雰囲気の良い出た作りとなっている。現在バンドはマネージメント・オフィス、レコード会社を探しており、来年リリース予定のフルレングス・アルバムのプロダクションの真っ最中ようだ。70年代のヘヴィロックやヘヴィな要素を持つプログレが好きな人は是非チェックして欲しい。

MINORITY

愛知県出身のデスメタルバンドのようである。と言うのも、このホームページで初めてその名前を知ったからなのだが(単なる私の知識不足というのもあるかもしれないが)こういう出合い方もあるのね、ってな感じで若い13人組のようである。SOUNDとして"Mission"というインストを聞くことが出来るが、ピアノによるメロディアス系デスメタルによくあるタイプの雰囲気物で、ちょっとMINORITYというバンドを把握するまでには至らなかったのは残念。今後は「これがMINORITYだ!」っていう曲をSOUNDとして聞けるようにしてもらいたいものだ。DrがVoをとっているという事で、MORBID ANGEL(いつの話だ)か、はたまたEXICITER(古いねえ、しかもデスじゃないし)か、ってな具合で頑張ってるものだ(どんなじゃ)。

尚、アドレスは右記の通りである。ちなみに3バンド共(基本的に)リンクしているので、1ヶ所行けば他の2バンドも見れます。他にもマニアなら楽しめそうなサイトにもリンクしているので、そちらも楽しんでみてください。これから確認次第、随時報告していきたいと思いますので、ホームページを持ちました、というバンドはご連絡下さい。(文責:すぎ)



GUARDIAN'S NAIL

www.kt.rim.or.jp/kyo/guardian.html

ROSERICH

www2.meshnet.or.jp/mustapha/roserich.htm

MINORITY

www.kishi.co.jp/ryoh/deadly_j.html

CHECK THIS BANDS 特別企画

THRASH METAL IS STILL ALIVE!!!

このコーナーは毎号読んでくれている読者の方はご存じかと思うが、KABBALAが今後大化けしそうな可能性を持つバンドをピックアップして紹介するコーナーである。ただ今回は特別企画という事で、タイトルにある通りのスラッシュ・バンド特集である。

現在の下火になりつつあるスラッシュ・メタル・シーンの中でも踏ん張り続けるバンドが数こそ少ないものの確実に存在している。本誌読者にはTERROR SQUADあたりを思い浮かべて欲しい。このコーナーで紹介するバンドは、これからのスラッシュ・メタル・シーン復興の原動力となる可能性のある(いや是非なって欲しい!)バンドを、S.S.M.が独断と偏見のみでセレクトしたので、保証なるものは全く出来ないが、どのバンドも絶対にクオリティは高いと思うので、興味を持った人がいたら是非ともチェックをしていただきたいと思う。

あと「このバンドがないぞ!」と思った人、自薦他薦は問いませんのでご一報をお待ちしております。

(文責: 多田S.S.M.進)

質問Q

- ! .メンバーの名前
- " .略歴
- # .活動状況について
- \$.音源
- % .影響を受けたバンド
- & .今後の活動予定
- ' .自己アピール
- (.コンタクト先

NEGAROBO

! G&Vo. 早坂 雅史
G. 原 広行
B. 市川 紀和
Dr. 鈴木 政行

" 1989年、札幌にて当時Bの谷口(現GOD'S GUTS)を中心として結成された。その他のメンバー森(G)早坂(G)紀伊(Dr)小磯(Vo)のメンバーで活動が始まった。当時の音楽性はハードコアにメタル色をミックスさせたハードコア寄りのスラッシュで始まった。森が脱退しSATANIC HELL SLAUGHTERを作り、紀伊も脱退しFAST DRAWに加入し、数々のメンバーチェンジを繰り返し、現在のメンバーとなった。音楽性はREAL AGGRESSIVE THRASH METAL。

月 1回、札幌で行われているSURVIVE RECORDS主催のライブ“OVER KILL”に参加。年に1回東名阪に遠征している。

\$ ニガロボ・デモ 3は入手可能(¥500)だが、デモ1、2は入手不可。

% TESTAMENT、ANTHRAX、EXODUSからはじまりSEPULTURA、ENTOMBED、SLAYER、DARK ANGEL etc.....

& 予定は月 1回の“OVER KILL”参加。とりえずそれだけです。

' 日本、いや世界にスラッシュバンドが数少ないと思います。その中で生き残ってやっているバンドの一つとして札幌のNEGAROBOがあります。NEGAROBOのサウンドはめっちゃスラッシュで、こてこて系です。よろしく。REAL AGGRESSIVE THRASH METAL。

(〒001 札幌市北区北36条西2丁目3-2-102 SURVIVE RECORDS



AZAGTHOTH

! Vo&B. 村井 彰宏
G. 向川 博
Dr. 青木 勝行

" 高校時代の同級生が集まり、平成 2年(90年)に結成。4人で活動していたが、サイドギターが脱退してトリオ編成で活動を続ける。再びサイドギターが加入するが音楽性の大幅な違いがもとで脱退。トリオに戻る。平成7年(95年)に1stデモテープを作成、今に至る。

1stデモテープ BLOOD BOIL HIGH *送料のみで無料配布(入手可能) Lard Rec.コンプCD' INITIATION *2曲提供 / ¥2600(入手可能)

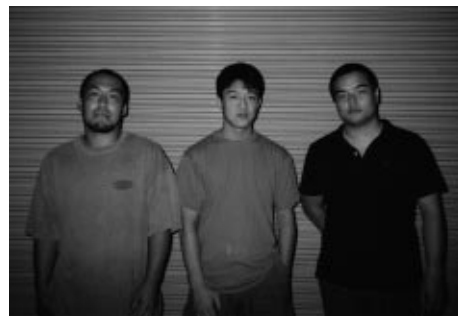
\$ だいたい月 2回ベースでライブをしています。

% SLAYER, KREATOR, VENOM, BLACK SABBATH, SODOM

& 今年 10月に2ndデモテープ作成予定。

' 我々は主にジャーマンズスラッシュをベースにしたバンドです。それものが好きな人はライブにこぞって遊びに来てください。

(〒271 千葉県松戸市栄町2-125-17ヴィルヌーブ101 向川 博



THE FAR EAST INDIAN

! Vo. MONKEY
G. GIAN
G. HAL
B. ABUKIN
Dr. TATSU

" TORMENTERのMONKEY&GIANとBRAIN SURGERYのHAL&ABUKINが集まり95年春結成。後に元BARRIADAのTATSUが96年3月よりヘルプで加入。

月 1~2回、主に目黒ライブステーションを中心にLIVE。現在 9月上旬 CD発売に向けてレコーディング中。

\$ 今のところ音源はなし。

% MONKEY U2, ポブ・デュラン
HAL Metallica, Red Hot Chilipeppers, Alice In Chains
GIAN Megadeth, Suffocation, ジェームズ・マーフィー
ABU ベイエリアスラッシュ, 80年代中期の洋楽
TATSU Metallica, Exodus, Testament, Flotsam&Jetsam

& CD制作中、年内発売予定。11月2日のライブでDrが脱退なのでライブは未定。

' NEO GROOVE METAL & INDIAN'S ROCK。百分は一見に如かず。LIVEはぜひぜひ見てください。Dr募集中、ちょっとでも気になったら連絡ちょうだい。

(〒 194 町田市中町2-9-22 SQUARE HOUSE 209
坂田 涼太 tel 080-89-26798



CRACKED BRAIN

! G&Vo. 小出 健一(エディ) ex X, ex レチエッド
B&Vo. 松本 宗晃(ムネ) ex IRON CRAW
Dr. 浜飯 尚哉(ハマジ) exサムライブロンディーズ

" 1993年7月結成。当初5人編成でツインギターのもう一人は現D.T.R (ex X JAPANのタイジのバンド)の黒田くんでした。Voも音楽性の違いで脱退。1995年6月より3人編成で活動中。

月 1~2回のペースでライブ活動中。目黒鹿鳴館、新宿アンティノックを中心に活動中です。

\$ 現在デモテープ制作中。

% SLAYER, MOTOR HEAD, SUFFOCATION, DISMEMBER, DEICIDE

& これから日本のスラッシュ・シーンを発展させるために企画やイベントをやるつもりです。

' "日本最速"スラッシュ界のSMAP" "いい男集団" "そこまで言いますか"

(〒 164 中野区中野3-50-4カルス中野303号
浜飯方「CRACKED BRAIN」 03-3229-3477



THRASH
METAL
IS
STILL
ALIVE!!

BRAINSHAKE

! Vo. 山本 国央
G. 浜口 正則
G. 塚本 理就
B. 中村 圭介
Dr. 板井 秀二

" 93年春に結成。METALLICA、SLAYER等のコピーをして遊んでいた。一方で徐々に曲作りをする。94年夏より活動開始～現在に至る。

月に1回のペースで難波ロケッツに出ています。年に2、3回ほど名古屋、岡山の方に呼んでもらいます。関東方面にはまだ行ってません。

\$ 1st BRAINSHAKE "
2nd LOYALTY FOR THE MASTER "
3rd BOUND SOUL (¥300 / 8曲入り) 3rdのみ入手可能

% 主に80年代スラッシュ、あとハードコア/パンク、ラップ、ヒップホップ、70年代HR、フュージョン、デスメタル、グラインドコア等のバンド

& そろそろ関東方面や色々な所でライブをやっているかと思っています。あと年末か来春あたりにCDを出す予定。

' スラッシュばかりにこだわらず、ヘヴィーでノリのよいサウンドを目指します。あとヴォーカルにメロディがあるという所です。

(〒 573 大阪府枚方市上野2-9-45-103 中村 圭介



AGGRESSOR

! G&Vo. 渡部 憲彦
G. 山野内 誠
B. 弘岡 勲
Dr. 秋友 崇史

" 89年末結成。Gが4回、Drが1回、Voが1回メンバーチェンジしています。オリジナルメンバーはG渡部とB弘岡です。今のメンバーになって一年ちょっとです。

1stデモ" Ironbound "
2ndデモ" Marching The Vengeful Past "
3rdデモ (無料配布なのでタイトル無し)
4thデモ" Urge To Kill (¥500 / 9曲入り) 4thのみ入手可能

\$ 91年11月目黒鹿鳴館METALIZATION'91、NEO MILITIA出演他。東名阪、姫路、岡山、九州、広島 地元 笄のライブハウスで演奏させてもらっています。ドラムが抜けてからあまり活動していませんでしたが、今のメンバーで落ち着いたので今後に期待してください。又、地元ではツアーバンドを交えてHR/HM、THRASH系のイベントをやっています。

% G. 渡部 SODOM, BATHORY, TERRORIZER
G. 山野内 ATHIST, MORBID ANGEL, マイケル・ジャクソン
B. 弘岡 GIオレンジ, プライアン・アダムス
Dr. 秋友 KISS, カーミン・アビス

& 年末くらいに東名阪あたり攻撃したい。

' G. 渡部 悪のジェイコブ、パーマを甘く見る奴は許さない
G. 山野内 最高ですか～?
B. 弘岡 最高です!
Dr. 秋友 オレの速さについてこい!

(〒 730 広島市中区富士見町8-18-605 BRAIN BUSTER RECORD



THRASH
METAL
IS
STILL
ALIVE!!!

TERROR FECTOR

! Vo. BLASPHEMER
G. STORMY
B. DEVASTATOR
Dr. TORMENTOR

" 1985年に結成。88年に1st DEMO、90年に2nd DEMO、91年に3rd DEMO、93年にMCRとトイズのコンビに参加、94年にRITUAL RECORDから1st CD、95年に現メンバーでは初のデモを制作。

新曲作りのため、2~3カ月に1回のペースでライブをやっている。

\$ 90、91、95 DEMOは入手可能。各¥500。

% SLAYER、KREATOR、SODOM

& 音源制作。12月に全国ツアーの予定。

' スラッシュシーンが下火になるうが、死んでしまおうが、頑張ってるやっっていく。

(〒850 長崎市草住町207-2-204 丸尾 伸行



STOP PRESS !!! STOP PRESS !!!

大阪のBRAINSHAKEが解散した。

詳しいことは不明だが、とにかく解散したのは事実のようだ。残念だとしか言いようがない。

NEGAROBO

札幌の重鎮とも言える存在で、5月のツアーにおいて大阪・東京のスラッシャーを熱狂させたことは記憶に新しいところだ。攻撃一本槍のスラッシュにも益々磨きが入り、AGNOTIC FRONTとSEPLULTURAの間中といったところだろうか。数々の強豪をも唸らせたライブも強力である。メンバーは変わったが、より強力なライブを1日も早く各地のスラッシャーに見せつけて欲しい。

AZAGTHOTH

コメントにも書かれているが、初期SODOMやKREATORの影響がかなり強いバンドだ。しかしながらそれらのバンドの影響を踏まえた上でより激しいアプローチを採っているのも、音の方はかなり攻撃的である。ライブもかなりのもので、デス系やコア系と一緒にライブをやっても決して引けを取らない破壊力は素晴らしい。関係ないが、「インドの山奥から殴り込みの入道メタル」のコピーはいい!笑ったけど、びったり!!

CRACKED BRAIN

現在はトリオになったが、音の方は前にも増してかなりコア寄りになった印象を受ける。強引な書き方をすれば、デススラッシュの影響が強いIMOTOR HEADといった感じで、最近にしては珍しく男臭くも硬派なスラッシュを聴かせてくれる。EDDIEとMUNEのドスの効いたVoの掛け合いもなかなかのものである。各メンバーにキャリアがあるだけに安定感バツグンである。

THE FAR EAST INDIAN

各メンバー共、関東のスラッシュ・シーンで活躍していた強者たちの集まりなだけに、ピュアなスラッシュを期待しがちだが、実際は各メンバーの影響を持ちあって形にしたといった感じである。グランジっぽいメロディラインのVoがのったMACHINE HEADといった感じだが、メロディアスな曲やファンキーなノリを持った曲もある。ただ主なルーツであるスラッシュ色は色濃く残っている。

BRAINSHAKE

平均年齢21歳という若さだが、非常に柔軟性のあるバンドである。スラッシュをベースにしているが、様々なジャンルからの影響も感じられる貪欲な音である。その割には散漫なところや頭でっかちな不自然さがなく、全てが一つの要素として吸収されているのが面白い。まだ若干甘い点もあるが、この若さでこのまま成長したらかなりの存在となる事は間違いないだろう。

AGGRESSOR

広島のスラッシュ系の中では長い歴史を持つバンドだが、ここまで音の方向性に対して初志貫徹なバンドも珍しい。ベイエリアスラッシュを荒々しく少々コア寄りにしたかのような路線は今でも脈々と受け継がれている。首を振れ!と言わんばかりの速いテンポで一気に押してくるが、疾走感とザクザクしたリフが心地良さを演出することで聴き手に疲れを感じさせないのはさすがベテランと言える。

TERROR FECTOR

長崎、いや九州のスラッシュの牙城を守り続けるバンドである。以前にCDを出しているのを知っている読者が多いかと思うが、相も変わらずピュアなスラッシュであり続けるのは嬉しいところだ。全てにおいて、スラッシュがアンダーグラウンドだった頃の匂いを充満させているバンドである。Voがチェンジしてからのライブはまだ見ていないが、相も変わらず激しいライブを展開しているに違いない。

地方音熱台鋼鉄

中国地方編



なったと評判の「並木ジャンクション」が有名なところでしょうか。

山口は...シーンもさることながら圧倒的にバンドの数が少ない...みたい。かつて#2で博多のMEGAFLEAR(R.I.P.)にインタビューしたときも、山口でライブやったけど対バンは化粧系のようなわかんバンドやった、という話でメタル

云々以前の状況のようです。そんなわけなので御免なさい、わかりませんでした。

山陰地域は日本でも随一の過疎地域だ。6月に学校関係の用事で米子に行ったときも鳥取最大の都市の割には、とっては失礼ですが、肌でエクストリーム系バンドの活動の難しさを感じられる程で、それにも関わらずHCバンドの活動はなかなか盛んなようではないですか。それなのにメタルとなると...と置いていたら何と、いわゆる「メタル」ではないけれど**AZREAL**という名のASSUCKに近いアプローチをするバンドが存在すると言うのではないですか。連絡先不明ゆえに詳しい事まではわかりませんが、いやぁ頑張っただけ欲しいものですが。ちなみに去る8月16日に倉吉のレンドクラブというライブハウスで大阪のSUBCONSCIOUS TERRORがライブを行なったようですが、客の入りは？反応は？どうだったのでしょうか、とても気になるところです。またインディーズ系のCDならば手に入る店が幾つもありました。但し問屋経由の物に限られるみたいなので何でもかんでもという訳にはいかないようですが...。余談ですけど、もう手に入れることは出来ないと思われていたTERRA ROSAのCDを米子の某レコード店で見つけた時はビックリしました(有難う米子！)。

というわけで中国地方編でしたが、ここに名前が出ていないバンドでもきつと地道に着実に活動を続けているバンドがいるはずで(そう願いたい)。今回もまたEAT誌とは違った側面からのレポートになったと思いますが、バンド、関係者、ファンを問わずこれからもどしどし情報提供お待ちしております。次は...まだ未定です。情報次第ですね。前回ちらっと予告していた沖繩編は次回に出来たらいいなということで期待していた人(そんな人いるのか?)ご了承を。ではまた。

(文責:すぎ)

連載3回目となった「地方音」ですが、今回はDEATH LIKE SILENCEの坪井氏と倉敷の読者からの情報提供により中国地方編をお送りします。2、3年前なら岡山といえばERODED、広島といえばDISASTERとAGGRESSORという状況でしたが、現在でも元気に活動中なのがAGGRESSORだけとはいささか寂しい気もします。そんな中国地方にも現在では若いバンドが幾つが出てきているようでシーンの活性化の為に喜ばしい限りです。中国地方は岡山、広島、山口、鳥取、島根の5県を指しますが、それぞれについて見ていくことにしましょう。

まずは岡山ですが、ツアーバンド御用達の「PEPPER LAND」というライブハウスでの活動を中心にシーンが構成されているようです。最近音が変わってカッコ良くなったと評判のミクスチャー系ヘヴィノイズグループ・バンド**BRAST BLAZE**が95年春から活動しています(#9のP19参照)。よりインダストリアル色を打ち出してきて、現在はベースレスの3人で活動中との事。「DEMO」を無料配布(送料のみ)して、連絡先は 〒708

岡山県津山市山北439-1 一与 昌昭 まで。また今号のレビューでも紹介した一人ブラックメタルの**DEATH LIKE SILENCE**あたりは異色の存在だと考えるでしょう(P20参照)。彼曰く「音楽も大切だが、個人的には呪い、秘密結社などへの思いも強く、日本でも神への祭りものを逆さにした黒魔的カルチャーが存在すべきだと思う」という事で、過激派もビックリの怪しさを誇っています(どこまで本気かは不明...)。尚、彼は自らのレーベルとしてSINISTER RECORDSを興し、近々アンダーグラウンド・ブラック/パイキング・メタルのCompテープをリリース予定らしい。多芸な彼は更にデス/ブラック系のファンジン「MOBID RITUAL」のissue 1を執筆・製作中との事で創刊が待たれます。ちなみに彼は一人でライブ活動も行っているようです。これにはクウォーソーンも白旗を揚げるか? 他にはメロディックなプログレッシブ・デスラッシュの**INFECTATION CRYPT**なんかも期待されるバンドの一つですが、現在はリハ中との事。DrをD.L.Sの坪井氏が担当しているそうです。メタル系のバンドも岡山にはいるようですがあまり評判は良くないのが、名前を耳にするには至りませんでした。頑張れ!

広島は岡山寄りの福山市と県庁所在地である広島市にバンドが存在しているようです。福山にはグラインドコアの**THRASHER**というバンドが積極的に越境演奏活動をしているようで、どちらかという岡山のシーンを構成する一員としての性格が強い模様。HCバンドの**GENOCIDE**、**カスピカ**も頑張っているそうです。でもやっぱり広島は「広島最後の砦」となってしまった感のある**AGGRESSOR**抜きには語れません。とにかくテンポよく切れのある王道スラッシュが聴きたければ是非コンタクトを取ってみましょう。幸い?今号でスラッシュ特集をしていることだし(P14参照)今すぐテープを購入すべし。東京にも来てくれ! またAGGRESSORは4曲入りのライブビデオもリリースしているので画質に拘らないファンなら必見かも。また太一氏お勤めなのがグランジ系の**バンブーポルテージ**というレディースバンドで、なかなかカッコイイらしいですよ。ライブハウスは広島「BAD LANDS」と最近繁華街に移転して便利に

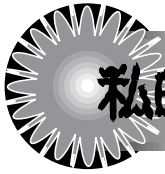


BOOK REVIEW

THE ENCYCLOPEDIA OF SWEDISH HARD ROCK AND HEAVY METAL 1970-1996

JENNE STARK

:PREMIUM PUBLISHING (P390)



(文責：多田 S.S.M. 進)

何か胡散臭いタイトルですが、内容の方もかなり胡散臭い新コーナーです。取り敢えずこのコーナーは自分流にプログレを語ろうという、独断と偏見のみによって執筆するものであり、マニア諸氏からしたら「何だよこいつ、適当なことばっかり言いやがって」と思うだろうし、初心者には「これ何？」で済まされそうなもので、非常に無責任かついい加減なコーナーであります。

“プログレッシブ・ロック”は非常に難解かつ知的なイメージを持たれがちな音楽だが、まずはこういったイメージは捨ててもらいたい。先駆者達はそれらを意識していたわけではなく、ロックが様々な形へと発展したものだと思っている。これほど選択する答えが多い音楽だから、ちょっとしたキッカケでハマる要素はかなりあるはず。結局、聴き手の勝手な分類によるイメージにとらわれすぎて、聴く側が勝手に放棄しているだけなのだ。所詮は「ロック」なのだ。あまり深く考えずにプログレに接して欲しいのだ。自分の周りを見れば、新しい出会いのチャンスは往々にしてあるかもしれない(誰かに同じ事言われたような気がするが...ま、いいか)。取り敢えず暇潰し程度でいいので読んでみてください。別に難しく考えなくてもいいからね。

まず記念すべき其の一は、静岡、いや日本のKING CRIMSONこと、美狂乱である。この出だしからだと、単なるフォロワーとして扱われかねないが、この美狂乱の凄い所は、徹底した探求を重ねたことによって本家をも凌駕しかねない精神を身につけてしまったという事である。単にフォロワーの一言で片付けるのは非常に失礼なのである。当初、実験的なロックを演奏していた美狂乱は、知人がKING CRIMSONに似ていると指摘によってKING CRIMSONの存在を知った。須磨氏はその後バンド名を「まどろみ」と改名し、徹底的にCRIMSONのコピーをして一歩でもロパートフィリップに近づこうと、とことん内面や細部に至るまで追究したと思うのだがこの時代のライブがCD化されているが、徹底したコピーぶりに圧倒させられる。

読者の皆さんは「ゼロ」というマンガをご存じだろうか。地球上に存在する全ての物を複製する贗作者ゼロの話で、ゼロはそれ(本物)を作った人間と同様の精神状態にまで自らを追い込むのだが、須磨氏もこれに近い気がしてならない。数多くのフォロワーが「仏作って魂入れず」な中で、魂までも体現してしまうのが美狂乱である。日本人が後期CRIMSON(73~74頃か? : 編者注)を表現したら、という例えではないが恐らくこんな感じになると思うのだ。

ごつい本がよかった。まるで百科事典のような分厚い包装に約400ページにもおよぶ紙面にはスカンジナビア半島の北部、人口8,200万の国スウェーデンのHR/HMバンドの紹介がぎっしりこと細かに記載されている。HM/HR関連でなんらか仕事に携わっている人にとっては大変貴重な一冊やし、北欧メタルファンにも一家に一冊のアイテムやろう。ところで筆者のJENNE STARKなるオッサン、80年初頭にOVERDRIVEなるBANDで活動していたキダリストやった。当時は日本盤も発売されてNWOBHMからの影響をものろにかぶったEC諸国からの先兵バンドやったが、最近2枚のアルバムがここ日本でもCD復刻されたみたいだ。興味のある方は是非聴いてみるといい。実は3年前にこのオヤジからOVERDRIVE再結成DEMOを頂いたことがある。日本のディールを獲得したいということと日本のリスナーの反応が知りたいという内容だったが、結局発売されていないところを見るとためやったのだろう。逆に日本のアンダーグラウンドバンドのデモを2つ3つ先方に送ったことがある。彼曰く「日本のバンドやったら自国で更にブレイクすれば海外にも通用するやんか。なにも今更たった2億半しかおらんヨーロッパ大陸に売り込む必要あらへんやんか」

初期にはFLOWER TRAVELLIN' BANDのカヴァーもやっていただけた、日本的な趣などはここから多少なからず影響していると思われる。この「まどろみ」時代が、彼の美狂乱を作り出す大きな要因というのは想像に難くないところだ。

幾つか出てくる音源の中で独自音を作り上げた美狂乱は、その驚異的なライブで数多くの伝説を作り上げていった。黙々と演奏しながらも、インプロビゼーションを重視し、そこから生み出される底知れない緊張感に正に圧巻だったらしい。マーキーから長い沈黙前のライブ盤がLP1枚、CD2枚リリースされたが、どれをとっても美狂乱の伝説的なライブの凄さを感じられると思う。但し、体験していない筆者の書く事なので本物の味わいは知らないのだが...

幾つか出てくる音源の中でお勤めと言え、2ndアルバムの「PARALLAX」と、ライブVol.3「乱」の2枚である。

まず「PARALLAX」収録の組曲「乱」は、美狂乱の全てをぶち込んだ21分の大曲であり、一聴すると非常に実験的で頭がイカレかねない妙な展開が続く曲だが、この混沌とした世界に身をまかせるのはかなり気持ち良い。インプロにも近いが、しっかりとバンド名通りの美・狂・乱の3つのイメージが感じられる凄い作品である。美狂乱版「太陽と戦慄」とでもいったところだろうか。正に圧巻といってもよいだろう。

続いてライブVol.3「乱」は、過去の2枚のライブ盤が幾つかのテイクを集めた物だったのに対し、大阪のバーボンハウス(83年3月22日)でのライブを収録した物であり、どことなく流れが統一されているので、美狂乱のライブでも緊張感を最も堪能できるのではないと思う。何回聴いても「凄い」の一言しか出てこないのである。

今年の5月25日に渋谷のON AIR WESTで美狂乱を見たのだが、メンバーがメンバーだけにかなり凄かった。是非このメンバーでフルにライブをやって欲しいものである。イレギュラーでも構わない。ちなみにこの日のメンバーは、リーダーであるG&Voの須磨 邦雄、Keyに大塚 琴美、SEに三枝 寿雅、マリimbaに陰鳥 俊二という静岡勢に加えてBはMARGE LITCHの神保 宗久、Drは手数王こと菅沼 孝三を迎えた6人だった。新しい伝説が見れるのもそう遠い日ではないと信じたい。

と、言う事ではいかがだったでしょうか? 非常に不親切に進めていきましたので不備が目立つかもしれませんが、それらについては勘弁してください。色々意見があるとは思いますが、機会があれば是非聞かせてください。自分なりに美狂乱を語ってみました。機会があればプログレにも触れて欲しいと思います。次は現時点では未定です。

とこないきともんや。実際スウェーデンの環境下はライブスポットも少なければ、リハーサルスタジオも日本に比べ少ない。当然本国同様自国の歌謡曲なるものがヒット・チャートを満載されているようだし、そういった面では日本に比べバンドが多い。しかし、このブックを読むかぎり英独米加に住み移って活躍しているトップミュージシャンからZ級のバンドまで70年から今日までをほとんど網羅している。層の厚さを感じる。今、同じように日本のHM/HRを70年代から紹介した本を刊行しようと思っててもCD/LPを作製しているバンドは限られているため、又、輪廻転生のサイクルが速すぎるためこの本の半分にも満たさないやろう。彼はすでにVOL.2の作製準備に入っているという。羨ましい。我々が胸をはって世界に紹介できる日はいつなのやろう。

付録として未発表13曲を含む16曲入りSWEDISH HMバンドのコンビCDが付いている。秋の夜長に。

(文責：金田)

らっしゅ

札幌ふらっしゅ

1. メンバーチェンジを経てリハを重ねていた NERVO が10/5札幌の OVERKILL 企画で復活ライブを行なった。尚このライブには東京から DEFILED が、名古屋から BEACH ON YOU が参加した模様。
2. 札幌の SURVIVE RECORDS の新作情報。次の 005 と 006 は、BLAST BAZOOKA DEATH MACHINE なるデスラッシュ系のバンドと、ex-NEGAROBO の Vo が結成したバンド DEATH BOYS という 2バンドのデモで、年末頃にはリリースされる見込みだ。連絡先等は右頁を参照の事。
3. 札幌の若手デスラッシャー GIDEON が内地襲撃を敢行。11月2日の前橋ラタンを皮切りに全国7ヶ所を回る予定だそうだ。めったに無いチャンスだけにマニアは要チェックだ。
4. Vo 以外全員離脱という大変なことになる UBIGUN だが、その大野氏が何とギターを持って ex-NEGAROBO の Dr と IDIOCY OF GROTESQUE というハードコアバンドを演じているという情報が入ってきてビックリ仰天。
5. SILVER BACK が 2nd CD 'NAITIVE' を引っ提げて東京襲来！多分 11月14日(木)日黒ライブステーションにて BLASDEAD 他と共演する事になると思われる。「NAITIVE」で涙した人は期待して足を運べ！

東京ふらっしゅ

1. 初のミニCD が好評な GUARDIAN'S NAIL のギタリスト宮原氏が帰郷中事故に遭い、鎖骨を骨折してしまうというショッキングなニュースが飛び込んできた。よってしばらくの間、VANGUARD の内田氏がサポートとしてライブ活動を行っていく模様。早い回復を望みたい。
 2. 海外に対して精力的なプロモーション活動を行っていた CHURCH OF MISARY だが、このたび英国の FLASHPOINT RECORDINGS より 2曲入り 7inch EP がリリースされる事が決定した。また来年初頭には米国の DOOM RECORDS からミニアルバム(12inch 盤)でリリースされる予定だとかの発売が決定している。
 3. 静かなる狂気(?) ABIGAIL は MODERN INVASION レーベルと正式に契約を結び、早ければ 10 月か遅くとも年末までには 1st フルリリースされる。SIGH とはまた違った方法論でブラックメタルを構築している ABIGAIL に対する反応がいかに? 期待が持たれる。
 4. ブラックメタルのバンドを集めて行われている企画「BLACK METAL YAKUZA」の Vol.3 が 12月6日に吉祥寺クレッシェンドで行われます。出演バンドは SIGH、AMDU SCIOUS、ABIGAIL、MORTES SALTANTES の予定。邪悪な一夜を堪能したいあなたに...
 5. T.H.A DISTRIBUTIONS では、ディストリビュートして欲しいバンドの音源を募集しています。国内物、ノルウェー物を中心にデス/グランド/ドゥーム/ブラック/バイキング系の物ならなんでもござれの豊富な品揃えです。また購入希望の方は品物リストをオーダーの上、購入して欲しいとの事なので下記に問い合わせを。音源をディストリビュートして欲しいバンドも同様です。
- c/o 〒160 新宿区西新宿6-15-4-712
濱崎 毅 方 T.H.A DISTRIBUTIONS

5. 群馬の江原氏が発行しているフリーペーパー「TOTAL CARNAGE」の Vol.2 が完成しました。VANGUARD のインタビュー(これがまた濃い)を中心にフリーペーパーとしては充実した内容(6P)です。まじで面白いので興味を持った人は下記へ手紙を送りましょう。これが何と返信用の切手代もいらないってんだからみんなで手に入れるべきです。

c/o 〒373 群馬県太田市宝町207
江原 利郎

6. 新たなファンジンが登場しました。「DRAGON」という名前です。覚えておいてください。Vol.1 では AMDUSCIOUS のインタビューという、なかなかマニアックな事してます。映画関係に強そうなのでそっちに興味がある人はお勤めです。¥400 分の無記名定額小為替を下記まで送りましょう。かばら危うし? 次号 Vol.2 もこれが出来る頃には出ている予定だそうす。

c/o 〒233 横浜市港南区日限山4-31-20
石川 重徳

7. 結成からはや 12年、遂に CASBAH の CD がリリースされる! それもロードランナー・ジャパンとの契約だという事で、これまたビックリなであります。来年初頭にはリリースの運びとなる模様。CASBAH に遅すぎた春はやってくるのか?! 非常に楽しみです。
8. その CASBAH が久々に LOFT に帰ってくる。対バンは 3rd CD はもう少し待ってね 'JURASSIC JADE' と、「新曲はもう少し待ってね」TERROR SQUAD と、「これからは生スクリーミングっす」CEMENT だ。スラッシャーは 12月8日(日)新宿 LOFT に集結せよ。
9. アメリカの某レーベルよりリリースされる予定だった CEMENT の新 Vo あっくん 加入後の初音源は、紆余曲折の末、結局 ECLIPSE よりミニアルバムとして来年1月にリリースされる事となった。これに伴いノイズアルバムの発売は先送りにされたらしい。ミキシング担当者曰く「デス声で歌詞が聞き取れたのは始めてだ」との事でこれまた楽しみでもある。新曲4曲と既発の再録2曲の計6曲が収録される模様。
10. STOP PRESS!! TERROR SQUAD とガムテジの抗争が新展開を迎えた。某打ち上げ会場にて顔を合わせた両バンドが口だけでは飽きたらず、実力行使に出てしまった。その時の模様を収めた写真がこれである。それ程までに険悪な彼らなのだが「てめーら悔しかったらうちの激昂に出てみやがれ! 」というガムテジの挑発にのって「ばかやる一出てやるから首洗って待てるよ! 」と TERROR SQUAD の激昂緊急参戦が決定した。時は 11月9日、場所は高円寺 20000V だ! (これはフィクション入ってませんマジにとらないでね)

名古屋ふらっしゅ

1. 長い長い冬眠の末、遂に新生 HIDDEN が動き始めた!! 元ローディーを Vo に迎え入れた新生 HIDDEN は現在新音源制作に取りかかるべくリハを重ねている最中だとか。どんな音になるのか、果たして Vo は? とにかくファンは期待して待っていますよ。
2. その HIDDEN の今だ見ぬ CD の話だが、やっぱり出ないという話も出てきており、正直わかりません。すいません。バンド側の公式な発表が待たれる。

3. 前号でレビューした GESTALT のミニアルバムが、何とメガフォース・コーポレーション傘下の SWEET HONEY RECORD から 9月21日にリリースされた。これは販売元がバンダイという事で、つまり所謂メジャーなのであります。ビックリしました。品番 MFCA-5、価格 ¥2000 で販売されております。70~80年代のジャズロック風の作品でメタルとは縁遠いかもしいないが、興味のある人は一聴を。
4. CORNUCOPIA RECORDS (ギリシャ神話の「豊稔の角」という意味)では「CORNUCOPIA FOR DOWNERS」というドゥーム系フリーペーパーを発行するにあたり、我こそは重暗だと思っているバンドの音源を募集中。掲載を希望するバンドはバイオ、連絡先、値段、購入方法等を添えて音源を送って欲しいとの事です。連絡先は P8 を参照してください。



はばちゃん、大関と宇田川に
踏みつけられる



大関、はばちゃん
にメガネを取られる

大阪ふらっしゅ

1. 本気がはたまた冗談なのか NARCOTIC GREED が「MEGA SUCK MAN」なるバンド名に改名したそう。ほんまかいな。
2. 「VIEW POINT」の編集長である岡西氏がディスクヘヴン大阪店を退社、これからは西九条ブランニューで働いていくそう。ブランニューは西のメタル王国を築くのか? 今後のブックイングが楽しみでもある。



このコーナーは日本国内でリリースされたメタルシーンの周辺で頑張っているバンドの音源の「きいてみた感想」を紹介するコーナーですのでよろしく。最近テープを送ってくれるバンドが増えてちょっと嬉しいです。送っていただける場合は値段と連絡先を必ず明記してくださいね。但し絶対に載るという保証は出来ませんがその点はご了承下さい。

国内のインディーズから出すならセルフで出す。焦りはないと言っていた待望の1stアルバム。といっても5曲しか収録されていないが、32分だれることなく今の彼らを表現するに充分な楽曲が詰まっている。美旋律HMが好き人には1曲目にはまり、大胆にもモダンな2曲目に将来のメジャーなバンドを予感するだろう。しかし彼らの本質は、風3部作の序章、終章にあたる3,4だ。この15分の大作ドラマこそ彼らを支持している信者の願いであり、誇りである。アルバム・ラストのGは美しい一言。彼らに加速がついたのも正田の加入といっても過言でない。今できることは精一杯やった感のある一枚。もうB級ジャーマンとは言わせないし、もうKABBALAでも収納できない未来への布石になるアルバムになるであろう。(金田)

日本のHMシーンの中でも順調に活動を続けているだけに、そろそろ新しい音源をと思っていても多いだろうが満を期してのリリースといえる。様式美調のメロディを骨格としたパワーメタルといった曲はSTRATOVARIUSを思わせるがメロディの流れとドラマを活かす展開を前面に押し出している。結構ハードな部分が出ているにも関わらず全体的な印象がソフトな感じである。各曲ともよく練れているし、適度にキャッチーで印象に残りやすいメロディも用意されているので、この手の音が好きな人は気に入ると思う。ただ、洋楽指向のHM好きを振り向かせるだけの何かが足りない。現時点でのバンドの良さが上手い具合に出ているだけに結構気になる。(多田)



GURDIAN'S NAIL BELIEVE

1. Passion Red
2. The Past Love
3. Crossing Over The Valley
4. Riding On The Wind
5. Keep Believing (Forever)

5曲入り。¥2000。
NAIL FORCE EAST
品番 NFE001-CD



SILVER BACK NATIVE

1. Back To The Light
2. In Order To Live
3. Native
4. Why Has He Got Burned With Revengeful Thought
5. Nez Perce
6. Shake Hand
7. Notice With A Birth Of Death
8. Femt
 - 1) Confinement
 - 2) Friends
 - 3) Griffith

9曲入り。¥3000。
SURVIVE RECORDS
品番TSR-004
〒001 札幌市北区北36条西
2丁目3-2-102
SURVIVE RECORDS

彼らはやってくれた。前作「UNCULTIVATED LAND」からの2年間に蓄えられたエナジーは半端じゃなかった。その一端は昨年秋のライブでも見られたが、こうしてアルバムとして作品が並べられるとより一層磨きがかかったように感じられるのも不思議だ。前作より全体的に聴きやすくまとまっている半面、残念ながら音質的には自主制作の域を出ていない。決して「悪い」というわけではないのだが、それが唯一惜しまれる点か。楽曲的には申し分なし、非常にメタル然とした哀愁漂う男気を感じる。自らを称して“Last New Wave Of British Heavy Metal”と声高に叫ぶだけの事はあると思う。JAPANESE PRIDE、これこそが真正正銘「ヘヴィメタル」。何かが足りないとするれば、万人に凄くと思わせろ「凄み」か。あとは皆さんの耳で判断して欲しい、これが偽ざる心境だ。あっ、ちなみに最後に入っているボーナストラックは「路地裏から見上げた城」というタイトルだそうですよ。(すぎ)

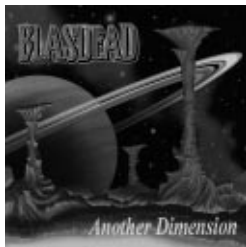
大阪の十三で見たことがあり、1st DEMOからの愛聴者である。SILVER BACKの2nd CDの正攻法サウンドは感動の一語。だが今の若い方の受け取り方は全く違うやろう。80年代のNWOBHMのMAINEEAXE、SNOWBLINDらの後発バンド群。後期METAL CHURCH、解散前のSALEMを連想したのは私だけではないと思うが、決して借り物のバンドではない。道産特有の湿度がこのSILVER BACKにもある。自然と昔の頃を思い浮かべてしまうのだ。アレンジも素晴らしい、トータル的にサウンドプロデュースは海外にひけを取らない。歌詞の内容も素晴らしい。この上彼らに何を望むのか。もっと我欲が欲しい。真面目に正攻法を取り過ぎる。道内に住んでもええ位、この手のバンドを産出している北海道だが、世界レベルとなるとまたちがう。厳しいがそこまで彼らに期待している。関西人の大きなお世話か。(金田)



MONARCHIE INFERNALE DEMO '96

c/o 〒480-03
愛知県春日井市明知町518
鷓鴣 サトシ

名古屋のデスメタルバンドの約2年振りの3rd DEMO。Dsがチェンジしたがその影響は音にもかなり出ている。以前はブラックともデスとも言いがたい、ある種異様な雰囲気と迫力が一部のマニアの間で好評を博していたが、音質・演奏面などにおいての問題があったのも事実だった。Dsが変わった事が良い方向へと作用しており、以前のようにこけおどしてはいないしっかりとした迫力が音全体に感じられるようになった。音自体に得に変化はないのだが、演奏がカチッとすると意外にオーソドックスなデスメタルだったというのがわかる。例えばAUTOPSY等にも近く、昔ながらの荒々しいデスメタルが好きな人にはいいかもしれない。刺激はやや足りないかもしれないが、今まで敬遠しがちだった人も聴いてみて欲しい。4曲入り。¥500。(多田)



BLASDEAD ANOTHER DIMENTION

LARD RECORDS
品番 LRW-005

わざわざ大阪までPROMO TAPEを持参していただくほどの力がはいたBLASDEADの集大成CD。プロモーションの成果か、大阪でも洋楽ファンに売れている。POWER METAL BANDという称号が与えられるバンドは昨今では彼らぐらいしかおらんちゃうか? とにかく男臭い、汗しびきを思いうかべる実寸どおりの彼らが溝いっぱい収録されている。ここまで外野を気にせずストレートにHEAVY METALを追求する彼らに嫉妬さえ覚えてしまう。なんだかんだ理屈こいても皆根本的にこの音を望んでいる。アンダーグラウンドシーンのカリスマ要素は充分に含んでいる。51分のHEAD BANGING TIME。MEGA! 8曲入り。¥2300。(金田)



BUCKET-T 2ND DEMO

c/o 〒176 東京都練馬区
桜台4-1-8-1007
斉藤 新

東京はトリオ編成はヒップホップ/アンガー系の2nd DEMO。日本語で歌っているのだが、意識して聴かないかぎりわかりません。それだけ日本語をのけることには成功しているが、このバンドの持ち味はトリオという強みを全編荒削りな70年代にトリップしたようなサイケケラジの音に表現している。引きずるようなノイズなベース、えくるようなギター、その二人に絡むドラムにその昔の学生運動のアジ(笑い)のような吐き捨てるボーカルが70年代の古くて、とっても奇妙な新しい音に聞こえる。音質はほこりっぽい音やけど不思議にあらう。2トラックで録ったのが幸いした。無料(送料のみ)。(金田)



DEATH LIKE SILENCE PROMO '96

c/o 〒712 岡山県倉敷市神田
1-18-11 坪井 景介

備前は倉敷からまたまた一人ブラックが登場したとな。DARKNESS ABYSSIOUSを名乗る彼はD.L.S名義の通算2本目のテープを完成させた。詳しくはP16を参照して欲しいが、良くも悪くも一人で作ったテープという仕上がりで、特にプロダクション(全体のバランス等)が今イチなのが残念。4trMTRでも素晴らしい音源が作れるだけにもう少し練り上げて欲しかった。曲は際立ってメロディックではないもののULTRA FASTでHATEFULなブラック・サウンドに仕上がっている。この速さはナカナカのものだ。どことなく前号でレビューしたFUNERAL WINDSを思い出したが、これからブラック新世代として頑張っ欲しいし、「気持ち」は高く評価している。2曲入り。¥300。(すぎ)



EZECHIEL EZECHIEL

c/o 〒545 大阪市阿倍野区
松崎町3-3-20-210
EZECHIEL INFOMETION

デモを手にして初めて知ったんだけどメンバー4人共女性なのね。これが1stデモのEZECHIELだが、サウンドはスラッシュ的なヘヴィネスとハードコア的なハードネスがメタル寄りにミクスチャーされたような印象を受けた。どちらかという速さよりも硬質な重さに重点が置かれているだけにシンプルだけど味のある仕上がりになっている気がする。特にギターのハードエッジな音がかっこいい(特に'Egoist')。個人的にはVoのダミ声(個人的主観)が辛そうで聴いててせつなかった(個人的主観)けどスロー&ヘヴィな'But Nobody Knocks at the Door'のフレーズは耳に残る。やや今風な'Egoist'の返りを極めてくと侮れない存在になってくるかもしれない。東京のEYE POPPERと共演させてみたい。3曲入り。¥200。(すぎ)



GIDEON DEMO '96

c/o Haimu-Ribajyu, A#202,
2-4, 9jyo3chome, Misono,
Toyohira-Ku, Sapporo, 062
EIJI KOSUGI

少し前に編集長とで'SURVIVE RECORDSの002って何だろう?」と話題にした事があったが、このGIDEONが第二の刺客だ。これが1stデモのように、非常に直線的で荒々しい音は若さ感じさせる。Voは吠えるように吐き捨てるタイプで、音の方向性もデスメタルではあるものの、曲構成の基本はスラッシュであり、シンプルな突進力で押し切るあたりは1stCDの頃のVOIDDにも通じる。音質面や演奏面での粗さが時々感じられるものの、どことなくアンダーグラウンドな雰囲気を感じさせているので悪くない。ライブでの破壊力に期待が出来るような迫力があるが、勢いに頼りがちなで頭に残る部分が少ないという点がやや気になった。4曲入り。¥600。(多田)



HERMIT CLUB PLEASURE

EAR EAST MUSIC PRODUCTS

女性ヴォーカルを擁するEAR EAST MUSICのバンドと言えば...そう、あの音です。とうわけで多分札幌のバンドなのでしょう5人編成のHERMIT CLUBの'PLEASURE'というテープです。内容的にはカセット・ミニアルバムともいえる程のクオリティでさすがに木下氏(SABER TIGER)はこの手の音を作るのが上手い。「あの音」をアメリカナイズしてもっとキャッチーなロック風の歌い方をした感じなので、ちょっと歌謡メタル風な印象を受けた。それでも歌詞は95%英詞だ。このサウンドならCDに合った形で日本語詞と英詞をもっと混ぜていってもおかしくないと思う。「Perfect Stranger (D.P.)じゃないよ」のVoは何となく椎名恵を感じた。CD位出てもおかしくないだけのクオリティは持っている。5曲入り。¥1000。(すぎ)



HOWLING HOUSE HOWLING HOUSE

c/o 〒239 横須賀市大津町
1-75-E201
OFFICE HOWLING F

横浜の5人編成のDEATH/THRASHERのデモ。たった2曲しか収録されていないが、1曲目のイントロから引きこまれる。DEATH ANGELのような80年代のTHRASH BANDに影響を受けたと思われる暗く思いつくを押しまくっている。イメージはジャケット・カバーからしてDEATH/BLACK系を聴く前から想像してしまうのだが、以外や以外、全うなPOWER METALと表現しても遜色はないやろう。難をいえば両面に1曲ずつでなくせめてあと2曲ぐらい通して聴かせて頂きた。本誌読者はライブ等要チェックであることは言うまでもない。当たりです。¥500。(金田)



JACQUILINE ESS VOID DAMNATION

c/o 3-14-5, Fujigaoka, Fujisawa-
City, Kanagawa, 251
ETSURO MORITA

日本のスラッシュ系のバンドの中では中堅クラスに位置する存在となったが、マイペースに活動を続けているようだ。音の方も特に変化はなく、SLAYERの影響下にあるスラッシュをパワーメタル寄りにしたかのようなスタイルは相変わらず、単に速さや勢いに流される事なく、しっかりと骨組みを持つ曲構成にバンドの意地が見えてくる。前と比べてヘヴィかつスローな曲やVoが歌う部分が増えてはいるが、これは時代に適応したのではなく、「Season In The Abyss」でのSLAYERに近いものだと考えたい。全体を通して感じられる、不器用ながらも独特の男臭さは捨てる難いものがある。やり方としては悪くはない。あとは音全体に重量感があればもう一つ上のランクにいけると思う。4曲入り。無料配布(送料のみ)。(多田)



JIHARD JIHARD

c/o 大阪市中央区西心斎橋
2-18-6 アベニュー心斎橋307
DISC HEAVEN大阪店

もう好きなひとならイントロのシンセが聴こえた時からパブロフの犬状態になり、本曲の頭が出てくるまでの数分までにアレドナリン逆流モードに切り替えておくのやるな。大阪の期待の新人、JIHARDのデモである。音の方はDIO、BLACK SABBATHをもう少しモダンにしたサウンド。お約束のギターがせつなく、悲しく、激しく、速く、入っています。ご安心を。女性Voも情緒たつぷりに歌いあげている。後述のMACBETHにしてもJIHARDにしても札幌のFATIMA HILLのVo同様、皆同じに聴こえるというのは大変失礼な発言と承知しているが、どっかに女性専用VOICE訓練所があるんやろか(笑)。それほど上手いという事。様式美正統派関西伝統メタル愛好家には必需品の一本。3曲入り。¥500。(金田)



太田カツ EVIL POWER

連絡先不明

今年になってひょんなことから東京の某氏から手に入れ、大阪で火がついてしまったギタリストの全曲インストのデモ。すべて多重録音である。正直未だに正体不明である(笑)。簡単に言えばYNGWIE様のクローン。といっても数々でできたYNGWIE様とは訳がちがう。楽曲の組立。押す引くのツボは充分に知っており、いったい誰やねんとなってもた。サード・ステージからのプロジェクト要請まで発展しとるみたいだが、日本人の手先の器用さに呆れるというか、前号の中村仁氏といい国内にこの手の輩がぎょうさんおるんやろなと思うと嬉しくなってくる。第二の梶山章になるか。全国のDISC HEAVENで取り扱い中。4曲入り。¥500。(金田)



MACBETH CYCLE OF THE STORM

c/o 〒101 千代田区鍛冶町
2-5-11ミハラビル322
MACメタルオフィス

購入してからかなり経つが、前作MINI-CD 'MACBETH' 発表後すぐに出たDEMO新作。予算の関係でTAPEになったのか、おそらくCDと同時期の録音と思われる。曲のほとんどがリーダーOTOKICHIが書いているが、さすがにこの手のサウンドを志向している奴は音の構築がうまい。キーボードの使いかたも出すぎなく、楽曲を引き締めるには充分に使用されている。この仰々しさがダサイと思われ中、今苦境の立場のHEAVY METALとは拘りの音楽なのであるとつくづく思う。決してジャパメタでない。和製HEAVY METALと書いておく。プリティシユの香りが満載の良質HEAVY METALだ。なめたああかんで。7曲入り。¥1000。(金田)



PROTEST DEMO #4

c/o 〒655 神戸市垂水区
神陵台1-1-21-846
秋山 大輔

十三はファンダンゴを中心に活動している神戸のバンドの4作目。1stが今年に配布されているから驚異的な早さだ。以前はハード・コアの様相をしていたがメンバーチェンジを繰り返す度、このDEMO#4を聴かざりかなりPANTERA寄りPOWER THRASHを展開している。G、Drも切れが良く、今月号の特集に掲載されているBRAIN SHAKE等が好きな人は要チェックだろう。3rdはMACHINE HEADにRAPの融合のようなところがあるが、進化するたびTHRASHの原点に近づいているのが面白い。音質・音圧ともにマル。関西のグランド/ハード・コアゾーンは益々楽しみである。お勧め。3曲入り。¥200。(金田)



MULTIPLEX MULTIPLEX

H.G.FACT
品番HG-060

超名作! WORLD 発表から4年、その間メンバーチェンジを経てサウンドも一層研ぎ澄まされた激烈グランド・コアへと変貌を遂げたMULTIPLEXのここ1年程の活動が集約されたミニアルバムだ。やっぱりマルチは凄いつつ。爽快なまでに歪みまくった空気をうねらす重低音G&Bが繰り返される、抑圧と解放が渾然一体となった楽曲群のブチかましが醸し出す凄みはやっぱり他と一線を画している。もはやBLUTAL TRUTH辺りと肩を並べるだけの存在だと個人的には思う。技巧的テクノ・グランド・コアだった頃よりもある意味クールでありながらも熱くてもリアルだ。どう考えても6曲じゃ物足りないぞ。“又ワックフウ”が何故入っていないんだ! 6曲入り。¥1545。(すぎ)



PUBLIC CYCO ACHE DEMO

c/o 〒175 板橋区徳丸7-9-4-305
梅田 尚哉

東京を拠点に活動する4人組の恐らく1stデモ。音的には今時のスラッシュと言っても差し支えないタイプだが、単に現代的なラウドミュージックに支配されている訳ではなく、それらを一つの要素として取り入れただけで、根底にあるのはスラッシュといった感じである。かつてのMONKEY PIRATES辺りを思わせる、突撃ナンバー 'Hatred' は単純にカッコイイと思ったが、“Rise”のような今時のグループで押すような曲は、音に重圧感が足りないせいか正直物足りなかった。音質が今イチ(Rough Mix)で書いてあるしなせいかもあって、バンドの持ち味やパワーがダイレクトに伝わらないのでかなりもどかしい印象が残った。もう少しストレートな勢いがあつた方が良い気がする。3曲入り。¥300。(多田)



NOCTURNE HELL BOUND TRAIN

c/o 連絡先不明

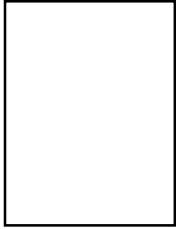
既に発表から1年半が経過してやや今更の感もあるが、名古屋の正統派HMバンドNOCTURNEのプロモーション・デモである。現在バンドがどうい状況にあるのか正直分からないのだが、内容はいえ、ミドルテンポのやや硬質な曲と、切なげなパワーバラードの2曲入りで、サウンド的には土台は米国メタルで味つけが欧州/北欧メタルといった所だろうか。全体的に音質やバランスも悪くはなく、聴きやすく仕上がっていると思う。でもいくらプロモーションようとは言え、連絡先は入れた方が良くと思うよ。欲しくても入手が難しいしね、特に地方の人は。2曲入り。(すぎ)



RED HOUSE J-BLOOD WAY

自主制作
品番 RH0001

目黒鋼鉄宣言にも顔をつられていた東京のHMバンドの自主3曲入りミニCD...ごめん。どうもあかんねん、最近の目黒系は。こんなんゆうたらほんまにどつかれるけど商業的に確立されつつあるメグラー・メタルは今のアンダーグラウンドのシーンからだいぶ遠ざかってしまったと思う。それやったら載せるなやと言わはると思うがルーツは一緒やさかいな。え、CD評ってか。いや充分HEAVYでAGGRESSIVEで演奏もノリもええんよ。ただ歌が入って“WOOO!! YEAH!!! お前の...俺はx x xしてやるぜ”とやられるとどうも興冷めずんねん。いや、楽曲はええんよ。メジャー志向や。買うて確認しはつたらどないでっしゃろ。初期ANTHEMを連想。3曲入り。¥1200。(金田)



SECURITY-DLANKET SECURITY-DLANKET

c/o 〒144 大田区蒲田1-6-18-1312 藤本 幸世

首都圏で勢力的に活動している東京の4ピース、コア・スラッシュバンド。今回は各ライブ会場無料で配布しているらしいが、名刺がわりにしても4トラで録ったのが音がこもり気味。いっそのことMDで一発録音したほうが音の分離が良かったかもしれない。音のほうはこれまたハード・コアが基本ながらもMACHINE HEADあたりのノリもみられる。B-1が個人的に気に入っているが先述のPROTESTに比べると訴えが弱い。しかしながらも勢力的なライブ活動にこなれて次作が楽しみである。メタル色は皆無だが、音の作り方をメタルバンドから学んでほしいと思うのやけど、どない思う？。2曲入り。無料送料のみ。(金田)



スマッシュ THE ブレイン 実験その3

c/o 3-9-27-906, NANKONAKA, SUMINIE-KU, OSAKA 559 HIDENORI YAMAGUTI

まだ結成されて約1年という大阪の4ピース、グラインド・ハードクラスト・デスコアバンド。「実験その3」からGが変わっている。残念ながら実験その1と2は授業を受けていないのでわからないが、かなりスピードを重視していると思うが、音が軽い。B&Drがもっと前にではもっとアグレッシヴを強調できるのが、ワザとこういう音にしているのやろうか。どうも個人的にDrのベタベタパタパタが印象に残ってしまった「実験その3」やった。もっと激しくないと思はくれないが、ライブは期待できそう。「実験その4」に期待したい。10曲入り。¥300。(金田)



SLY KEY

BMG VICTOR
品番: BVCR-765

もうそろそろスーパーバンドとしての肩書きも不要になりつつあるSLYの3rd。前2作では正統派路線のHMを現代的な音像で表現し直したスタイルだったが、今作はそれらを少し後退させて、プログレ的方法論に置き換えて表現した感じで、DREAM THEATERの「AWAKE」に近い発想とも言えなくもない。前2作が幾分窮屈な音作りだったのに比べてかなり開放的になったので、メロディがはっきりして聴きやすくなった。洋楽しか聴かないという人にも充分アピール出来る内容で、ある意味ではメジャー向けの音とも言える。そういった事を意識したせいか、二井原氏の独特なVoが活かされているとは言い難く、曲に決定打がない事もあってか、他との差別化をはっきりと打ち出せなかったのは残念だ。でも結構好き。10曲入り。¥3000。(多田)



STONE EDGE BITCH

c/o 〒170 東京都豊島区上池袋4-47-3リレントビル PART 1.#301 TIGER DRIVER RECORDS

1st CD「GIPSY OF THE NIGHT」がBURN!誌に掲載されたとたん売れ始めるといって、笑うに笑えないSTONE EDGEの新作は4trx32分の力作。trx1&2はマンドレイク・ルートの例のComp CDに提供の、いかにもという作品でどこを切ってもSTONE EDGEという音源だがtrx3&4の挑戦が良い。初めてのメジャーコード進行、12弦アコギの導入にフレットレスベース。どこかで聴いた懐かしさも新しい感覚だ。楽曲として充分に彼らの音に消化されていて、いままでの未整理だったものが輪郭がはっきり見えてきた。洋楽サイドから覗けば古くて新鮮なアプローチだ。四人囃子の森園をプロデュースに迎えたNOVERAの「PALADISE LOST」を連想する。美作。trx2はCOOLだ。4曲入り。¥500。(金田)



VANGUARD FOUNDATION FALLS

c/o 〒215 川崎市麻生区下麻生842-1 コーポ多摩201 内田 純一

帰ってきましたVANGUARD。1曲目から砂漠にほこりまみれになりながらアコギを背負って歩いてくる内田が登場、とビデオ・クリップならこうなるだろう。VANGUARDの新作はゲストに元VIGILANTEの宮尾、ZERO GRAVITYのメンバーを迎えてのユニット組織。といったも楽曲、音質、表現力は相当な高得点! ここまで高品質をつくられてとまだまだ国産メタルは大丈夫。内田のヴォーカルも上手いが宮尾も久々のヴォーカル復帰だ。気になった点が一つ。A-2はVIGILANTEの未発表曲といってもいいぐらいに雰囲気似ている。宮尾氏のせいか。とにかく戻ってきたことに感謝したい。あとは柳君のユニットだな。必聴お勧め。今月の花マル。合掌! 3曲入り。¥500。(金田)



V.A. 666-SCREAM

666 RECORDS/品番666-0003
c/o 〒390 長野県松本市清2-7-33 666 RECORDS

信濃の旗本666 RECORDSがまたまたオムニバス音源をリリースした。活きのいい若手4バンド(PROJECT/弁天小僧/EXIT/玩具)が2曲づつ提供するこのテープ、これまた前作「666-HICKS」同様ハードコアなタイプのサウンドが並んだ。PROJECTはヘヴィ&グルーヴを基調としたタイプでこの中では一番メタリック。弁天小僧はガールズバンドで、どことなくスローになったS.J.Mという印象がある。EXITも重いんだけどGソロがマトモなので、ある種それが個人的に感じた。玩具はノリが一番ヒップホップしてる。いずれにしてもどのバンドも腰を据えたヘヴィさが基調となっていて、そこにも見えるのは大砲に追いつき追い越せといった若いエネルギーが。今風ハードコアが好きな人なら買って損はないはず。8曲入り。¥500。(すぎ)



WUTHERING THE GATE OF FATE

自主制作? / WG-EST3196

何か凄そうな帯びタタキと原哲夫のジャクの絵がかなり気になるし、1stアルバムがライブというのも何か期待してしまいがちだが、残念ながら期待外れだった。東京を拠点にするプログレハード系のバンドで、キャリアは約10年とかかなり長い。方向性としてはNOVELA辺りの日本のプログレハード系の音を連想させるが、シンフォニックな面を色濃く出している辺りはVIENNAにも通じるものがある。適度にハードで適度にシンフォニックというスタイルは、先に出たバンドを越えてはいないにしろ、このバンドとして表現したい事はしっかりとした形になっている。ただ徳永英明のようなVoがパンチ力に欠けておりバックに埋没しがちで音楽が作り出すドラマに聴き手が浸りきれない点は致命的か。8曲入り。¥2500。(多田)

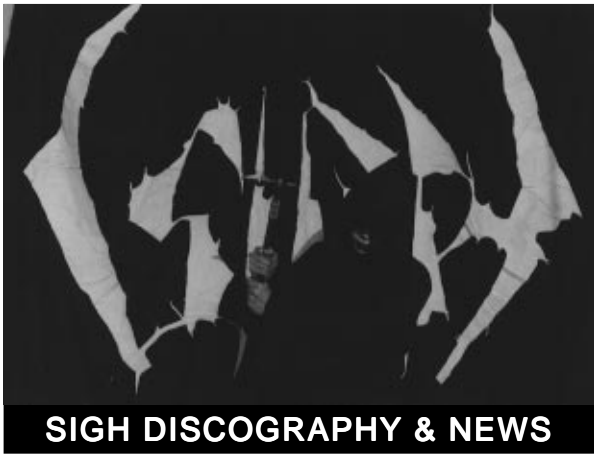
きいてみた感想の鉄則

一、書いてあることを「うのみ」にしない

たまにいますが、ここに書いてあることが全てとは決して思わないでください。あくまで聴いた人が感じた印象ですから、他の人とは違うこともあるでしょう。言葉足らずな所もあるでしょうが、その辺りはどうか穏便をお願いします。

一、送料を忘れない

これに書いてある金額は基本的に(特にことわりがない限り)音源自体の値段です。ですから必ず送料を加えることを忘れないでください。テープなら¥190で、EPやCDなら¥270でもいいかと思えます。無料配布のテープでも¥190切手は必要ですのでお忘れなく。



SIGH DISCOGRAPHY & NEWS

前回のSIGHインタビューはいかがだったでしょうか。印刷のミスである事になってしまいましたが、非常に興味深い内容だったと思います。そのインタビューに合わせて多田氏にSIGHのディスコグラフィーを書いたいただいたのですが、残念ながら紙面の都合で掲載できなかったという訳で、今回掲載させていただきます。(文責：すぎ&多田)



"DESOLATION DEMO 1 '90

SIGHの記念すべきデビュー作だが、当時はまだデスメタルバンドだったので、今は音が全然違う。音質が悪いせいもあってか、何かチープな印象も残るが、これが原点であり、SIGHの歴史はここからスタートしたのである。ちなみに現在DsのSATOSHI氏は当時はGであった。その後何度も再録される"Disolation Of My Mind"を収録。(3曲入り)



"TRAGEDIES DEMO 2 '90

約半年後にリリースされた2ndデモ。Dsが脱退し、メンバー2人での録音となっている。現在のSIGHと比べてしまうと、音が非常に粗くて乱雑な印象が残るが、キーボードが導入されたりしており、現在のSIGHを思わせる部分も片鱗程度ではあるが見せている。何だかんだ言っても当時は、これは独創性があり非常に個性的なデスメタルとして評価されていた。(4曲入り)



"TRAGEDIES TAPE '91

アメリカのWILD RAGSからリリースされた2ndデモのリミックスに、1stデモの"Weakness Within"を再録したもの。音質はリミックスしたとは言え大した変化はなく、1stデモの曲の再録が聴きどころと言える。これを含めた初期の3本は完全にマニア向けのアイテムである。ちなみにメンバー写真ではメイクをしていないメンバーの素顔が見られる。(5曲入り)

"REQUIEM FOR FOOLS 7"EP '92

ブラックメタルとしてのSIGHはこの作品から始まった。この頃からライブではメイクをし、火を吹くようになったのである。ただ、現在と比べるとMIRAI氏が当時影響されていたドゥームメタルの影響が色濃く出ており、今のような大仰なアレンジはあまり見られない。ちなみに7"EPは2曲収録だが、テープの方は3曲収録されていたように思う。(3曲入り)



"SCORN DEFEAT CD '93

ノルウェーのDSP改めVOICES OF WONDER REC.からリリースされた1stフルCD。ようやくここにきて現在のSIGHのスタイルが確立されたのである。キーボードを大幅に導入し、凝ったアレンジが増えているが、ブラックメタルとしてのSIGHのアイデンティティーは全くと言っていいほど失われていない点に凄みを感じる。ちなみにジャケットは2つ存在している。(7曲入り)



"INFIDEL ART CD '95

イギリスのCACOPHONOUS RECORDSからのリリースとなった2ndCD。音はあくまで前作の延長線にあるものの、曲のアレンジや実験的な部分が強く前面に出ており、曲だけでなくユーロプログレである。ブラックメタルうんぬんではなく、一つの素晴らしい音源として聴いてみて欲しい作品である。全てを超越し、更なる領域へと突き進んでいる。ジャケットも秀逸。(6曲入り)

その他の作品

"FAR EAST GATES IN INFERNO COMP.CD '94

"The Zombie Terror"を提供。2ndCDとは録音が違う。

"KAWIR / SIGH SPLIT 7"EP '95

新曲"Suicidegenic"とVENOMのカヴァー"Schizo"を提供。

関連作品

AMDUSCIAS / DEMO #1 "

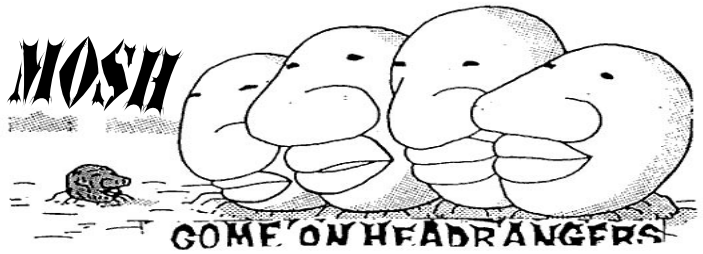
MIRAI氏がキーボードで参加。

前ページ(P10)にてインターネットの特集をしたが、締め切り間際になってSIGHがホームページを持ったという情報が飛び込んできたのでここで紹介したいと思う。アクセスしてまず気付くのは、メインページの意外なほどの素っ気なさ(サウンドがサウンドだけに凝るかと思われたが...)でもこれは裏を返せばそれだけ内容を充実させる事に心血注いだということでもある。実際、それは英語と日本語でそれぞれ記述がなされているという点からも明らかだ。しかも微妙に英語のページと日本語のページで書いてあることが違うのは面白い。例えば日本語では「初期のスラッシュのページ」というのがあって過去の名盤・迷盤を紹介しているんだけど、英語では「MIRAI'S WANT LIST」という事で未来さんが喉から手が出るほど欲しい音源をリストアップしたページになっていたりとか、あとは英語の方でしかメンバー写真が見れないとか、どちらかと言えば英語の方に重点を置いた作りに思われる。ちなみに英語のページでは前号がばらのSIGHインタビューの英語版を読むことが出来る(有り難う未来さん!)。他にもSIGHの情報だけではなく、ABIGAILを紹介したページや、AMDUSCIAS、SABBAT、DRILLのニュースまでかなりシーンに対してきめ細やかな作りとなっているので必見だ。あえて不満を言えば、SOUNDが聴けない点。それぞれのサウンドが聴けるようになったら、よりバンドに身近なホームページになれると思う。

最後にSIGHの新作情報だが、CACOPHONOUS REC.よりスウェーデンのVERGELMERとのスプリットCDがもうすぐリリースされる。SIGHはイントロ、アウトロを含めた6曲を提供しているようだ。尚、VERGELMERはDISSECTIONタイプのバンドとの事だが、もしかしたらスプリットするバンドが変更になる可能性もあるそうなので要注意。



DIVE INTO THE MOSH



96.7.21 新宿アンティノック

この日は何と7バンドも出るという。一度にたくさんのバンドを見るのは嬉しいが、疲労度も高い諸刃の剣でもある。そんなこんなのスラッシュ、デス、ハードコア、ノイズとごった煮のアンティノックです。

SABBAZ

前回に見た時よりもスラッシュの匂いを感じた。スラッシュとは言っても、どのバンドに近いのだろう?...と考へて出た結論が、初期のSHELLSHOCK。疾走感とかVoの雰囲気に近いものを感じた。そんな事を考へていたら、オリジナルが4曲終わったところでゲ



SABBAZ

ストとして何と元SHELLSHOCKの伊藤氏が登場して場内ビックリ(私だけか?)。SLAYERの超名曲 "Raining Blood" "Angel Of Death" をカバーしていた。このカヴァーを聴いて思っただが、Gの音がこもり気味で今イチ聴き取りづらく(PAも粗かったが) もうちょっとキレのある音ならばSABBAZの曲ももっと生きてくるというか、親しみ易くなると思った。

TIMISOARA

私はノイズをどうこう言えません。ご免なさい。決してTIMISOARAが悪いとかそういう事ではありませんのでご了承下さい。無言の重音&反復型ノイズだと感じました。

BANGDOLL

1曲目は1stデモより "Bangdoll"。昔のBLIND GUARDIAN meets 昔のSEPULTURA的なサウンドで、ツインリードが印象的な疾走感のある曲で個人的にも好きなナンバーである。VoがA.キッサー的なことも手伝って、ジャーマン風のメロディが随所に見られるものの、全体的にはスラッシュの匂いを感じる。テープで聴くよりもライブ映えするバンドで、気持ち良く楽しめた。2ndデモではより硬派な音になったが、1stのメロディアスな面も捨て難く、融合が望まれる。演奏も安定していてキレもあり、聴きやすくまとまっていた。今後の活躍が楽しみなバンドである。

AZAGTHOTH

観るのは5/12以来だが、相変わらず整合感と勢いが混在したスラッシュ

らしいスラッシュで気持ち自然とノッてくる。Voの吐き捨て方がよりT.エンジェルリップー的に感じたせいもあるが、前回以上にその影響を感じたのも確か。スラッシュの若手有望株としても抜きん出た存在感があり、ファンの勢いも上昇気流にのっている。音は違うけど、昔のVOIDDのようなバンドとしての勢いを感じた。このまま突っ走って欲しい、スラッシャー必聴&必見バンド。

大砲

松本のHEAVY GROOVE GOZ大砲、Drの中澤嬢が金髪になって外見にもよりハードコアな色合いが濃くなってきた。根がメタルでないだけに、サウンドと外見が一層融合してきたようにも思った。さすがに頻りに東京に来ているだけあって盛り上がりもナカナカ。どうしても珍しき故にDrに目がいってしまうが、始終楽しそうに安定したリズムを叩き出していたのが印象的。MCも楽しく、フロアも和やか。サウンドは違うがガムテジのように明るく元気に楽しめた大砲のライブでした。

DEATHFILE

一歩間違えばノイズと化しそうな怒轟音で迫ってくる激情むき出しのサウンドは圧倒的だ。中盤にはG氏がフロアに飛び出して大暴れ。日頃の鬱積した怒りを楽器にぶつけるかのような怒涛のステージで、11時近くになって帰宅の足が心配になっていた私にはちょっと重かった、っていうかある意味恐かった(笑) とにかくにもハードコアなサウンドだ。

CASBAH

長かったこの日のライブもいよいよオーラスとなった。この日も正直まだ浸透しきっていない新曲中心の構成だった事もあってか、反応は少なかったものの全体的には羽鳥&村山氏共にアグレッシブなステージだった。後半 "March..." の際にGトラブルがあったのは残念だったが、Drソロで繋いだりと機転の効いた面も見られた。ラストも新曲だったが、私はどうしても昔の曲が聴きたいという欲求を抑えられないので、次こそはやっで欲しいと思う。これは単にノスタルジーかどうかという問題ではなくて、CASBAHというバンドの歴史を否定して欲しくないからである。MCも羽鳥節全開でとてもCASBAHらしい風景だった。

全て終了したのは11時40分頃だったのだろうか。ちょっとシャレになんなかったので企画者には一考を要したい。全ての人が帰宅せずに夜を明かせるわけではないのだから...。これは余談だが翌日まで耳鳴りが続いたのは初めてだ。ずっとスピーカーの前にいたからなあ...。(文責:すぎ)

96.7.27&28 大阪ブランニュー

「HARD ROCK MANIA VOL.4,& VOL.5」

では問題です。どらえもん、ゲゲゲの鬼太郎、DEEP PURPLE、この3つに共通するものを述べよ。いきなり冗談きついが、親子2世代でお世話になっているブランドは昨今のリバイバルブームによって氾濫しているが、このDEEP PURPLEも親父と息子が楽しめる必須アイテムになっとなっちゃうよ。さて大阪恒例のHARD ROCK MANIA VOL.4&5に両日腰痛を引き連れて行って来た。昨年は阪神大震災でなかったために約2年振りのイベントである。両日の出演バンドは8バンド。初日の目玉は最近PURPLE TRIBUTEに参加し、日本のR.BLACKMOREといわれる梶山 章率いる "PRE ROSA" (PRECIOUSとTERRA ROSAの合体してこのネーミングになった模様) だろう。しかし、ようこれだけ入ったもんだわ。両日で推定550人から600人。通勤列車のすし詰め状態が続いたという2日間でした。

7/27(SAT)

なんと時間を間違えて一時間も早く着く。すでに客は並んでいたが年寄りに気を使っていた中に入れてもらったが、これからATTRACTのリハーサルが始まるという。新装ブランニューは旧ヤンタ鹿鳴館の暗いイメージが一新され、テクノサウンドがよく映えるモダンな作りになっているのに驚いた。店の雰囲気は今後バンドを選ぶことになるだろう。1時間遅れのスタートである。

ATTRACT

以前本誌にデモ・レビューが掲載され勢力的に活動しているATTRACTがイベントのオープニング。緊張しているのかわからないが与えられたチャンスに全力をだす姿勢がこちらに伝わってくる。サウンドの方はデモでは様式美たる音色であるのにライブはGが一本になるのか少々荒く

てつらい。ドラムもそれにつられて時々走ってしまうが、逆に若気の至りでよしだろう。女性ボーカルは元SABER TIGERのよこ嬢に声質が似ていてとても気持ちがいい。楽曲がボーカルラインにフックがあってとても良いのにギターのソロになるとどうしてもだれてしまうのが残念。とくに今回のイベントのような場に出るならセッティリストを削ってでもAT-TRACTのアピールに徹せればよかっただろう。特に後続の出演者が凄いのばかりなのやから。好感をもてるバンドだ。

GUARDIAN'S NAIL

ATTRACTが引込むとすでに総立ち。品川の腕しか見えない状態(シナボンゴメン! 笑)。いつのまにか大阪でも相当な客動員数をのばしてきているGUARDIAN'S NAIL約一年振りのお大阪である。SEからしてGUARDIAN'S NAILが起きている。ただし目黒とちごてほとんど男の声である。大阪では初めて演る'Passion Red'で幕開け。化粧品のコマンソに使えるほどのキャッチーな曲だ。演奏はすでに余裕さえ感じるぐらいに安定していて、このバンドは改めてライブバンドだということが確認される。無駄のないステージング・構成は当然アマチュアレベルを越えて、"Face To Face"まで客に歌わせてしまう品川笑顔はフレンドリーなこのバンドのイメージを植え付けている。ROYALHUNTやB.GUARDIANのT-SHIRTSを着たキッズが拳をあげて歌っている姿は彼らの2年前に初めて大阪にきた頃と比べて想像もできないぐらい成長している。ネクストステージに駒を進めるべきだ。もっと大きな所で見たい。

PRE ROSA

いよいよ本日のメインディッシュ登場。誰もがPURPLE、RAINBOWの曲そしてPRECIOUS、TERRA ROSAの曲を期待しているのだろう。梶山章はすでに職人芸の最高位に達している。トルコ行進曲をいとも簡単に奏で、DEEP PURPLEよりも本物っぽく、上手く弾いてしまうのは彼らのキャリアが物語っている。赤尾和重のリードもさすが、「あと2曲さっさとやって帰るかぁ」という和気あいあいの乗りがまたよい。岡岡、板倉、そしてベースの加瀬竜也という日本HR界の生き字引がステージに2回しかたないことにこのライブも貴重価値があり、親子連れからサラリーマンまで様々な客層から支持されている。彼らを見てみると日本のHRの土壌もまだ十分であると痛感したライブだった。おもわず昔を回顧した70分におよぶライブ。しかし純粹には喜べないものもあった。

7/27(SAT)

そして二日目の最終日は昨日より小粒だが新勢力というべき新人4バンドになんと80年代活躍していた京都のEBONY EYESの登場である。昨日同様この日は300人は入っているんちゃうかというぐらいの満員御礼。最近のHM/HC系のライブはほんまに汗と暗いイメージがつきまとうが、この日もきれいなお姉さんが多い。HM/HRのイベントでこれだけCHANELやFENDIといったBRAND物をもったお姉さんがはいたのも久しぶりじゃないやろか。誰を目当てに来るとのやろ。汗の臭いに混じってCHANELの香りが会場に漂う。オヤジやな(笑)。

MOON-STRUCK

本日のトップ・バッターは元VOLFEEDのBASS、FURUIに元CRYSTAL CREAMのDs、元レイアのG、そしてVoは元RUDE TEAZER CRAZEはどうなったんよMICOTO嬢なるMOON-STRUCK。関西の伝統芸で正統派美旋律様式美鋼鉄音でどなんんと聴かれたら迷わず「この方々が奏でる音です」と答えてしまうお約束の音である。悪く言えばバツイチ以上の再編成バンドだが並の新人とわけが違う。昔よりもMICOTO嬢は存在感があり、声も一際でている。最初彼女が歌っているとは予習しておらず分らなかつたが、心配していたパラドまで難なくこなし、凄いい変貌ぶりである。中盤まで体育座りしていた前席をいきなり立たせたのはたいたいのだわ。おかげでいきなりこの日もステージが見えなくなったが、また見たい。

KING OF DARKNESS

こも頭から盛り上がっている。30分の持ち時間にどれだけアピールできるかがバンド側の課題だが、KING OF DARKNESSもTNTばりのパラドをセットに組み入れ頭からとばす。様式美というより、ROXYのような歌を大切にする西海岸バンドのような雰囲気だ。音の分離が4ピースにしては良く、かなりクリアに聞き取れるのは曲のメリハリ、静寂をしっかりキープしているからだろう。Voの彼は緊張していたのか一番新人らしい好感感が残ったバンド。バックのハモリは素晴らしい。

VIGILANTE

満員電車のオババのようにやっと最前線までらみをかきしてたど

着く。いよいよVIGILANTEの登場である。どんな奴が陣取ってんねんと横の彼を見れば何かみたような雑誌を読ん取るやないの。おおつ、KABBALAの新号である。洒落にならんわ。まだワシはこの時点で手元がない。故に読んでない。ライブレポートに目を通し、フムフム、あっ「なにわメタル道」とばしよったな。これを読んだ君、君です。KABBALAにぜひ連絡を下さい。記念品がです(笑)。さて、このイベントで唯一外国から招かれたバンドウソヤウソヤ...笑。確かこのイベントのタイトルはハード・ロック・マニアである。このバンドが出てきた時ははっきりいって昨日のなごんでいた梶山章さぞこいつかという登場だった。前2バンドがえらく陽性な盛り上がり演出させた中でVIGILANTEの奇襲攻撃は、VIGILANTEを目当てに来ていたリスナー以外が目点に、口があんぐり状態だったのではないだろうか。なにせ音目がいい。天井が落ちるんちゃうかというボーカルにドライブしまくりの両ギターに変別リズム隊の嵐はいうまでもなく、先程までのバンドの8ビートのリズムからかけ離れるもので、おそらく見ているものは硬直状態だっただろう。あつという間の24分間。ズパーとやって引込む彼らは完全に今イベントのヒーロー役を見事にこなし、満員総立ちの客をみごとに冷たくふりきって退場するのであった。

EBONY EYES

正直疲れてきた。ずっと立ちっぱなしやないけ。再結成EBONY EYESは正直期待をしていなかったのその後ろでビールも飲みながら人森林の間からと聴いてよと思っていたのが大きなまちがいがつた。ステージには携帯電話にアカペンを耳にしたらアツと言う間にテキヤか不動産関係の人のねと思う方がたつておられたが、なんとこのお方がEBONY EYESの初代Vo田中氏やないの。ゲゲ、無駄のない覚えやすい歌にこれまた無駄のないメロディアスなギター。「黒い瞳のマリア」だわ。CHANELもFENDIの美人お姉さんも歌っている。結局後ろの方でみんな歌ってるんよ。それだけ日本語をハード・ロックに乗せることが上手いバンドやったんやね。しかし、この説得力のあるボーカルとギターはまだ現役でできますぞ。隣の女性が泣いているのにはほんまにびっくりした。合掌!

CONCERTO MOON

このイベントは合体バンドが4つも出るのが特徴だったが、イベントの最後を飾るのは最強合体を試みたZENITHAL CLEARいやいやCONCERTO MOONの登場。デヴューライブをこの大阪で飾るといふ熱意が凄。目黒で見た顔や地方から来た客も多数きているようだ。前回のHARD ROCK MANIA VOL.3のトリもZENITHだったが、中年御婦人方が花束までもってくるという光景まであるわで今回も凄。国内市場の洋楽HR/HMを支えているのは日本の賢いIOL/婦人層だと某雑誌で暴言をはいたことがあるがまんざら嘘ではない。新曲を取り寄せてのメニューだが、Gの島が加入するとさすがに違う。ZENITHのままでええやんと思っていたが、彼らの選択は音を聴くとよくわかる。幻想的なKeyに絡むメロディアスなGは、この手の様式美鋼鉄音を好むリスナーにはすべて満点であろう。日本語でメリハリつけて歌う尾崎のボーカルもZENITH時代に比べて余裕が出てきた。相方によってこれほどまで変わるのだから、信頼できるパートナーを得たこのユニットはまだまだ上昇の気配ありである。「ファンが育てた結果このバンドは進化した」と言ったら尾崎氏は怒るやろか。

後記

ほんまに二日連続疲れた。といっても心地良い疲れ。主催者の岡西氏はアソトが旨い。よくこれだけのバンドをブッキングされたと思う。出順もよく練られていて、ダレがちになるイベントをバンドのセット中に、彼のDJでアンダーグラウンドの新人バンドのDEMO・CDを流すのだが、これがまたひとつの楽しみで嬉しい。今回はVIGILANTEをかけていたが、今回は太田カツ、JIHARD、ISIS EXCELENT!!! 等の次なるウェーブを紹介していた。関係ないことだが見ている客の飲み物、タバコのポイ捨てのマナーの悪さが目立ち、ブランド側の手際良さにはびっくりしたが、客のほうにも携帯電話の電源を切るとかの最低のマナーを守らんとHR/HMの客はこれだからあかんとならんようにせなあかん。バンドのほうもマナーがええわな。次回VOL.6もぜひお願いしたい。

THANKS TO Mr.KUNI OKANISHI (VIEW POINT)

Mr.MAEDA (BRAND NEW)

(文責: 金田)



96.8.3 高円寺2000V

「激昂ライブVol.6」

EYE POPPER

噂のレディーストリオを初体験。VoがS.J.MっぽいとかANTHRAXタイプのスラッシュだとかいった噂を耳にしていたのだが、グループコアの要素を取り入れたスラッシュなサウンドという印象だった。技術的にはまだまだな部分もあるようだが、自分達の出来る範囲で精一杯やっているという気がして好感が持てた。ラストに「BEDLAMのくまさんお疲れさま」というMCからBEDLAMのナンバーを演奏。若干ヨレヨレであったが、気持ちが入って良かった。メロコア的な突き抜けた爽快感があって楽しかった。頑張って続けてね。

SUBCONSCIOUS TERROR

CDもリリースしたし勢いに乗りたい若手デスラッシャー、サブコンはこれから約1カ月半に及び全国ツアーの序盤盤をここ高円寺で迎える事となったが、何とこれが東京初登場なのである(前は川口だったからね)。1曲目は「Sacrifice Of Technology」。技術的にも高度なものを持つ彼らだけに演奏面の不安は少なく安心して見られる。1曲が長いので都合4曲しか演奏できなかったが、初めて見るファンのファーストインプレッションとしては充分に観せてくれたと思う。テクニカルデスラッシュを堪能したい人はチェックすべし。果たして全国ツアーでどれだけけけられるか、楽しみでもある。

CEMMENT

セッティング中のCEMMENT。心なしか石川氏の顔が緊張気味だ。それとも気合を入れているのか。そんな新Voだが、ライブが始まれば一転してDISGUST時代同様に所狭しと転がりだした。各方面でのリアクションも増えてきているこの時期だけに新Voでコケる事は許されないが、そのような心配は全く不要。阿部氏とはまた一味違ったCEMMENTワールドを見せてくれた。MCも独特の笑いのセンスが。4人共いつも以上にアグレッシブで、幸先の良いスタートを切ったと言える。第二期CEMMENTは今、幕を開けたばかりである。

BEDLAM

「くまちゃんやめないで〜!」という黄色い声(?)が飛び中、BEDLAMのVoラストライブは「The Crown」で幕を開けた。演奏者もお客もいつもの5割増くらいの高いテンションで、特にファンはモッシュにダイブして大暴れ大会で、ラストをめい一杯楽しんでいるようだった。名古屋

BEDLAM



CEMMENT

ガムテジ



屋からの参加者も多数いたようだ。「No Limits!!」の掛け声も私が聴いた中で一番大きかったし。くま氏は最後の「A Sudden Attack Of Illness」では演奏度外視で煽りまくって吠えまくっていた。くまさんは最後に投げキッスを2つ残してステージを去っていきました。それにしてもCD作って勢いに乗りたかったこの時期だけに返す返すも残念である。ある意味でこの代償は大きい。

MEGABOIN

見るのも初めてなら聴くのも初めてだったが、印象としてはブルージーかつジャジーなミクスチャー系ロックといった感じか。殆どの曲がインストだった(後で聞いたところによると本当はVoもいるそうだが、これがまた大穴!と声高に言いたい位オイシイ。インストとしても聴けるし、何でもかんでもの雑食性が非常に良い状態で混ざりあっている。ALICE IN CHAINSに関西風の味つけをしたかのようなもある。お笑い系じゃないけどどこなく大阪的な臭いがある、かっこいいミクスチャーバンドだと思う。ライブ見ててデモ欲しくなった。ドラムがサウスポーで珍しいと思った。

DEATHFILE

轟音デスコアのDEATHFILEは先日(7/21)のライブもあって恐いイメージがあったが、この日は若干控え目だったものの、それでも熱く激しいブラストマインドを見せてくれた。アンチノックに比べて音も私と、DEATHFILEにとって音云々がどれ程重要なかは分からないが、私としては喜ばしい事であった。ドラムセットがシンプルで、見た目ハードコアチック。今や代表曲の感ずらある「Jealousy」が一番盛り上がっていたように思う。確かに静と動のギャップがハッキリとしていてわかり易く楽しみやすい曲だから当然か。

ガムテジ

岡野氏のBがアーム付き!しかもヘッドにはスカルウイングの金物が付いておる。やってくれるぜ!ってなわけで阿部氏加入後初のライブとなったガムテジは、今やすっかりお馴染みとなった「Elvis On Stage」でスタート。阿部さんがジャンプしてるっす。究極の異種格闘技戦!

と思っていたものの案外ハマって見えたのは、はばちゃんのGが一層チリチリしてきたからだけではない。そのはばちゃん、途中でストラップが外れてGチェンジ。新曲中心のセットだったが、4曲目の「UHO Dance」ではCEMMENT阿部とガムテジ岡野の饗宴って感じ、ステージングという意味でだが)で興味深かった。これからこの4人が融合してどんなマジックが起きるのか、楽しみだし期待したい。ライブ中にTERRORのメンバーを挑発しちゃだめだよ(笑) (文責:すぎ)

96.8.29 下北沢SHELTER

SHELTERに行くのは久しぶりである。今時の音を出すバンドが集まる場所、という印象が強いせいもありこの日のメンツにはイメージ的に当てはまらない気がしないでもないが、メンツの濃さを考えるとどうでもいい事である。学生は夏休みの宿題に追われ、社会人は仕事であくせくしている頃だが、それらを放り出しても足を運ぶ価値のある内容に、残暑の気だるい暑さを一掃してくれそうな熱いライブが期待できそう。そう思い、残り少ない夏休みの夜を下北沢で過ごしたのであった。

DEFILED

この日の先発はDEFILEDであった。本誌でも鬼畜でおなじみのバンドだが、ライブを観るのは初めてである。確かに異様なテンションの高さを終始保ちながら、一気にガーッとってしまう激しいステージは、鬼畜という称号に恥じないものではあるが、音がクリアだったせいか、轟音の本領発揮とはいかなかったのが残念である。全5曲約15分という短い時間だったので、食い足りなかったというのが正直な感想である。会場のボルテージを盛り上げるという役目は果たせたとと思うが、DEFILEDとしての凄さをもう少し見せつけて欲しかったというのは欲張りすぎたろうか。次は違った場所で見たい。

SUBCONSCIOUS TERROR



SUBCONSCIOUS TERROR

前からライブを見てみたいと思っていたバンドの一つである。テクニカルさをウリにしているバンドなだけに、それをどう表現するのがポイントになるわけだが、そういった点は全く問題ナシといえる。多少曲が難解で長いのでとっつきづらいかもしれないが、あくまでデス/スラッシュ特有のアグレッシブな部分が前面に出ているので、ライブで観ると意外とノリやすかった。技巧に走らずにこの感覚を上手く活かして頑張っ欲しい。DEFILEDとの全国ツアーが着実に実を結びつつあるのを十分に感じさせるライブであった。

GOATS

GOATSを観るのは久しぶりだが、改めて凄いいバンドだと感服してしまった。ぶつ切りの展開をつなげて曲にし、それを強引に力で押し切る事で異様な緊張感を生み出し、それを一つに流れとして成立させるのがGOATSの凄さだが、それをライブにおいても同様に表現してしまうのだから、GOATSはかなりの実力を持ったバンドだという事がわかるというものだ。複雑怪奇ながらも、何かストレートにノレるという奇妙さは相も変わらず、これがGOATSだ、という雰囲気や発散していた。この日は新曲も披露していたが、誰が聴いてもGOATSという域まで達しており、CDを出してGOATSは更に大きな存在になりつつある気がした。この日はGOATS等のように変化球で攻めるバンドにとっては、音がクリーンでキレがあって好都合だったようだ。

TERROR SQUAD

この日の中では普通に感じてしまうが、周りを脅かすだけのパワーを一気に爆発させることが出来るバンドなだけに、力の見せ所といったライブであったが、序盤にGの音がジャリジャリしてしまい、気がいが上手い形にならなかった気がする。後半部の"Wall"あたりからようやくエンジンがかかり、最後のほうは本来の力が出ていたと思うものの、かなりの苦戦を強いられた感じだった。全体的に粗さが目立ったが、この日はこれくらいが丁度よかったのかも...。良くも悪くもTERROR SQUADといった感じのライブであった。

CEMENT

Voがチェンジし、新たな局面を迎えたCEMENTだが、かなりガツーンとやられた。阿部氏と比べて、アクの強さや威圧感という面では弱いものの、それを補って余りあるインパクトをこのVoは与えてくれた。狭いステージを目いっぱい動き回り、イカレ気味のキャラを演じる姿は、デヴィン・タウンゼントにも近いものを感じさせる。これだけでも必見だが、スクリーミングまでこなせる力量もあり、今まで以上に破壊的になったCEMENTにとっては心強い存在である。自らが"DONOR"で作り上げた壁をぶち壊してくれそうなので、そんな予感がした30分だった。これは必見と言っておこう。

この日は最初から最後まで楽しませてもらった。見慣れた組み合わせと言われてしまえばそれまでだが、このシーンの中では強豪が集まっただけに、シーンはまだ厳しいところか...。シーンの今後は、この日出たバンド達の頑張りにかかっていると信じている。そんな気持ちで下北沢を後にしたのだった。(文責: 多田)



96.9.4 大阪難波口ケッツ

新メンバーが決定し再始動したHYDRA主催のギグ。平日木曜日とあってか客動員は少ないが、ほとんど客の目当てはCD発売の遅れていたGURDIAN'S NAILだ。

MOTHER TAIL

5人編成のAMERICAN HRあり~の、バラードあり~の大阪の若手バンド。大阪はたまにふらっとライブハウスにはいるとこの手のLOOKSのいいバンドが多い。Keyが女性なのだが下手モニターに隠れていて私からこの美人はみえなかったのが非常に残念であった。あとは割愛します。

BLASDEAD

昨日は九州、明日は名古屋のCD発売記念全国行脚ツアー真っ最中のBLASDEAD、初期ブラガ(BRIND GUARDIAN)を支持する大阪風土にぴったりの直線的鉄鋼音に応援団のような男性コーラスの掛け合いが気持ちいい。アット・ホームなステージ前は首がちぎれるくらい頭を振っているBLASDEAD-ERが援護射撃。CDよりも数段うねりのあるリズム隊は一見の価値あり。"やわらちゃん"安野の笑顔がとんでもフレンドリーにさせてくれるし、JEFFの存在は異国のライブハウスで見ている錯覚を覚える。しかし、ええバンドやねえ。ほんまに異国にライブしに行っって力を試してほしい。

GUARDIAN'S NAIL

このバンドはいつも言うがLIVEの方が良い。LIVEが良いから客動員が急増しているし、マーチャндаイズも売れているのや。大阪の客はその点ウルサイ。7月のイベントと同じセットリスト。しっかりした演奏に、ステージングはいつも自然でかっこええ。気がつくともBのKYOを皆追いかけている。正田のドラムはええ。渋い! 旨い! メジャー契約こそしていないがプロとしての誇りを感じる。他のバンド群から一歩抜きでているのは、楽曲以外にこの姿勢にある。ライブでこれだけの信頼があるから洋楽信者がふえるのだろう。昔みたいにステージに突っ込みがでかへんのが残

念だが(笑) まだまだ客動員数は来場の客の会話から読みとれる。ステージセットの途中に一音も出さへんのはプロの常識。ここでアマとの違いがわかるわな。紳士的で知的なバンドだ。海外バンドをよく勉強している。

HYDRA

個人的にHYDRAを見たかった。新しいBASSISTがステージに登場。6弦ベースにフランジャーを掛けまくっている。誰やった、見たことあるでこいつ。思いだされへん。何かしら目黒辺りで拝見したことがある。STONE EDGEのJIRO氏も在籍していた東京のSTOICのベースやわ。と思う。いや、そうや。東京からHYDRAに加入するため大阪に来たという一見恐そうな浜田氏だ。50分以上のHYDRAのステージは正直、GURDIAN'S NAIL目当ての客には相当なカルチャーショックであったであろう。いきなり裏から入る太鼓は普通ここまで技術にこだわるのなら違うジャンルにしている人材だ。LEAD VOICE、LEAD GUITER、LEAD BASS、LEAD DRUMの4 LEAD UNITのからみは決して乱れもなく、完全に見ているものを圧倒し冷たく引き離していく。HIDDEN + SALEM + CELTIC FROST ÷ 3といった表現しか出さへんが、このバンドは癖になる。ふてぶてしい彼らをもういっぺん恐ろしく覗いたという麻痺じみた処がある。凄いわ。難を言えばワンフレーズでいい、ハツとするサビがあれば言うことあらへんに。(文責: 金田)



96.10.4 高円寺20000V

「BLACL METAL YAKUZA Vol.2」

久々に行なわれた「黒ミサ」に行ってきました。出演バンドは首都圏を中心に活動しているブラックな4バンドだ。かなり「キテる」ライブを期待していたのだが、果たして...!?

FUNERAL RITES

初っ端から気持ちいいまでに飛ばしてくれたFUNERAL RITESはトリオ編成。ライブを観た限りでは、ブラックというよりも邪悪なスラッシュとも言うべきサウンドで、見た目もガンベルトとか付けてるもののメイクは無しで、ブラックだという主張が無ければスラッシュバンドだと呼んでも差し支えないかもしれない。1stデモからの「funeral Rites」はノルウェー風のナンバーだが、それが「やや浮き気味に感じてしまう程なのだから。前号のMIRAIさんのインタビューが頭に浮かんだ。やはりブラックの根底にあるものはスラッシュなのだろうか。暗黒系スラッシュが好きな人は要チェックと言えるかも。

...それにしてもピラも撒かずによくこれだけ集まったものだ。50~60人位だったと思うが、悲しいかな「ブラック?何それ?」とも言い出しそうなお客さんが目につくのはご愛敬か。多分関係者等に誘われてきたのだろうが、シーンの底の浅さを見た気がしたと言ったら言い過ぎであろうか...

MORTES SALTANTES

噂に聞きしその名なれど一度として拝聴する機会無くこの度お初にお目にかかります、というわけでステージのど真ん中にキーボードが置かれている。VoがKeyも弾くらしい。白塗り黒縁取りのメイク&黒装束にガンベルトと、我々トシローが頭に思い描くいかにもブラックな立ち立ちというこだわりは掛け値抜きで賞賛に値する。押せ押せのスラッシュ・ソングあり、ノルウェー風ファスト・ソングありだが、その中にも変拍子を用いたり展開を工夫してみたりとオリジナリティを打ち出そうという姿勢が見て取れて好感が持てる。Voのシアトリカルがかった動きも含め、変な話「裏ヴィジュアル系」とも言える位にその姿勢は徹底している。惜しむらくはMCがめっちゃくちゃフツだった事。あれでは自ら構築したものに背を向けるようなものである。もっとも自ら徹底していけば自然と道は開ける気がするのだが...。ラストのMAYHEMのカヴァーでVoが火を吹こうとして失敗してしまったのはご愛敬やね。あとVoが背を丸めてKeyを弾く姿は何だか可愛らしかった。ところで何故前の方のお客さんは座って見ていたのだろうか。床に腰を下ろしているのに首が揺れている人もいたが、立てばいいのに...謎だ。

ABIGAIL

日本のブラックメタルバンドとしては古参の部類に入るバンドながら殆どライブ活動を行っていないので今イチ存在感の薄く失礼! ABIGAILだが、この日はやや地味ながらもABIGAILとしての拘りの一端を垣間見た気がした。見た目は殆ど普通で、でもよく見るといやよく見なくても)フロント2人がメイクしているのだが、それがとても薄化粧なので、顔色悪い人みたいっていったら怒られるだろう(でもそういう感じだった)。最初飛ばして次はミドル...と緩急をつけた構成はサスガである。ペースはフレットレスなのね。このバンドでも源流はスラッシュ(と言ってもVENOM~CELTIC FLOST周辺の音)だと痛感。特にラストの曲はイントロからエンディングまでスラッシュの疾走

感を存分に感じさせてくれるアドレナリン放出しまくりのカッコ良さ(オリジナルか否かは不明)。パフォーマンスに頼る事なく音で魅せてくれた点を評価したい。

SIGH

この日はセットチェンジが素早く素晴らしい。いやマジで。気がつくといつの間にやらお客さんが前へ前へと迫り出してきていた。さすがは世界のSIGH、ファンを魅き込む力を付けてきた!ってうかこれは2ndCDの素晴らしさがバンドに対する期待となって表れたものなの(その割にはライブ終了後にCD買っていく人多かったみたいだけど)。さてこの日のSIGHはどう出るのか。おっと、MIRAI氏いきなり血まみれ蜘蛛の巣まみれのマッド・サイエンティストをイメージしたかのような姿で登場。完全に意表を突かれて唖然としている間に演奏がスタート。曲はセトリリストを見ていただければ解るように、いつにも増してオリジナル指数が高い。これはとても嬉しかった。私なんかは頭の中でKeyを絡めつつ聴いてしまったが、トリオでも充分カッコ良いと改めて感じさせられた(特に「The Knell」はきた)。もうすぐリリースされるスプリットに収録されるであろう新曲「真言立河」とでも書くのでしょうか?はどことなく70年代のサバスのアプローチが感じられた一方で、これまたどことなくSIGHらしさがちらほら伺えるのが面白かった。Key入りだとどう聞こえるのだろうか。ラストはお馴染VENOMの「Black Metal」で幕。もしアンコールがあったならば「The Zombie Terror」を是非演奏して欲しかった所だ。そうしたら私はもう何も言う事ないです、はい。

ブラック・メタルという言葉の魔力に、これから起きるであろうあんな事やこんな事を考えていたのだが、どうも私の誤解だったようだ。この日、火を吹いたバンドはナシ(但し「吹こうとした」バンドは有)。それにサウンドとは裏腹にステージングという面では非常におとなしい印象を受けた。その中でも唯一

ナカナカ徹底していたMORTES SALTANTESが印象に残ったのは当然と言うべきか。それでもなおやっぱり「SIGHを見に来て良かった」と思ってしまった点で他のバンドの奮起に期待したい。

(文責:すぎ)



MORTES SALTANTES



SIGH



ABIGAIL

- SIGH**
Set List 96.10.4
1. Infernal Death
 2. Desolution
 3. The Knell
 4. Seven Gates Of Hell
 5. Izuma
 6. Schizo
 7. Singontachikawa
 8. Black Metal





NEW GENERATION OF JAPANESE DEATH METAL

デスメタル新世代の序章

私が本格的に日本のアンダーグラウンドシーンに興味を持ち始めたのは意外と遅くて92年の秋だった。当時欧米のアンダーグラウンドシーンの主流はスラッシュからデスメタルへと移っていて、その影響を受けてか日本のアンダーグラウンドシーンでもデスメタルのバンドが続々と登場していた時期でもあり、HELLCHILD、MULTIPLEX、TRANSGRESSOR、SATANIC HELL SLAUGHTER辺りを筆頭にERODEDやMAGGOTY CORPSE等の日本のデスメタルシーンの第二世代とも言えるべきバンドが続々と飛び出して来た頃でもあった。当時のデスメタルシーンはある意味で破竹の勢いであり、かのトイズ・ファクトリーのオムニバスCD『TO THE MARROW』がリリースされた事によって事実上のピークを迎えたとも言えるだろう。しかしながらTRANSGRESSORが解散を表明した93年5月5日高円寺2000Vでの『INDRAWN STAGE』を境に、シーンは徐々にかつての勢いを失いつつあるように思えた。その後デスメタルシーンの牽引役と目されていたHELLCHILDは、自らの枠を拓ける為か、はたまたシーンに見切りをつけたのか次第にハードコア系のバンドと共演する事が多くなってきた。そしてMULTIPLEXも一時期の活動休止を経てHELLCHILDに近い道歩んでいるように思える。そんな中でデスメタルシーン最後の砦と目されていたERODEDもアツと驚くサウンドチェンジ(でもカッコ良かったけど)をした後に解散を表明、デスメタルシーンから牽引役たるべき核が消えた(と思った)。そうしたシーン拡散状態のまま現在のデスメタルシーンへとつながってくるのだが、正直未だに核不在の状況が続いているというのが現状ではないだろうか。そんな現在のシーンにおいて一際目につくバンドが2つある。それがDEFILEDとDESPERATE CORRUPTIONだ。80年代のHMやスラッシュから影響を受けたそのサウンドは徹底してブルータルでアグレッシブなデスメタルを標榜しており、今のメロディアスなデス/ブラックメタルがもてはやされる時流の波からは外れているかもしれないが、決してメロデスが悪いと言っているのではなく、いかにデスメタル! といった快感を味わせてくれる事必至だ。今後のデスメタルシーンの牽引役になって欲しいとの個人的かつ勝手な期待も込めて、それぞれDEFILEDとDESPERATE CORRUPTIONの2バンドにインタビューを試みた。(文責: すぎ)



DEFILED

魓魅魍魎百鬼夜行超激烈轟音デスメタル・バンドここに見参！ 日本全国に悪の華を咲かせるべく行脚にいそむDEFILEDを遂にキャッチ、決死のインタビューが敢行された。すると、DEFILEDとは邪悪な秘密結社ではなく、音楽をマジメに考えライブワークとしていた普通の人間だったという事が判明！ なんちゃって。…ふざけ過ぎて御免なさい。いやマジで凄いですよ。

平成8年9月20日(金)午後11時頃
目黒ライブステーションの階段にて
語り手：DEFILEDの皆様
受け手：杉浦 康司

*** **

まずは初めてですので自己紹介をお願いします。

住田(以下住)：ギターの住田です。
福田(以下福)：ベースの福田です。
北村(以下北)：ヴォーカルの北村です。
赤松(以下赤)：俺はドラムの赤松です。

バンドの略歴を教えてください。

住：バンドは92年の4月に今のバンド名になったんだけど、元々はデスメタルのスラッシュ・バンドから始まって、それがだんだんとデスメタル寄りになってきて、それで今の音になったのは93年の中頃からだね。何度かメンバーチェンジがあったんだけど全部言ってしまうと非常に細かくなってしまっているので省略(笑)。去年の今ぐらいにドラムの赤松が加入して今のメンバーになった。

福：丁度本格的に活動しはじめて1年という事だね。

住：デスメタルという音楽は、聴いている人がどんな所にも必ずいて、数は少ないけどグローバルな音楽だと思うから、一人でもそういうお客さんがいる所にはナマで見て貰いたいと思って、確かにお客さんの動員とかはどこもが望める訳じゃないけど、ツアー形態という形でライブはやってる。

ライブは年間60本以上行っているそうなんですけど、この数は今のシーンを考えたら凄いですよね。殆ど他のバンドが行かないような場所にも行っているわけですが、ある意味ではブラックメタルのバンドがあまりライブ活動に対して積極的でないのとは正反対とも言えますが、その辺はどうでしょうか。

住：例えば、青森とか会津若松とか、今回(夏)のツアー 初めていったんだ

けど四国とか行くと、そもそもこの手のライブ自体を初めて見るっていうお客さんが殆どで、そういう意味でこれから「開拓」していけばなっていうような意味で、今回のツアーっていうのは当然今まで行った事のある場所も行ったけど、新たな場所への「種蒔き」っていうね。

福：場所によってはまだ「こんなバンドを見たのは初めてだ」っていうお客さんやライブハウスがあったりして、もう大阪とか東京とかではそういうバンドも見てるだろうけど、例えば九州とか東北に行ってみるとこういうバンドは初めてツアーで来た」っていうのがやっぱりあるっていう感じだ。

住：でも九州は色々なバンドが結構来てるんじゃない？ やっぱ四国と東北。

福：東北の仙台より北っていうのはね。だから地元にはビュアなデスメタルバンドっていうのがやっぱり少ないのかもしれないね。

住：でも正直言って今回のツアー廻って、色々な意味でやっぱり日本っていう国は、マニアやボリシーを持って頑張ってるバンドは点在するけども、いわゆるアメリカやヨーロッパの雑誌、ファンジンに載っているようなデスメタルのカルチャー自体は全く根づいていないという事をこれはシビアな現実として痛感したね。というのは、やっぱり日本はどこ行っても音楽のそういうシーンっていうのは、ファッションとか、トレンドっていう物を非常に重視して、俺等みたいな黒ずくめで長髪の人達は町を歩いていない。今の多くのバンドっていうのはお客さんと同じような恰好をして一体感を持ってライブをやるっていうスタイルが多いから、今のお客さんも殆どそういうものを望んでいるし、俺達は色々な意味でお客さんをつっぱねたライブっていうのは非常に「どうなのかな」って思うときもあるけども、これがDEFILEDのカラーだから、僕等はこれを守っていきたいと思ってる。

さっきも「種蒔き」って言いましたけど、日本のバンドがなければ地方の人達は本当に見れないんですね。だからDEFILEDがそうやって積極的に活動しているって事は、変な話ですけど私も嬉しいんですねよ(笑)

住：どうも有難う(笑)

どうしても大都市に集中してしまうような今の日本のシーンについてはどう思いますか。

住：それは当然だと思う。というのは大都市にはそれだけ多くの人が集まってるわけだから、それだけバンドの数も多いし。ただ人が多い所にしか行かないっていう考え方はどうかとも思う。みんなの行かない所でも非常に良い場所はたくさんあって、例えば今初めて山梨県の甲府、東京の隣で東京から100km、車で1時間で行ける所、でも誰も行かなかつた所、でも行ってみたら非常にお客さんはたくさんいて、ただバンドが少ない。で行ったら非常にバンドに対して「バンドを観たい」という貪欲な物を感じた。DEFILEDがトレンドとかそういったものの流れからは外れているからどうだ、とかそういう見方はしないで、純粹に見て、お客さん自身が雑誌とかからではない自分達で感じたものでお客さんは反応して返してくれたのが嬉しかったし希望が持た。やっぱりツアー行って、(お客さんが少ないと)こんなお客さんのいない所に行って俺達のやっている事はただの自己満足なのか、意味のないものなのかって思う瞬間もあるけど、そういう盛り上がった場所に行くとか「やっぱりやってみて良かった」と思うし、やってきたやり方っていうのはまだ芽は出てないかも知れないけど、今後続けるべきだと思ってる。

そういった点から見れば、デスメタルというカルチャーを根付かせるのがDEFILEDの一つの信条である...

住：(遮るように)いや、それはちょっと違って、根付かせるっていうか、なかなか根付かない物だと思うし、この日本で本当に根付いたらコワイ(笑)。CANNIBAL CORPSEのメンバーも言ってたけど、アメリカで根付いているから言ったらアメリカでも根付いていないって言ってた。だけれども、雑誌に載っているようなトレンド一色でスケーターみたいな恰好をして飛び跳ねているようなそういうライブもいいとは思うけど、イコール長髪はダサイ・古い・過去の物だ、っていうそういう物を全て否定してしまう「右向け右」な体質が嫌なだけで、やっぱり色々なカラーのバンドが活動して、その中でお客さんが自分が一番合ったもの、もしくは複数のものを認めるっていうのが一番健全なシーンだと思う。だからデスメタルがメインのシーンになればいいとか、それは無茶な話だし、そんな風に

は思っていない。だけど「こういうカラーのバンドもあるんだ」という事を知って貰えれば嬉しいよね。

DEFILEDをカテゴライズしてしまうとやっぱり「デスメタル」だと思んですが、各々が考えるデスメタルとは何ですか。

赤：うーん、何だろう...

福：死のメタル(笑)

赤：...なんていうか生活の中のストレスの発散っていうか、それをライブで出すっていう、それもあるよね俺の中には。

福：俺はベースは突き詰めたら奥がとつても深いジャンルだっていうのをやって感じるね。奥が深いっていうか...変な決まり事がないっていうわけじゃないけど、ある程度の決まりはあったとしても結構やりたい放題やってるので、ラウドミュージックにして究極形、俺がしたら究極形っていう風にとつてるって感じだね。

住：個人的に言えば、俺にとつてのデスメタルっていうのは究極のスラッシュ。俺はスラッシュが好きで、それでバンドを始めようと思った人間で、スラッシュの自分が一番好きな部分を凝縮して濃くしたものが俺にとつてのデスメタルだから、色々なバンドがよく言うような所謂「スプラッター」的なものっていうのは全く興味が無くて。

福：そういうの一切ないね。

住：スラッシュっていうのが一番自分の音楽をやってる中で表現方法としては適しているかなと思って、その究極形がデスメタルなんで、スラッシュが好きで好きで、気が付いたらデスメタルと言われるものをやったというのが正直な本音で。

福：みんな根本的にスラッシュは絶対に通ってたっていうのは第一で。

それはよく言われますよね、スラッシュを凝縮して究極にしたのがデスメタルだと。

住：いや、でもデスメタルの中にはハードコアの方から入ってくる人もいるし、デスメタルとスラッシュを切り離して「スラッシュは聴かないけどデスメタルは好き」とか、色々な人がいるからハッキリ言ってしまうと、デスメタルは何かという事を語る事は出来ない。DEFILEDとは何かという事に関しては俺達なりの解釈は語れるけども、俺達がデスメタルをどうだっていうのは答えられない。

福：デスメタルと一口に言っても色々なアプローチがあるし、その辺については...あくまでもDEFILEDとしてはそう考えている。

北村さんはどうですか。

北：もう自分の生活の一部となって、ライフスタイルというか。単純に一番自分が好きだから。やって一番楽しいし。

福：好きじゃないと出来ないよね。

北：奥が深いし。常に聴いて常に演奏して、そういうライフスタイルになってるデスメタルというものが自分の全てというか。

赤：俺が一番アビール、もっともアプローチ出来るのがやっぱりデスメタルだね。自分のルーツで自分の考え方、もう全てがデスメタル。

福：俺もミクスチャー系なんかのデスメタル以外のジャンルとかも結構聴く方なんですけど、でもあくまでも「自分がやる音楽とは」ってなるとデスメタルになったっていうのが。だから色々なバンドがたくさんあっていいと思うし、ミクスチャー、ハードコア、グランドやら一杯あるけど、結局僕個人としては一番自分が何やって表現しやすいか、自分を出せるかっていう事に関してはやっぱりデスメタルになった。

赤：デスメタルはこうでなくてはいけないっていうプレイは俺はDEFILEDでは絶対にしたくない。

福：変な型にはめるっていう部分はないし、だから結構やりたい放題やってるっていうか。それがDEFILEDの面白い所でもあるし、色々な事が出来るっていうか。

4人の個性を煮詰めていってDEFILEDという形で昇華した時に表現がデスメタルだと。そういうDEFILEDのサウンドを言葉で表現するとどうなりますか。

住：それを一言で言うのは難しい。実際にこの4人の中でもDEFILEDとは何かといった時の表現は違うと思うし、一つ言える事は「一度は聴いて欲しい」という事。好き嫌いは別れるものだと思うし、それについて好きになってくれとは言わないけど、



一度は何かの機会に触れてくれたらとても嬉しい。

福：「日本にこういうバンドがあるんだな」っていうか、数多くバンドがある中でDEFILEDというバンドがあって、こういう事をやっている人もいるんだ、っていう事を解って貰えるだけでも満足というか。そこで好きになるかどうかは色々だと思うけど。

それでは質問を変えまして、DEFILEDの一番のセールスポイントは何でしょう。

住：それはまた各自言えは違うと思う。俺なんかはやっぱり、激しい音楽をやってるわけだからその激しい音楽として出してる音とステージングのイメージ的なものを統一したい。例えばMCは殆ど言わない。「どうもこんにちはDEFILEDです。みんな来てくれて有難う、なんて事は言わない。でもそれはあくまでサウンドとステージ全体のイメージ、全員黒い恰好して全員長髪で振り乱したりっていうのは、ステージングと音を一致させたいから。でもやっぱりこういうデスメタルっていう音楽はプレイするのに色々大変で、棒立ちになってしまいがちだけど、ハードコアとかのバンドっていうのは音と同時にステージで体でそういうものを表現している。DEFILEDもデスメタルの中で音と同時に見た目でも表現したい。だから仕事をしていったりする上で、絶対長髪っていうのは仕事も見つかりにくいし、今のトレンドやファッションから外れていることも充分解っているし、色々な意味で不利になる。それでも俺達は長髪に拘ってるバンドかもしれない。

ところで昨年出されましたCDについてお尋ねしたいんですが、一番面白いと思ったのは曲名とかに日本語のタイトルが併記されている点なんですね。何か昔の海外のヘヴィメタル・バンドのアルバムを見てみたいで笑)

住：あそこは全くその通りで笑。俺自身がIRON MAIDENのレコードを初めて買った時に「『魔力の刻印』何て恐ろしいタイトルなんだ！」って。(DEFILEDのCDには)実際に英語のタイトルが付いていて、デスメタルっていうワールドワイドな音楽をやるからには英語圏の人や世界共通語として、聞いてもある程度伝わるように英語で曲名を付けているけれど、実際に俺達は日本人で英語はネイティブじゃないから、例えば「DEFEAT OF SANITY」と聞いて辞書を引けばそれがどういう意味か解っても「DEFEAT OF SANITY」と聞いた瞬間に脳に飛び込んでくるイメージっていうものは多分ダイレクトに伝わらないと思う。それで昔色々なヘヴィメタルのレコードとかで誰が考えたかわかんないような怪しい帯を見た時の、インチキ臭いけど結構ハマってるなあって思ったそーいった日本語、俺達は日本人なんで日本語のタイトルが付いていけばイメージ的なものはダイレクトに主張が伝わると思ったんで、必ずしも英語のタイトルの直訳ではない(意識の部分もある)けども、一番曲に込められたテーマ的なものってのは日本語で付けさせてもらってる。

**変な話やっぱり魅かれま
すよね。**

住：ただそれは良い部分と悪い部分があって、「君等はふざけてやってるのか！」という風に誤解される部分もあって、そういう誤解を受けるとは考えてなかったんで。「『発狂地獄の転落』?マジメにやれ!」って言われた事もあるけど、その人その人の取り方なんで、それについては好きにとっ、という感じ笑)

(ここでライブステーション内を閉めるという事で場所移動、二転三転して地下へ下りる階段に落ち着く)

この夏には新しいCDを出す予定だったそうですね。

住：実はレコーディングはもう7月の

頭には終わって、当初自分達で出す予定で6月の頭からレコーディングに入った。4月の半ば頃に僕等にとっては非常に転機となった事なんけども、CANNIBAL CORPSEが日本に来る事になって、そのCANNIBAL CORPSEのオープニングアクトをやる事になった。それがレコーディング中である6月10日にあって、俺達はレコーディングを1日休む形でCANNIBAL CORPSEのオープニングアクトを務めたんだけど、それが終わってからCANNIBAL CORPSEの時に来ていたレコード業界の関係者から、俺達も信じられない話なんけども、何社かからオファーを買った。そこで実際に「出さないか」というより、俺達というバンドについて初めて知って興味を持ってくれて色々な話というのが舞い込んできたけども、それについては現段階でどこだとは言えないけども何社かと実際に話は進んでいる。進んでいるけれども、正直言ってしまえば僕等がレコード会社から出すか自分等で出すかは何とも言えない。非常に申し訳ないけどもこれは本当にどうなるか判らない。というのはレコード会社がお金を出して僕等は商品になるわけだから、お金を出せば口も出すと。俺達一番のポリシーとして「自分達のやりたい事、自分達の美学は貫きたい」というのがあって、当然それをやって成功するんであれば非常に嬉しいけど、例えば売るのが為にバンドのカラーを変えたり、サウンドをチェンジしてまでもレコード会社と契約したいとは思わない。今話を進めてる中で「君等はFEAR FACTORYやCARCASSの様にサウンドチェンジをする気はないか?」日本において君等のそのルックスでやっていく事に限界を感じないか?」と非常に鎌を掛けるような質問をされている。それに対しては、もし俺達と契約した時に日本人に受け入れられやすいメロディアスなデスメタルへの変化を要求されるんじゃないか、っていう危機感を持っている。俺達がメロディアスになる事は絶対ない! DEFILEDがやりたいのはスラッシュから影響を受けたプログレッシブな展開を含んだブルータルなデスメタル。DEFILEDが出していきたい音とレコード会社が俺達に望んでいる音っていうのは若干ズレがあるような気がする。俺達が一番大事にしている美学を理解してくれてそれを応援してくれる形であれば是非喜んでいると思うけど、正直言って現段階の話し合いでは100%理解してくれているとは思えない。一つ言えるのはDEFILEDは音楽性を変えてまで売らんが為に契約をするという事は有り得ない。ただ「またCDを聴きたい」っていつくれる人もいるから、そういうお客さんに対してはどんな形であっても、また自主制作になるうがどっかのレコード会社から出ようが、一番俺達のやりたい音をやってそれが好きなお客さんの耳に届くんであればそれでいいと思ってる。

こういう音楽は別に最終到達点がメジャーと



いうわけではないと思いますし。

住：当然そうでしょう。それはバンドによって色々考え方はあると思うけど、俺達が一番やりたい事をやっていてそれがたまたまメジャーというものに到達すればそれを拒む気はないけども、メジャーに行くことが最終目標ではない。お客さんの耳に届くのであればCDじゃなくてもお金が無ければテープでもいいと思ってる。...正直言ってメジャーでいいなあと思うのは、メジャーが持つ流通網。これは正直欲しいなと思う。というのはDEFILEDがツアーに行ってCDを売って、「CDを買って非常に良かったです」という手紙が後日届いたりすると、もし俺達がその場所に行かなければその人はDEFILEDのCDを買うこと出来なかった。でもメジャーの流通網があれば、もし行けなかった所でレコード屋でCDを買えたかもしれない。DEFILEDの音に触れるチャンスというものが当然メジャーでは増えるから、そういう点に関してはメジャーの流通網は欲しいと思う。

そういった意味では海外のレーベルから出すのも一つの手だと思いますし、お客さんという点では海外に行ってライブをするという事も考えられると思うんですが、DEFILEDは海外についてどう考えていますか。

住：実際に海外のレーベルからのオファーもある。だけれども一つ言えるのは、海外から出して色々トラブルが生じて決していい思いをしていないバンドもたくさんあって、俺達も海外指向の音をしているんで海外の流通網は欲しいけども、何枚プレスしてどう流通網でどう売り方をするのか、ある程度俺達の考え方を判ってくれてお互いに理解しあえばいいけど、ただ海外から手紙が来たから出すという、そういうのはどうかと思う。

今後DEFILEDはどのような方向で活動をしていきたいと考えていますか。

住：音的にはやっぱり「自分達に正直であれ」というのがあって、俺達が一番最適な4人の個性の集まった音として納得して出来た音で行きたいなと思ってる。ひょっとしたら次の音源を聴いて気に入ってくれない人もあるかもしれない。でも敢えて言いたいのは、誰かの顔色は見たくないし、やりたい事を最優先する。それについて共感してくれたら嬉しいし、共感してくれなくなったらそれは仕方がないと思う。活動としては、やはりデスメタルという音楽でご飯を食べる事は難しいんだという事を理解しているし、でも出来る限り長くやりたいと考えている。今のようなツアーに行ったりという活動形態はずっと続けていきたい。

福：今の音を曲げるという事はないだろうし、バンドの方向性をその時々の時で変えていったりというのは一切ないんで、自分達の芯は曲げずに押し通していくっていうのは絶対だと思うし。

北：活動的にはこれからもっと広くやっていきたいなと。

住：さっきから何度も言ってるけど、自分達のやりたい事をやるっていう事がキープポイントだと思う。それ以外は何とも言えない。今後の活動についても3年後のDEFILEDは3年後になってみないとわからない。

福：自分達の納得しない事はしたくない。

住：そういう形でバンドが進化していったら一番いいんじゃないかな。

それでは最後になりますがファンにメッセージはありますか。

住：取り敢えずDEFILEDの音を聴いたことがない人は是非一度聴いてみて貰いたい。あと雑誌に書いてある事を鵜呑みにするんじゃなくて、自分の眼と耳で確認して自分の好きなものをチョイスして欲しい。その中にDEFILEDが入ってたとしたら光栄だけれども、仮にそうじゃなかったとしてもそれは構わない。一度は何かの形で触れて欲しいと思っているし、既に応援してくれている人はこれからも応援してくれたいいなと思ってる。

赤：DEFILEDの曲はライブだとお客さんがノレないような曲をやるんだけど、俺はそれでも敢えてお客さんにはガンガンね、キレてもらいたいというか、俺はもっと暴れてもらいたいね。

住：でもそれは強要できない事なんじゃないかな。

赤：と言うと？

住：お客さんが暴れたいというものがあったら、暴れてくれれば良いけども、「後ろの方の奴は前へ来い」とか、そういうような形で命令したりっていうのは、お客さんがどういう風に見るかっていう見方をライブで強制する事はそれは間違っていると思う。

赤：ほほう...まっこれは俺はファンに対してっていうか、うん。

住：ひょっとしたらじっくり見たいかもしれない。一番大事なのは暴れるかとか暴れないかとかそういう事じゃなくて、その人なりに何か感じ取って帰ってくればそれがいいと思う。その中で「暴れる」という人もいるだろうし、じっくり聴くっていう人もいるだろうし、それはその人の自由だし。どういう見方であれ楽しんでくれるのがそれが一番だね。

でも暴れてくれたら嬉しいですよ(笑)

福：(笑)それは確かに。でもそれに関してはライブはお客さんがあってのライブっていうのを考えているんで、だからそれなりにその時その時のお客さんのテンションで勇気づけられるっていうのはツアーでよくあったから、だからこれからもどこでも飛んで行くっていうか、どこでもまた全国に行きたいっていうのはあるね。

住：でも俺自身、色々なデスメタルバンドとか好きなバンドを観てきたけど、例えばERODEDが東京に来た時はずっと行って観てたけども、暴れて観た事は一度もなくて、いつもじっくりプレイを観て楽しんでた。でも暴れてないからって決めて自分自身が楽しんでないかっていったらそんな事ないし、そもそもその日にチケットを買ってお客さんが足を運んでくれるのであれば、そのお客さんなりに何らかの楽しみ方を持っていて...

福：何かを感じ取ってもらえれば。「ああこういうバンドもあるんだな」と思ってくれば。

住：もし暴れたいな、と思うのであれば他にお客さんが暴れていないから恥ずかしいから暴れるのやめよう、じゃなくてどンドン暴れてくれて構わないし、それは歓迎。

福：楽しみ方はお客さんそれぞれだからね。

北：毎回ライブに来てくれている人は本当に有難う。ライブやって一緒にデス・ヴォイスを出してくれるお客さんが結構いるけど、それは非常に自分にとっては嬉しいね。これから声がかかればどこでも行くんで応援しよう。

住：ライブの上ではあまり親しみやすいイメージは出してないけども、ステージ下りれば、気軽に声かけてくれたり感想言ってくれたいね。そういう率直な意見っていうのは今後の活動の肥やしになるし、色々なコミュニケーションをとりたいて宜しく。今日は本当にどうも有難う。

*** **

終わってみると後から後から「あれも聞きたかったこれも聞きたかった」という事が浮かんで来てしまって少々後悔の念が無きにしもあらずなのだが、それはまたいつの日にかという事でご了承願いたい。それだけDEFILEDというバンドに期待しているということでもある。臭いことを言えば、彼らはデスメタルという音楽を愛するが故に、かたくななまでにDEFILEDというバンドの「イメージ」というものを強固に築き上げてきたバンドであると言えまいか。自分達のサウンド・スタイルを貫き通すことが第一で、CDがどのような形で出回るかは二の次である、といったような発言はファンとしては心強い限りだ。更に、今の日本のスラッシュ・デスメタルのシーンにおいて日本全国をツアーで回っているバンドを思い浮かべた時、OUTRAGE、UNITED、HELLCHILDは別格として、今回一緒にツアーを回ったSUBCONSCIOUS TERRORを除けば、あとはBEDLAM、CEMENT位ではないだろうか(他にもいたら御免なさい)。彼らは地方を回るツアーを称して「種時き」と発言していたが、その種がいつの日か芽を出し大きな花が咲く事を願って止まない。DEFILEDならそれが出来ると思っているからこそ。



1st mini CD 「DEFEAT OF SANITY」は、再プレスしないそうです。未購入の人はお早めに！ライブ会場、インディーを取り扱っているレコード店にて購入出来ます。5曲入り。¥1200。





DESPERATE CORRUPTION

結成されて約3年の間に、幾度のメンバーチェンジを経ながらも、数多くの音源をリリースしてきたDESPERATE CORRUPTION。このシーンの中では割と早いリリースペースで音源を出してきたにも関わらず、どれをとっても非常に質が高い点は見逃せない所だ。但し、その力量の割には何か今一つパツとしない気がしないでもないが、当人達は自分のペースを崩す事なく頑張っているようである。そんなDESPERATE CORRUPTIONの現在、過去、そして未来をギターの前田君に熱く語ってもらった。

(文責：多田)

日時：平成8年8月25日(日)

場所：南浦和の某喫茶店にて

語り手：前田 光彦(DE SPERATE CORRUPTION / G&Vo)

受け手：多田 S.S.M. 進

*** **

バンドの歴史を軽く語ってもらえますか。一応初めての読者もいると思いますので。

前田(以下略)そうですね...とりあえずバンドを結成したのは93年の7月ですね。で、そんな時のメンバーは僕と府川(Dr)っていう今のメンバーなん

ですけど、この2人で。それからヴォーカルとして今ベースを弾いている高木が入って、その後ベースも入って、ふた月位やってたんですけど、でもすぐベースが辞めちゃって、それから3人で活動してましたね。それで94年の1月にギターで阿部が入って、それで1stデモを作ったのはその頃です。1stデモを作ってから直ぐにドラムが辞めちゃって、それから弟の幸男が入ったんですね。それから2ndデモとかプロモ・デモとかを作って順調に活動してたんですが、つい先月位にドラムが変わりまして(笑)で、オリジナルメンバーの府川が戻ってきているという状態ですね。

ドラムはヘルプで。

...一応、まあレコーディングメンバーっていうか、そういう形です。(府川は)一応本ちゃんのバンドでWORMの元メンバーの人とかとSTIGMAっていうハードコアスラッシュやってるんで、そのバンドで色々ライブとか音源とかの予定があるようなので、取り敢えずは手伝ってもらってる状態です。

新しいギターも入ったんだよね。

ええ、ギターも入りました。元ANBIVALENCEっていう神奈川のゴアグランドバンドでやってた人です。名前は富田ヒロシ(ヒロちゃん)です。

一時期ヴォーカルを入れるっていう話もあったけど...

ヴォーカルは今交渉中です。某バンドの暴れん坊ヴォーカル(笑)。次のレコーディングとかでは披露できるんじゃないかと。ずっと付き合い長

い友達なんで...あんまり長くもないですけど(笑)こんとこ付き合いがあるんで。

強力なヴォーカルっていうのが理想としてある？

取り敢えずはレコーディングゲスト参加という事で。なんせライブの予定が立てられないもんで...。だから今は活動がレコーディング中心なんで、それで上手く行けば一緒にやろうかなあっと思ってるんですけど。

難しい問題に直面しちゃったよね、ドラムがいないっていう。

ん~まあやっぱりドラムが抜けたら痛いですよ。やる人が全っ然いないですからね。ちなみにうちに入れればツーバス、プラストは思う存分叩けますから(笑)。それだけは自信あります。

DESPERATE CORRUPTIONってリリースペース速いよね。

曲溜めてCD出すって事は考えたことない？

いや、考えた事はかなりあるんですけど、あの...小出しに出すと。CDとかそういう話が今まであんまり来なかったもんで、どうしてもテープとかスプリットEPとかっていう形態で。そういうのに拘ってやってたわけじゃないんですけど...今は逆なんですよ。逆にフルを出す程、バンドに力がないもんで、もうちょっとスプリットとかを中心に4曲、5曲の音源が中心になっていくと思うんですけどね。

小出しにしちゃうと、いざCDっていう時になって曲が無くなっちゃうんじゃないかなあとか考えたりもするんだけど。

いや、その分また作るうって(笑)。

ところでDESPERATE CORRUPTIONはどういったバンドに影響を受けたんですか。

個人的にはSLAYERとか。バンドとしてはドイツのPROTECTORとか、その辺が特に好きで。でもスラッシュとかデスメタルは大体全部聴いてるんで(笑)。でも最近の奴とかも結構聴いてますよ。例えばBIO-HAZARDとかも聴くし、MACHINE HEADとかも色々コピーとかして遊んだりとか。

デスメタルっていう事ではやっぱりフロリダとかの影響って強いかなあ。

ど~なんですかねえ。あんまし出身地とか最近チェックしてないんで、国ぐらいしかわからないんですけど...

どっちかっていうとアメリカ系の影響が強そうな気がするんだけど。

よくそう言われるんですけど。でも、どうなんですかねえ...多分合計したらアメリカのバンドの方が多そうですよ。でもヨーロッパのバンドも結構好きなのはありますよ。

北欧系っていうよりもやっぱりCANNIBAL CORPSEとかSUF-FOCATIONとかDEICIDEとか、SLAYERから純粋培養して派生したようなデスメタルだよね。

まあ、SLAYERも遅い曲はあんまり好きじゃないんで(笑)。やっぱり3rdとか、ああいうやたら速いのが(好きで)。あれのチューニングを落とせば「君も明日からデスメタル」っていう(笑)。

今回の2枚のEPに関していきさつを教えてください。

EPは元々ENEMY SOILのリチャードっていう人が、向こうで「DISPOSABLE UNDERGROUND」っていうファンジンをやってるんですよ。もうやってないかもしれないんですけど、で、一番最初に作ったテープからそこにプロモーションして、で「自分はENEMY SOILっていうバンドをやってるからスプリットEPを出さないか」という話で。最初はレーベルとかじゃなくてインディーズ販売だと思ってたら「アメリカのBOVINE RECORDSから出すよ」という話で、まあ丁度その時にデモテープ作ると思ってたんで曲もあつたし、丁度タイミングが合ったんでリリースする事になりました。DISGUSTの方は、そのレコーディングの3カ月くらい後に、またレコーディングする機会があつたんで、丁度DISGUSTさんもレコーディングしたとかで、以前2バンドでスプリットをやるんじゃないかっていう噂もあつたし、まあ「やってみせん

か」って感じて。したらまあ実現したっていう感じですね。...BOVINE RECORDSって、デスメタルとかのレーベルじゃないらしいんで、結構最近の激烈音楽っていうか、そういう系統らしいんですよ。今はENEMY SOILとウチとのスプリットCDがちょっと計画中っていうか。多分11月から来年の4月位までにはCDで。内容はうちのデモテープ2本と向こうのデモテープ3本位になると思うんですけど。その後また同じレーベルからもう1枚新曲ばかりのスプリットCDを作ろうっていう話があつて。...だから結構小出しにするのは上手くいったかなと(笑)。



さっきも言ったけどペース速いよね。

ああ、でも...これでもうちらとしては凄い計画より遅れてるんですよ。物凄く。半年とか1年とかの計画が遅れてるので、自分としては遅いっていう風に思ってます。

今の日本のデスメタルシーンについてはどう思ってますか。

日本のバンドっていうのは平均してやっぱり上手いんですよね。だからうちらとかはこの中では全然大した事ないアレだから。それはやっぱり海外のバンドとテープをトレードとかすると凄く感じますよ。外国のバンドは、凄くバンドはCDで日本でも普通のレコード店で売られる位ですけど、向こうのアマチュアは逆の意味で聴き辛いバンドもかなり多いですし(笑)。まあ言い方悪いですけどそれは正直な所ですよ。でも日本のバンドの音源とか聴くとみんなレベル凄く高いですよ。音質も結構良いし。

日本のシーンを考えたらあつた海外から出しちゃった方がいいんじゃないかっていう気もするんですけどどうですか。あっちの方がレーベル多いし。

どうなんですかね。反応が外国からの方が多いのは結構実際のところ。日本でもうちょっと頑張らなくちゃだめなんだろうけど、(日本も海外も)同じお客さんだと考えたら別にいいかなとも思いますがね。...日本の某レーベルとの話は一応あるんですけど、それはこっちの方の都合で、その話は今は保留してもらってるっていう形で。

以前だったら「TO THE MARROW」(TOYS FACTORYが出したデスメタル・オムニバスCD)とかあつたけど...

元々(デスメタルは)マニア向けの音楽ですからね。まあこれ位で普通かなあというもある半面、でもどんな音楽であれそういう「周期」みたいなものはありますからね。だからあんまり気にせずに。気にしても時流に合わせられないっていうのがあるんで。

日本のシーンってデスメタルやスラッシュに対して徹底的にマイナーだよね。メジャーデビュー出来ないかもって考えちゃうし。

まあお金になる音楽かっていうのは...(笑)。マイナーな事は確かですよ

DISGUST / DESPERATE CORRUPTION SPLIT EP '96



名古屋のDISGUSTと埼玉のD.C.のSPLIT EP。BRUERIAばりの悪趣味丸だしなジャケットが強烈だが、中身は意外とマトモなデス/グランドである。前者はデスメタル調の曲にグランドの展開を組み込んだ感じだが、二つの要素の組み合わせが絶妙で、グランドパートで勢いをつけて一気に畳みかけてくる辺りはかなり気持ちいい。1stデモではあまりピンとこなかったが、このEPは初期ERODED並のポテンシャルを感じさせており、このメンツで最初で最後の音源というのが残念である。後者はいかに彼らしい速い・重い・激しいの三拍子が揃った曲で展開もよく練られているが、何か奥にこもったような音質が煮え切らない印象を与えてしまい、彼らの良さが前面に出て来ないのが残念である。別にこれで勝負を決する気はないが、インパクトはDISGUSTの方があつた。3曲/1曲入り。¥800位 輸入盤につき)

(多田)

ね。

海外についてはどういう風に考えてますか。

戦略っていうか、そこまで大袈裟な物はないですけど、その中で出してくれるレーベルとか、音源買ってくれるお客さんとかが海外の人だったらそれでやるし、勿論日本人だったらそれも迷わずやるし。元々テープ何百本作っても日本で全部さばるっていう程うちも実力ないもので、だから外国の方でもそういうのに興味がある人には買ってもらったりとか、本に載っけて貰ったりとかって感じですかね。海外だけにしようとか日本だけにしようとかっていうのはないんですよ。どっちもって言うか、聴いてくれる人がいるんだっただどこでも送るっていう。

海外でツアーしたいっていうのは。

ああ、やりたいですよええ！

例えばDEFILEDは大阪でCANNIBAL CORPSEの前座をやりましたけど。

や〜羨ましいですよ〜！ CANNIBAL CORPSEとやれたら最高ですよ。僕大好きですからね。だから条件さえ合えばすぐにも行きたい所ですね。なかなかそう上手くいかない所ですけど。

DESPERATE CORRUPTIONはデスメタルっていうものをどういう風に捉えていますか。

ん〜自分達がデスメタルだっていう事に関しては最近あんまりそうは思っていないっていうか、メタルっぽいリフが少ない曲とかも以外と多いという印象を抱く人が結構多いんですよ。そういう意味ではデスメタルじゃないのかも知れないんですけど、まあでも実際一般的に言われてるデスメタルは殆ど全部好きなんですよね。

定義っていうか、DESPERATE CORRUPTIONが作曲する時に気をつける点とかはありますか。

それはもう、幾つかはありますけど...まず「速い」「重い」で「激烈」。それとあとは出来るだけ他のバンドとは違うことをやる所ですね。1stデモとかで外国のファンジンとかにコテンコテンに叩かれたんで(笑)、やっぱり「真似に近い」っていう風に叩かれた)、オリジナリティがあるバンドでないと存在価値がないって言われて、まあ考えてみればそうかなと。確かに言われた通りだったんで、それから出来るだけオリジナリティを出そうと思っています。

最近の曲は試行錯誤の跡が感じられるよね。スラッシュをルーツに感じたりとか、ブラックメタルっぽい歌い方をしたりとか。

それは某ファンジンでそういうレビューが載ってましたよね。でもそれはブラックメタルとはあんまり関係ないアレで、その時は2人(ヴォーカル)がいるから2人一緒だとあんまり効果ないから、一人高い声一人低い声でやった方が面白いかなって思ったんですよ。今は2人共ドロドロ声で唄っています。

自分達の音でセールスポイントはありますか。

取り敢えずメロディラインの綺麗さとか、楽しいノリとか、そういうの一切ないものにしたいですね。速くて重い、でまあこれからはもうちょっとグロテスクな感じにしていこうかなあと思います。こういうメロディが無いとか、正直聴き辛いとか、結構そういうのを作るのは得意な方なんです、より極限にしたいですね。

いつも音源に歌詞カードってないんだけど、それは理由があるんですか。

まあ色々言われてきたんですけど、実は歌詞はありますよ、ええ。今出てる音源は取り敢えず英語のやつなんですけど、でも今度から出る音源に関しては全部日本語で歌う予定です。もう練習とか、ちょっと前のライブとかでも全部日本語でやってたんで、...バンド名とタイトル位は英語かもしれないですけど、歌詞に関しては日本語です。英語がハッキリ言って元々ダメなんです。英語アホなんですわ。だからなんぼ作っても身に付かないんで日本語でやろうと。日本語だと曲に対するそのヴォーカルラインの乗せ方とか、ハッキリ言って乗らないんですよ、全然。だから逆にそれがちょっと良いかなあって。強引に乗せて、歌詞とか無茶苦茶で(笑)。歌詞が判別できる程声が高くないんですよ。殆ど判別不可能なくら

DESPERATE CORRUPTION / ENEMY SOIL SPLIT EP '96



アメリカのENEMY SOILとのスプリットEPだが、普通スプリットと言ったらA面B面でバンドを分けるのが一般的だと思うのだが、これはそれぞれの面で交互に曲が登場する変則的なスプリットだ。ENEMY SOILは剛球一直線のファスト&スロー・パートを折り交ぜたベース&ギターの強烈な歪み具合がいかにものグライドコア。Voは絶叫系。多分Drは打ち込み。米国産激烈グライドコアが好きなのはたまらないでしょう。ちょっとDrの音が大き過ぎかな。対する日本のD.C.はアップテンポでかつヘヴィさを強調した中にも落ち着いた悪いソロが光る“Shaperess”と攻撃的なファストナンバー“Magnetic Cavity”を提供。全体的に今までの路線を踏襲しつつも、より醜悪なサウンドを目指す過渡期的なサウンドであると思う。掛け値抜きでカッコイイ“Magnetic Cavity”が今回インタビューしようと思ったきっかけになったといっても過言ではない。曲的にもサウンド的にも今まで一番の完成度だと思う。2曲/3曲入り。¥800位(輸入盤につき)(すぎ)

い低くする予定なんで。

それは凄腕戦略だよね。面白いかもしれない。

いや、やってみたらそれしか無いんですよ、実際。単語とか、節とかの歯切れの悪い単語の長さが結構あるんで、どうしてもそういう風になっちゃうんですよ。意外とマッチするかなあって。

今後の予定とかはありますか。

さっきも言いましたけど、アメリカのBOVINE RECORDSっていう所からデモテープ2本がセットになって、多分アメリカのENEMY SOILのデモテープとセットになったお徳なスプリットCDがこの冬いよいよリリースになります。で、来年の春位までには同じレーベルから、まだ一緒にやるバンドは決まってるんですけどスプリットCDが1枚、それは全部新曲で出る予定です。他にも色々企画はあるんですけどまだまだまってないんでちょっと詳しい話は出来ないんですけど...。まあメンバーとか揃い次第ライブとかもどんどんやるかなあと。

ドラムは募集してるの？

ドラムは募集中です。大募集中です！ もうド〜んとデカク載っけておいて下さい(笑) とにかく速いとか重いとか、そういう激烈な物がやりたいっていう人だったら、今までデスメタルやってた人じゃなくても、やってた人でも全然構わないので、まあ今までの物よりも更に過激にするアイデアとかあるドラムの人は大歓迎です。

それでは最後になりますが読者にメッセージがあればお願いします。

え〜EP買ってください。お買得(笑) とにかく速い、重い、そういうちょっと辛い(からい)音が好みの人には絶対にお勧めという事で。音源で入手できるやつが3つ以上はあるんで、取り敢えず色々選べますという事。

*** **

インタビューでも触れているが、現在DESPERATE CORRUPTIONはDsを募集中である。我こそはと思う人は下記に連絡をとる事だ。実はこの後も雑談程度の色々な会話が続いたのだが、こっちの方を本編にしてみたいと思うぐらい面白い話もあったが、オフレコなのでこれはまたの機会にという事で...。何だかんだ言っても非常に根がマジメなバンドである。状況に負ける事なく今後も頑張っ欲しいものである。

c/o 前田 光彦
〒353 埼玉県志木市下宗岡2-19-39 クレスト志木303
「コテコテ、ベタベタのドラマー募集」係

この前、8月18日にDEFILEDが高知に来ました。も～すんごく楽しみにして行くとライブハウスの出演バンドのリストにな・な・なんとSUBCONSCIOUS TERROR(大阪)注：ホントに「S」がついていた)と書いてすんごく得した気分です。で、ライブの方は思った通りテクニカルなデスメタル(デスラッシュかな?)で、思った通りCDよりかなりヘヴィでした。ライブを観て思ったのですが、CDの音があれだけクリーンだったのはバンドの演奏や曲の展開をきちんと聴かせたいからなんだなと思いました。曲が長いせいか曲数が少なく少し残念でしたが気に入った人もいたようでCD買ってる子がいて何か嬉しかった良かったです。今度はバンドの地元大阪で観たいです。DEFILEDはもう思っていた通りのバンドで、KABBALA#10にも書いてあったけど、もうヘルチャがあっちに行っちゃった今デスメタルシーンを束ねるのはこのバンドしかいませぬ。もう殺人的にヘヴィなバンドでした(首が痛い...)。バンドのルックスも今時珍しい長髪真黒軍団で(笑)好感度100%でした(?)。有難うDEFILED & SUBCONSCIOUS TERROR!! (文責：西尾 勝則)

DEFILED新作情報!

7月30日にレコーディングを終えたDEFILEDの2ndCD「BOTTOM THE MIND」の収録曲は以下の通り。

1. Nihilism
2. Bottom The Mind
3. Crush Enemy Rising
4. Fall Into Dilemma
5. Rush Of Hostility
6. Addicted To Occult Oath
7. Boiled In Limbo
8. Defiled
9. Defeat Of Sanity

形的には新曲4曲に既発表の「DEFEAT OF SANITY」に収録されていた5曲の新録の計9曲が収録される予定。しかも「怪談風ヒュードロドロ」の曲間SEも健在でファンにはたまらない作品に仕上がっている。前作とドラマが違うせいか、再録ナンバーもアレンジが多少変化しているので前作を既に持っている人でもまた違った感じが楽しめると思う。現在リリースにあたってレコード会社との交渉を進めているが、どこから出るかはまだ未定である。交渉次第では前回と同様に自主制作の形でリリースされることも充分有り得る。我々としてはDEFILEDが納得行く形でリリース出来ることを望みたい所だ。



DEFILED LIVE SCHEDULE

- 11月2日 群馬・前橋ラタン
- 11月3日 栃木・宇都宮ハードロックハウス
- 11月4日 宮城・仙台マカナ
- 11月11日 京都ウービーズ
- 11月30日 山梨・甲府ボデカ
- 12月13日 高知 キャラバンサライ
- 12月15日 愛媛・松山サロンキティー
- 12月16日 広島 DJバーG
- 12月17日 岡山ペーランド
- 12月18日 島根・松江K.A.N.
- 12月19日 大阪・難波ロケッツ
- 12月20日 名古屋 ミューゼックファーム
- 12月29日 長野・松本音屋敷



9月20日(金)

この日、私はDEFILEDのインタビューがあったのでいつもより早くに会場入りを果たすと、中はTERROR SQUADのリハの真っ最中であった。お遊びでSALEMの「In Belief That Right」を弾く大関氏。するとバンド全体でLOUDNESSの「Lonely Player」を演奏し出してビックリ。結局それはリハのお遊びで本番ではやらなかったのだが、いかにもTERRORらしい一面だ。その後DEFILEDのリハに入り、終わったところで住田氏をキャッチ、早速インタの打ち合わせに入ろうとしたが「ちょっと待ってね」という言葉を残し消えてしまった。しばらくしても帰ってこないで「どうしようかなあ」と思ったのだが、ライブ前にはチケット売りとか色々忙しいだろうという事でライブが終わってからインタをする事にした。現在17時20分、まだ開演まで時間がある。そう思った私の頭は「KAIZOKU」に行こう!という一つの結論に達した。「KAIZOKU」と言っても読者の99%が知らない(いや誰も知らないかも...)と思うが、目黒のステーションとは反対側、つまり鹿鳴館側に駅から徒歩15分程行くところ全日本女子プロレスの本社があって、そこの2階に全女直営の「海賊」なるレストランがあるので。そこに飯を食いにいこう、うろ覚えで歩を進め何となく辿り着くことが出来た全女の本陣。「う～ん、ここかぁ、なんてしばし感慨に耽っている」と駐車場に例の(つつつとも知らないか...)大型バスが止まっている事に気が付いた。そうなのだ、たまたま行った日は偶然にもオフの日だったのだ。「もしかして選手とかいたりして、なんて思っている私の目の前を平成8年組らしき若手2人が走り去っていった。う～ん、新人はまだ顔と名前が一致していないんだよねえ～、なんて思いつつ小心者の私はちょっとドキドキ。いや、あんまりでなかったけど。そして階段を上りいざ海賊へ。あ、ちなみに行ったの初めてだったんです。扉を開けると、いきなり目の前のテーブルに貴子が関係者と一緒に座っている姿が飛び込んできて早くもびびる。適当に貴子のテーブルと離れた所に座ってカルビ丼と味噌汁を注文。この時間係者以外の客は私一人。そうこうしているうちに他の客が3人ほど入ってきて何故かホッとした私はやっぱり小心者。その時ハッと思いついた。

「俺、今日JWPのTシャツ着てるじゃん!」
 ...別に誰も何とも思わないだろうけどさ、一応他団体だからね、なんかそれだけで全女に単身乗り込んだレスラーの様な心境に浸ってしまって一人ドキドキしていた。そんなこんなで想像たくましくしているけれど貴子が到着した。最初はどうかとも思ったが、これがまた旨い! これと380円なんだから安い! いやあ来て良かったななんて思いつつ箸を運んでいると、貴子が立ち上がって私の前を通りすぎた。別にそれだけだったらどうって事もありゃしないんだけど、その時ちらっとだけ貴子の視線が私のTシャツに向けられたような気がしたのだ。「ああ、やっぱりJWPのTシャツに目があったんだろうか」なんて考えつつも美味しくカルビ丼を食す。きつと私の考え過ぎなのだろう。でもそんな事を考えながら一人楽しむ私。どうしようもない女子プロ馬鹿である。ところで店の一番奥の席には選手らしき集団がいて、店に入った当初から誰だろうと気になっていたのだが、目が悪いのもあって誰だか解らなかつたんだけど、その集団が立ち上がって私の前を通り過ぎた時も「見覚えあるんだけどなあ誰だっけ?」なんて働かない思考を回転させていると、声を聞いてやっど「このハスキー声は下田だな」と思いついた。後ろ姿しか見ていなかったのでもっとわからなかつたんだけど、解らなかつた私がちょっと悔しかった。そんなこんなで食事も終わり、店を後にする時には選手は全員どっかへと消えていた。たったこれだけの事にはしゃげる私は幸せな人間だと自分でも思う。そう考えているとライブステーションの前まで来ていた。只今18時20分。...あれ?何かTERRORの演奏が聞こえない? さっきリハしてたしなあ...えっ!! そうなのだ、つまり18時30分開演だと勘違いして、無情にもTERRORの演奏が始まっていたのだ。それでも私が入場した時は何とか1曲目の途中だったらしく、それほどリスクが無かったことにホッとしたのだが、大失敗である。すいません、TERRORの皆様。こんなはずじゃなかつたのになあ～。(文責：すぎ)

連載コラム なにわめたる道

第五回“関西メタルの最盛期”前編の巻

(文責：金田 興一郎 by HM/HR Laboratory)

何から話していけばええんやろ。不可思議な事をいうが、国産ハード・ロックのいっちゃん嫌いな時期やった。全盛期を迎えるに当たって二つの陰陽があった。76年後半から「だるま食堂」の影響下でプログレッシブ的なバンドが続々と登場する。大阪からはROUNDHOUSE、そして神戸からはSHEHERAZARDと山水館だ。度々このコラムにでてくるバンド名だが、この花登壇の「銭の花」の舞台になった旅館の名前をとった山水館が、陰の部分で後の日本産ハードロックの野線を引くことになる。甲南大学に在籍していた高橋良朗率いる山水館は74年に産声を上げたが、大阪のハードロックバンドが新旧つば競い合いをしている76年にはKISSにインスパイアされたメイクとドレスアップされたビジュアルなステージングにキャッチーなハードサウンドを融合させ、78年の解散までアマチュアのトップに君臨する。当時の彼らにとって更に幸運だったのは大阪の土壌とあまりにもマッチしていた事やろう。その彼らを目から鱗が落ちたように見入っていたのが後に熊本からやってきてEARTH SHAKERに加入するマーシーであり、44MAGNUMの連中だ。

78年の終わり頃、現STARLESSの久保寿太郎がネーミングしたという神戸のプログレハードのSHEHERAZARDが「ROCKIN' F」誌第一回アマチュアバンドコンテストのテープ審査で満点の一位をとる。なんと彼らは山水館と強力合体をし、KING RECORDからNOVELAとして華麗なデビューを果たしてしまう。今では珍しいことではないが、アマチュアバンドの子孫生き残りを掛けてのリストラがすでに作意的に行われた実例だ。プロデビュー、作品を世にだす執念だったのか、実にはたった2年後には最初から筋書きがあったように高橋らはNOVELAから離脱。元のやりたかった山水館をACTION!として出直しことになるのである。一方、オリジナルSHEHERAZARDのリーダー久保はSHEHERAZARDという名義継続で当時の関西の若手有力バンド、京都のSILVIA、大阪のBLUES APPLE JAMらのメンバーを勧誘し、メジャー切符を渡されなかったオリジナルメンバー、引頭(Dr.)青方(Key)を引き連れて分家に宣戦布告をするが、あっさり半年で白旗をあげるようになってしまう。

81年11月、第一回ジャパン・ヘヴィメタル・ファンタジーが開催。出演がBOWWOW、子供ばんど、NOVELAだ。これが見事に成功してアンダーグラウンドの関西バンドが堰を切ったように東京に進出することになる。時を同じくしてLOUDNESSが81年に浅草国際劇場で衝撃のデビューを果たす。知ってのとおり前身バンドは大阪の天才ギタリスト高崎晃有するDEEP PURPLEのCOPYバンド、LAZY。山水館もこのLAZYも大阪のTV番組「ハロー・ヤング」のアマチュアコンテストがあり、山水館は決勝進出までいったが、LAZYはこの番組で認められレコードデビューを果たす。一方では地下に、一方では陽の目があたる東京ヘメジャーレーベルデビューと明暗が別れる一瞬やったわけだ。大阪のHRファンはLAZYのデビューに当然活気づいたが、出てきたのはなんとカラフルなつなぎを着せられたアイドル人形5人、今日というジャニーズ事務所のTOKIOの姿だった。

大阪では競り合いの中浮上してきた若手HRトリオ、EARTH SHAKERからBとVoの二井原が脱退するという事件が起きた。後任Voは山水館とEARTH SHAKERに憧れて大阪にでてきたマーシーこと西田昌史が着任。京都を根城に実力をつけ、元EARTH SHAKERのVo、二井原はLOUDNESSとして登場。高崎、樋口にしてもLAZY時代の制約の厳しさを物語る、一気にエネルギー反発させた登場だった。もうあとご承知のとおり、関西メタル伝説の序章ではないが、83年にマリノと遅れて出てきた44MAGNUMの「関西ヘヴィメタル東京殴り込みギグツアー」の大成功が逆に関西を活気づけることになる。もう上や下への大騒ぎ、阪神タイガースが優勝したようなもんや。えらいこっちゃ。44MAGNUMはデビュー前の客動員で500人以上を梅田のパーボンハウスで記録、83年6月ついにEARTH SHAKER、X-RAYがメジャーデビュー。それを追うように44MAGNUM、MAKE-UP、MARINO、RAJAS、魔女卵...と続々とレーベルとサインを交わす...。これを昭和のバブルメタルと言う(よっしゃあ!のってきよったでえ。ほんでも行数がなくなってきたよ。"とりとめもない話"でなんとか編集長が調整してくれるやろ...)

海の向こうでのNWOBHM(New Wave Of British Heavy Metalの略ね。マジに質問が多い)がこの日本に上陸したのもブームというものに拍車をかけた。まさにフォローの風が吹くのみ。X-RAYの曲はNWOBHMの仕掛け人、ニール・ケイのサウンドハウスでHMチャート3位まで上がって海の向こうにまでブームを逆輸入してまうわで、SMS RECORDSから「漆黒の重戦車」というキャッチフレーズでデビューしたMARINOのアルバムの雑誌広告はもっとすごい。同時期デビューのヨーロッパ暗黒HMの帝王MARCYFUL FATEと西ドイツの強力新人MADMAXなどを同じページの5分の1ぐらいの扱いで隅に追いやり(そやから日本ではこのバンドらは売れんかったんちゃうか)これに驚いてはいけな、85年にはYNGWIE様の前座をお勤めするまでになるのやった。

ありきたりの音楽に飽き、テクノ、フュージョン、サーフ・ミュージック、ニューミュージックという拡散されたエア・ポケット状態を82年から急激な上昇カーブを描き84年、ついにGRAND METAL EVENTで頂点を極めることになる。だが...あまりにの底辺拡大とバンドの乱立、すぐにメジャーデビューできるというレコード会社の青田買い現象の中、自分らの音を見失うバンドが出現する兆候もでてきたのである。「東京とメジャーサイン」という言葉に躍らされた副作用が出てきはしたが、関東のHMバンドも続々レーベルとサインする中、どっこい次の出番を待つ「なにわナンバー」のHMバンドは、オリジナリティーを確立して次期天下取りのXデイに向かって着々と深く計画を潜行させているのであった。以下後半につづく...

苦情・質問はこちらへ。

c/o HR/HM LABORATORY KOICHIRO KANEDA

1-4-27 OKAKAMINO-CHO TOYONAKA CITY OSAKA #560 JAPAN

KABBALA読者の為

現在入手可能な関西重金属音盤CD5選

魅惑劇 / NOVELA(80年3月5日発表)

現在のヴィジュアル系バンドの元祖。中性志向のファッションと派手なステージングは当時のシーンにインパクトを与えた。海外でも輸入盤として売れた。

THE BIRTHDAY EVE / LOUDNESS

(81年11月25日発表)

洋楽信者の評論家とリスナーの耳を傾けさせた功績は大きい。二井原のVOスタイルと高崎のGワークは圧巻。この一枚で名実共に日本HMの頂点に立った。

魔天 - HARD SECTION / X-RAY

(83年6月21日発表)

関西ではノー・マークだった若干17才の湯浅晋の天才的Gプレーが話題となった。デビュー・アルバムと思えない高水準な作品だ。

DANGER / 44MAGNUM(83年12月21日発表)

洋楽リスナーは拒絶反応を示す金髪デビューを飾った彼らだがLOUDNESS、EARTHSHAKERとは違うストレートかつスピーディなサウンドでシーンのブームを作り上げた。

BATTLE OF METAL

/ MARINO, RAJAS, HURRY SCUARY, SEXUAL

(84年2月1日発表)

第一弾がメジャーに進出した後、関西ライブハウスシーンを支えたUN-SIGN4バンドのオムニバス。MARINOがクオリティー、演奏レベル共他のバンドに差をつけている。





情報・投稿なんでも待っています 原稿を書いてくれるライターさんも 大募集中です！

感想・意見・批判etcなんでも結構
連絡はこちらへ

〒274 千葉県船橋市咲が丘3-5-17 杉浦 康司



KABBALAを売っているのは

DISK UNIONの各店(東京近県)
DISK HEAVEN(新宿・名古屋・大阪)
POISON CHILD'zineの児玉さん(名古屋)
LIVE HOUSE音屋敷の中澤さん(松本)
ex-UBIGUNの神永さん(札幌)
DISK NOTE仙台1号店(仙台)

郵送の場合には送料として190円切手を同封の上、**郵送特価250円分**の切手を合わせて上記の住所に送ってください。



バックナンバーについて

現在在庫があるのは以下の物のみです。

#9 (95.11) HIDDEN / TERROR SQUAD / HALFLIFE(32P) ¥150...残り2部
#10 (96.4) SILVER BACK / GOATS / STONE EDGE (32P) ¥150...残り6部
#11 (96.7) VIGILANTE / SIGH / CEMENT (36P) ¥250...残りたくさん(50部位)
残り部数は10月7日現在のものです。#1~#8は完売御礼、原則的に再発はしません。バックナンバーを希望する方はその号の金額に送料として190円分の切手を同封してお送り下さい(2冊以上の場合は270円切手の方が安心)。宜しくお願いします。今回初めてかばらを手にした人に忠告させていただきますが、#10以前のかばらはコピー誌ですので、内容的には特に変わっていないと思いますが、見た目はちゃっちいのでとりあえず念のため。もしも既に無くなってしまっていたら御免なさいね。

戯言たわごと

製本化第二弾！となるはずだったんですけど...色々検討した結果またコピー誌に戻ってしまいました。印刷は難しいやね。物事うまくいかんもんだわ。前回結果的に持ち出しになってしまいましたが、これも勉強だと思って今後に活かしたいと思います。継続は力なり。前にも言ったっけ。青天の霹靂！その2、小島記者までもが週プロを退く...。小島さんの記事が好きだったのになあ。うちはBURRN!!とか週プロみたいな「個人の主観」がバリバリ出てた雑誌に少なからず影響されているので(最近BURRN!!も読まなくなっただけ、みんな最初は読んでたでしょ？)殆どの文章は署名原稿です。それでも構わないという人は是非一緒にかばら作りに参加してみませんか。特に条件はありませんので

少しでも興味を持った方はその旨手紙で教えていただきたいと思います。詳しくはTELでお話ししましょう。うちで書くことはそんなに難しくない事だと思うよ、多分。この前、読者の方に長いこと私のたわいもない話に付き合っていたのだが、その時印象に残ったのが、「メロデスは究極までいったデスのメタルへの先祖帰りだ」という私の考えに対して「メロデスは80年代のメタルがアグレッシブに進化した姿だ」という返答だった。似て否なる見解、どうですか？ またページが増えた...今度は40Pだ。最初は20Pのへたくそなワープロ打ちが今やAll in Macだもんねえ。8/10JWP後楽園大会は良かった！はっきり言ってこの日以降の久住は化けた。試合に負けん気が出てきたし、迫力が出てきた。vs宮崎だった宮崎凱旋興行の9/27豊田市大会では隣の人が久住を指して「あの娘、格上？」と連発に聞いていたのが印象的だった。...とりとめが短かったからってここに書く事でもないんだけどね(笑) ところでマル秘企画って何だったの？

次号 #13 予告

次号のインタビューもやっぱりバンド側への打診を済ませていない状況なのではっきりとバンド名をお知らせする事は出来ませんが(いつもやないかい!) 次号は総力を上げた(本当?) 北海道特集! という事で、その辺のバンドを2つ程インタビューしてみようかと考えています。もうおわかりですね。他にも本当に色々と考えているのですが、あくまで構想段階なので断言するのは避けさせていただきます。次号は来年1月18日発売です。なんか最近3ヶ月周期でちゃんと? 出してるので本当に季刊誌みたいです。今回もいつも通り予定より遅れてしまいましたが、次こそは大丈夫...かなあ。とにかく次も頑張りますので、気に入ってくれた人は是非次号も買ってくださいね。

ありがとう SPECIAL THANKS TO

金田興一郎さん、多田S.S.M.進さん、西尾勝則さん、DEFILEDの皆様、DESPERATE CORRUPTIONの前田さん、ETERNAL ELYSIUMの岡崎さん、D.L.Sの坪井さん、テープを送ってくれたバンドの皆様、情報を提供して下さった皆様、買ってくれた皆様

KABBALA #12

編集・発行 杉浦 康司
執筆 金田 興一郎
杉浦 康司
多田 進

第1刷 平成8年10月28日発行
第2刷 平成8年11月18日発行
(総発行部数300部)

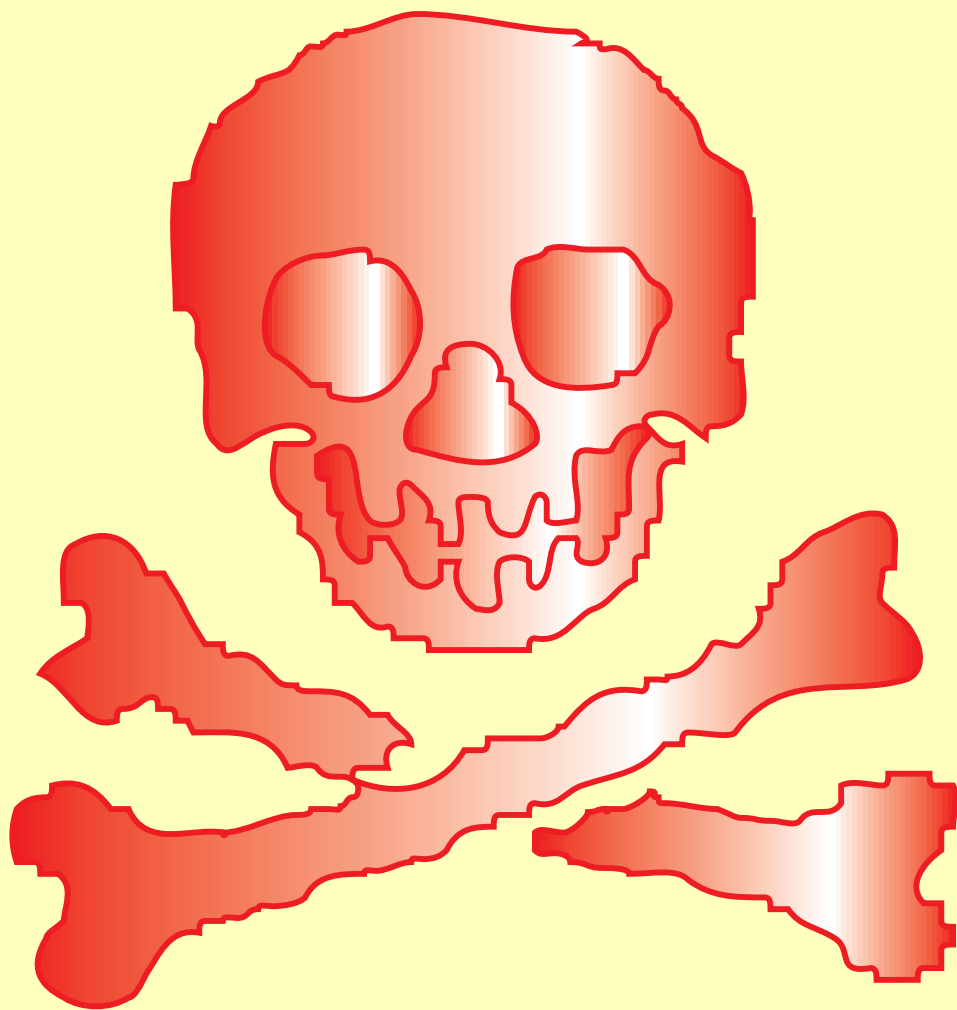
前号のお詫びと訂正: 横浜のメタル・サークル「METAL MUTHAS」をこちらの全くの勘違いからファンジンとしてしまいました。綴りも全然違っただけで、合わせてお詫びして訂正させていただきます。あとCATASEXUAL URGE MOTIVATIONはSM・ポルノ系ではなく殺人・猟奇系だそうです。知識不足でした。

検印

この検印が無き物
かばらと認めず



KABALA#12 第12号第2刷 平成8年10月28日発行（総発行部数 300部）定価300円（税込）
発行責任者 杉浦康司 複写 SPAR西千葉店



HEAVY METAL NEW GENERATION

¥300